１．主たる業種別労働災害発生状況（１月～１２月）

休業４日以上の死傷者数 （うち死亡者数）	令和元年		平成30年同期		令和元年と平成30年の比較		
					増減数		増減％
全産業	2,432人	（17人）	2,589人	（23人）	−157人	（　−6　人）	−6.1%
製造業	465人	（1人）	502人	（4人）	−37人	（　−3　人）	−7.4%
建設業	352人	（7人）	336人	（7人）	16人	（　0　人）	4.8%
陸上貨物運送事業	349人	（2人）	350人	（5人）	−1人	（　−3　人）	−0.3%
林業	26人	（1人）	32人	（1人）	−6人	（　0　人）	−18.8%
第三次産業	1,133人	（5人）	1,258人	（5人）	−125人	（　0　人）	−9.9%
商業	436人	（0人）	467人	（2人）	−31人	（　−2　人）	−6.6%
小売業	324人	（0人）	329人	（2人）	−5人	（　−2　人）	−1.5%
社会福祉施設	208人	（0人）	203人	（0人）	5人	（　0　人）	2.5%
上記以外の業種の合計	107人	（1人）	111人	（1人）	−4人	（　0　人）	−3.6%

○休業4日以上の死傷者数（うち死亡者数）

発　生　年	平成30年（1～12月）	平成29年（1～12月）	増減数	増減％
休業4日以上の死傷者数（うち死亡者数）	2,589人（23人）	2,385人（17人）	204（6人）	8.6%

2. 業種別年別労働災害発生状況

	平成28年 1月～12月			平成29年 1月～12月			平成30年 1月～12月			令和元年（平成31年） 1月～12月								
	死傷	死亡	死傷構成比	死傷	死亡	死傷構成比	死傷	死亡	死傷構成比	死傷	死亡	死傷構成比	対28年死傷比較 増減数	対28年死傷比較 増減率	対29年死傷比較 増減数	対29年死傷比較 増減率	対30年死傷比較 増減数	対30年死傷比較 増減率
全産業合計	2,467	16	100.0%	2,385	17	100.0%	2,589	23	100.0%	2,432	17	100.0%	−35	−1.4%	47	2.0%	−157	−6.1%
製造業	474	4	19.2%	473	1	19.8%	502	4	19.4%	465	1	19.1%	−9	−1.9%	−8	−1.7%	−37	−7.4%
食料品製造業	215	1	8.7%	203		8.5%	224		8.7%	223		9.2%	8	3.7%	20	9.9%	−1	−0.4%
水産食料品製造業	86	1	3.5%	69		2.9%	67		2.6%	78		3.2%	−8	−9.3%	9	13.0%	11	16.4%
その他	129		5.2%	134		5.6%	157		6.1%	145		6.0%	16	12.4%	11	8.2%	−12	−7.6%
繊維工業･衣服その他の繊維製品製造業	7	1	0.3%	1		0.0%	7		0.3%	5		0.2%	−2	−28.6%	4	400.0%	−2	−28.6%
木材・木製品製造業	14		0.6%	23		1.0%	23		0.9%	22		0.9%	8	57.1%	−1	−4.3%	−1	−4.3%
家具・装備品製造業	3		0.1%				6		0.2%	5		0.2%	2	66.7%	5		−1	−16.7%
パルプ・紙・紙加工品製造業	4		0.2%	6		0.3%	5		0.2%	5		0.2%	1	25.0%	−1	−16.7%		
印刷・製本業	6		0.2%	16		0.7%	6		0.2%	4		0.2%	−2	−33.3%	−12	−75.0%	−2	−33.3%
化学工業	20		0.8%	19		0.8%	20		0.8%	16		0.7%	−4	−20.0%	−3	−15.8%	−4	−20.0%
窯業・土石製品製造業	26	1	1.1%	20		0.8%	25		1.0%	21		0.9%	−5	−19.2%	1	5.0%	−4	−16.0%
鉄鋼業・非鉄金属製造業	10		0.4%	9	1	0.4%	11	1	0.4%	12	1	0.5%	2	20.0%	3	33.3%	1	9.1%
金属製品製造業	53		2.1%	43		1.8%	57		2.2%	41		1.7%	−12	−22.6%	−2	−4.7%	−16	−28.1%
一般機械器具製造業	20		0.8%	18		0.8%	17		0.7%	15		0.6%	−5	−25.0%	−3	−16.7%	−2	−11.8%
電気機械器具製造業	31		1.3%	27		1.1%	20		0.8%	27		1.1%	−4	−12.9%			7	35.0%
輸送用機械等製造業	28		1.1%	32		1.3%	28	3	1.1%	26		1.1%	−2	−7.1%	−6	−18.8%	−2	−7.1%
造船業	13		0.5%	12		0.5%	14	3	0.5%	11		0.5%	−2	−15.4%	−1	−8.3%	−3	−21.4%
その他	15		0.6%	20		0.8%	14		0.5%	15		0.6%			−5	−25.0%	1	7.1%
電気・ガス・水道業	2		0.1%	4		0.2%	5		0.2%	6		0.2%	4	200.0%	2	50.0%	1	20.0%
その他の製造業	35	1	1.4%	52		2.2%	48		1.9%	37		1.5%	2	5.7%	−15	−28.8%	−11	−22.9%
鉱業	8		0.3%	8		0.3%	10		0.4%	4		0.2%	−4	−50.0%	−4	−50.0%	−6	−60.0%
土石採取業	7		0.3%	8		0.3%	9		0.3%	4		0.2%	−3	−42.9%	−4	−50.0%	−5	−55.6%
その他	1		0.0%				1		0.0%				−1	−100.0%			−1	−100.0%
建設業	432	5	17.5%	350	5	14.7%	336	7	13.0%	352	7	14.5%	−80	−18.5%	2	0.6%	16	4.8%
土木工事業	149	4	6.0%	123	2	5.2%	123	2	4.8%	111	4	4.6%	−38	−25.5%	−12	−9.8%	−12	−9.8%
建築工事業	239	1	9.7%	179	3	7.5%	156	3	6.0%	191	3	7.9%	−48	−20.1%	12	6.7%	35	22.4%
鉄骨･鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	60	1	2.4%	48	2	2.0%	43	2	1.7%	48	1	2.0%	−12	−20.0%			5	11.6%
木造家屋建築工事業	120		4.9%	86		3.6%	54		2.1%	80	2	3.3%	−40	−33.3%	−6	−7.0%	26	48.1%
建築設備工事業	22		0.9%	17	1	0.7%	18	1	0.7%	19		0.8%	−3	−13.6%	2	11.8%	1	5.6%
その他の建築工事業	37		1.5%	28		1.2%	41		1.6%	44		1.8%	7	18.9%	16	57.1%	3	7.3%
その他の建設業	44		1.8%	48		2.0%	57	2	2.2%	50		2.1%	6	13.6%	2	4.2%	−7	−12.3%
運輸交通業	353		14.3%	378	2	15.8%	377	4	14.6%	386	2	15.9%	33	9.3%	8	2.1%	9	2.4%
鉄道・軌道・水運・航空業	4		0.2%	13		0.5%	5		0.2%	4		0.2%			−9	−69.2%	−1	−20.0%
道路旅客運送業	52		2.1%	47		2.0%	36		1.4%	43		1.8%	−9	−17.3%	−4	−8.5%	7	19.4%
道路貨物運送業	292		11.8%	313	2	13.1%	332	4	12.8%	338	2	13.9%	46	15.8%	25	8.0%	6	1.8%
その他の運輸交通業	5		0.2%	5		0.2%	4		0.2%	1		0.0%	−4	−80.0%	−4	−80.0%	−3	−75.0%
貨物取扱業	13		0.5%	18		0.8%	29	1	1.1%	21		0.9%	8	61.5%	3	16.7%	−8	−27.6%
陸上貨物取扱業	13		0.5%	11		0.5%	18	1	0.7%	11		0.5%	−2	−15.4%			−7	−38.9%
港湾運送業				7		0.3%	11		0.4%	10		0.4%	10		3	42.9%	−1	−9.1%
農業	14		0.6%	12		0.5%	26	1	1.0%	19	1	0.8%	5	35.7%	7	58.3%	−7	−26.9%
林業	37	1	1.5%	29		1.2%	32	1	1.2%	26	1	1.1%	−11	−29.7%	−3	−10.3%	−6	−18.8%
畜産業・水産業	21		0.9%	17	1	0.7%	19		0.7%	26		1.1%	5	23.8%	9	52.9%	7	36.8%
商業	438	1	17.8%	376	5	15.8%	467	2	18.0%	436		17.9%	−2	−0.5%	60	16.0%	−31	−6.6%
卸売業・小売業	386	1	15.6%	339	4	14.2%	415	2	16.0%	395		16.2%	9	2.3%	56	16.5%	−20	−4.8%
その他	52		2.1%	37	1	1.6%	52		2.0%	41		1.7%	−11	−21.2%	4	10.8%	−11	−21.2%
金融･広告業	32	2	1.3%	33		1.4%	26		1.0%	25		1.0%	−7	−21.9%	−8	−24.2%	−1	−3.8%
映画･演劇業				1		0.0%				1		0.0%	1				1	
通信業	54		2.2%	53		2.2%	50		1.9%	42	1	1.7%	−12	−22.2%	−11	−20.8%	−8	−16.0%
教育･研究業	10		0.4%	17	1	0.7%	29		1.1%	23		0.9%	13	130.0%	6	35.3%	−6	−20.7%
保健衛生業	213		8.6%	229		9.6%	261		10.1%	242		10.0%	29	13.6%	13	5.7%	−19	−7.3%
接客娯楽業	170		6.9%	175		7.3%	168	1	6.5%	161		6.6%	−9	−5.3%	−14	−8.0%	−7	−4.2%
旅館業	33		1.3%	42		1.8%	43	1	1.7%	28		1.2%	−5	−15.2%	−14	−33.3%	−15	−34.9%
ゴルフ場	12		0.5%	10		0.4%	11		0.4%	11		0.5%	−1	−8.3%	1	10.0%		
その他	125		5.1%	123		5.2%	114		4.4%	122		5.0%	−3	−2.4%	−1	−0.8%	8	7.0%
清掃･と畜業	108	1	4.4%	110	2	4.6%	134	1	5.2%	102	1	4.2%	−6	−5.6%	−8	−7.3%	−32	−23.9%
ビルメンテナンス業	48	1	1.9%	63		2.6%	75		2.9%	41		1.7%	−7	−14.6%	−22	−34.9%	−34	−45.3%
廃棄物処理業	51		2.1%	41	2	1.7%	53	1	2.0%	54	1	2.2%	3	5.9%	13	31.7%	1	1.9%
その他	9		0.4%	6		0.3%	6		0.2%	7		0.3%	−2	−22.2%	1	16.7%	1	16.7%
官公署	1		0.0%	2		0.1%	2		0.1%	1		0.0%			−1	−50.0%	−1	−50.0%
その他の事業	89	2	3.6%	104		4.4%	121	1	4.7%	100	3	4.1%	11	12.4%	−4	−3.8%	−21	−17.4%
警備業	43	1	1.7%	23		1.0%	48		1.9%	23	2	0.9%	−20	−46.5%			−25	−52.1%
その他	46	1	1.9%	81		3.4%	73	1	2.8%	77	1	3.2%	31	67.4%	−4	−4.9%	4	5.5%

陸上貨物運送業	305		12.4%	324	2	13.6%	350	5	5.8%	349	2	14.4%	44	14.4%	25	7.7%	−1	−0.3%
第三次産業	1,115	6		1,100	8		1,258	5		1,133	5	46.6%	18	1.6%	33	3.0%	−125	−9.9%
小売業	310		12.6%	286	3	12.0%	329	2	4.8%	324		13.3%	14	4.5%	38	13.3%	−5	−1.5%
飲食店	96			105			94			92		3.8%	−4	−4.2%	−13	−12.4%	−2	−2.1%
社会福祉施設	170		6.9%	171		7.2%	203		2.9%	208		8.6%	38	22.4%	37	21.6%	5	2.5%

1 死傷者数は労働者死傷病報告（休業4日以上）、死亡者数は死亡災害報告により計上しています。

2 陸上貨物運送事業は、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業を合計したものです。

3 第三次産業は、商業、金融･広告業、映画･演劇業、通信業、教育･研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃･と畜業、官公署、その他の事業の合計です。

３．労働基準監督署別労働災害発生状況（1月～12月確定）

○監督署別（１月～１２月）

	令和元年	平成30年同期	令和元年と平成30年との比較	
			増減数	増減％
休業４日以上の死傷者数（うち死亡者数）	2,432人 （ 17 人）	2,589人 （ 23 人）	−157人	−6.1%
仙台署	1,458人 （ 9 人）	1,564人 （ 8 人）	−106人	−6.8%
石巻署	364人 （ 5 人）	382人 （ 7 人）	−18人	−4.7%
古川署	290人 （ 0 人）	284人 （ 4 人）	6人	2.1%
大河原署	182人 （ 2 人）	194人 （ 1 人）	−12人	−6.2%
瀬峰署	138人 （ 1 人）	165人 （ 3 人）	−27人	−16.4%

○ 年別の労働災害発生状況（1月～12月）

発 生 年	平成30年	平成29年	増減％
休業4日以上の死傷者数 （うち死亡者数）	2,589人 （23人）	2,385人 （17人）	8.6%

4. 労働基準監督署別・業種別　労働災害発生状況(1月～12月)

	仙台署					石巻署					古川署					大河原署					瀬峰署				
	令和元年		30年		増減数	令和元年		30年		増減数	令和元年		30年		増減数	令和元年		30年		増減数	令和元年		30年		増減数
	死傷	死亡	死傷	死亡		死傷	死亡	死傷	死亡		死傷	死亡	死傷	死亡		死傷	死亡	死傷	死亡		死傷	死亡	死傷	死亡	
全産業合計	1,458	9	1,564	8	-106	364	5	382	7	-18	290		284	4	6	182	2	194	1	-12	138	1	165	3	-27
製造業	193		215	1	-22	110		109	3	1	75		78		-3	60	1	63		-3	27		37		-10
食料品製造業	111		101		10	63		62		1	26		21		5	17		22		-5	6		18		-12
水産食料品製造業	23		15		8	49		49			2				2	4		3		1					
その他	88		86		2	14		13		1	24		21		3	13		19		-6	6		18		-12
繊維工業・衣服その他の繊維製品製造業	1		2		-1			2		-2						1				1	3		3		
木材・木製品製造業	2		4		-2	8		8			6		6			2		4		-2	4		1		3
家具・装備品製造業	3		2		1	2		2										2		-2					
パルプ・紙・紙加工品製造業	1		2		-1	1		2		-1			1		-1	3				3					
印刷・製本業	3		4		-1			2		-2											1				1
化学工業	3		10		-7	2		1		1	4		2		2	6		6			1		1		
窯業・土石製品製造業	10		12		-2	3				3	3		9		-6	3		4		-1	2				2
鉄鋼業・非鉄金属製造業	3		5		-2	2		2	1		2		1		1	4	1	2		2	1		1		
金属製品製造業	13		19		-6	3		8		-5	14		17		-3	10		9		1	1		4		-3
一般機械器具製造業	4		5		-1	7		4		3	1		1					6		-6	3		1		2
電気機械器具製造業	2		4		-2	4				4	15		8		7	6		5		1			3		-3
輸送用機械等製造業	5		9	1	-4	12		10	2	2	2		5		-3	7		2		5			2		-2
造船業			4	1	-4	11		10	2	1															
その他	5		5			1				1	2		5		-3	7		2		5			2		-2
電気・ガス・水道業	5		5																		1				1
その他の製造業	27		31		-4	3		6		-3	2		7		-5	1		1			4		3		1
鉱業	1		5		-4	2				2			1		-1	1		2		-1			2		-2
土石採取業	1		4		-3	2				2			1		-1	1		2		-1			2		-2
その他			1		-1																				
建設業	174	2	169	2	5	88	3	80	1	8	37		34	3	3	27	1	24		3	26	1	29	1	-3
土木工事業	43		53		-10	31	2	33		-2	13		14	1	-1	12	1	13		-1	12	1	10	1	2
建築工事業	106	2	79	2	27	42	1	37	1	5	18		14		4	14		8		6	11		18		-7
鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	30	1	27	1	3	9		7	1	2	6		3		3	2		1		1	1		5		-4
木造家屋建築工事業	38	1	17		21	23	1	21		2	11		7		4	5		2		3	3		7		-4
建築設備工事業	15		12	1	3	2		2								2		1		1			3		-3
その他の建築工事業	23		23			8		7		1	1		4		-3	5		4		1	7		3		4
その他の建設業	25		37		-12	15		10		5	6		6	2		1		3		-2	3		1		2
運輸交通業	294	1	296	2	-2	32	1	25	2	7	39		37		2	8		11		-3	13		8		5
鉄道・軌道・水運・航空業	4		5		-1																				
道路旅客運送業	40		34		6	3		1		2			1		-1										
道路貨物運送業	250	1	254	2	-4	29	1	24	2	5	39		35		4	8		11		-3	12		8		4
その他の運輸交通業			3		-3								1		-1						1				1
貨物取扱業	16		28	1	-12	3		1		2	1				1						1				1
陸上貨物取扱業	8		18	1	-10	1				1	1				1						1				1
港湾運送業	8		10		-2	2		1		1															
農業	8	1	6		2	3		3			5		4		1			8	1	-8	3		5		-2
林業	3	1	2		1	5		10		-5	2		7	1	-5	12		8		4	4		5		-1
畜産業・水産業	1		2		-1	9		5		4	6		6			5		5			5		1		4
商業	300		320	1	-20	38		58		-20	50		36		14	26		28		-2	22		25	1	-3
卸売業・小売業	270		280	1	-10	33		53		-20	49		34		15	22		24		-2	21		24	1	-3
その他	30		40		-10	5		5			1		2		-1	4		4			1		1		
金融・広告業	18		21		-3	3				3	2		2			1				1	1		3		-2
映画・演劇業	1				1																				
通信業	29	1	33		-4	1		6		-5	6		3		3	3		6		-3	3		2		1
教育・研究業	18		24		-6						2		3		-1	3				3			2		-2
保健衛生業	142		150		-8	32		35		-3	34		40		-6	13		8		5	21		28		-7
接客娯楽業	117		118		-1	8		15	1	-7	18		15		3	14		17		-3	4		3		1
旅館業	18		24		-6	1		8	1	-7	3		6		-3	5		4		1	1		1		
ゴルフ場	6		7		-1						3		2		1	2		2							
その他	93		87		6	7		7			12		7		5	7		11		-4	3		2		1
清掃・と畜業	68	1	88	1	-20	18		18			8		12		-4	4		10		-6	4		6		-2
ビルメンテナンス業	34		62		-28	3		6		-3	3		3					1		-1	1		3		-2
廃棄物処理業	27	1	24	1	3	15		11		4	5		8		-3	4		7		-3	3		3		
その他	7		2		5			1		-1			1		-1			2		-2					
官公署			1		-1	1		1																	
その他の事業	75	2	86		-11	11	1	16		-5	5		6		-1	5		4		1	4		9	1	-5
警備業	16	2	29		-13	4		12		-8	2		3		-1			1		-1	1		3		-2
その他	59		57		2	7	1	4		3	3		3			5		3		2	3		6	1	-3

陸上貨物運送業	258	1	272	3	-14	30	1	24	2	6	40		35		5	8		11		-3	13		8		5
第三次産業	768	4	841	2	-73	112	1	149	1	-37	125		117		8	69		73		-4	59		78	2	-19
小売業	221		216	1	5	29		44		-15	38		26		12	17		22		-5	19		21	1	-2
飲食店	73		79		-6	6		6			7		2		5	4		5		-1	2		2		
社会福祉施設	117		111		6	31		24		7	30		36		-6	10		6		4	20		26		-6

1 死傷者数は労働者死傷病報告(休業4日以上)、死亡者数は死亡災害報告により計上しています。
2 陸上貨物運送事業は、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業を合計したものです。
3 第三次産業は、商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、官公署、その他の事業の合計です。

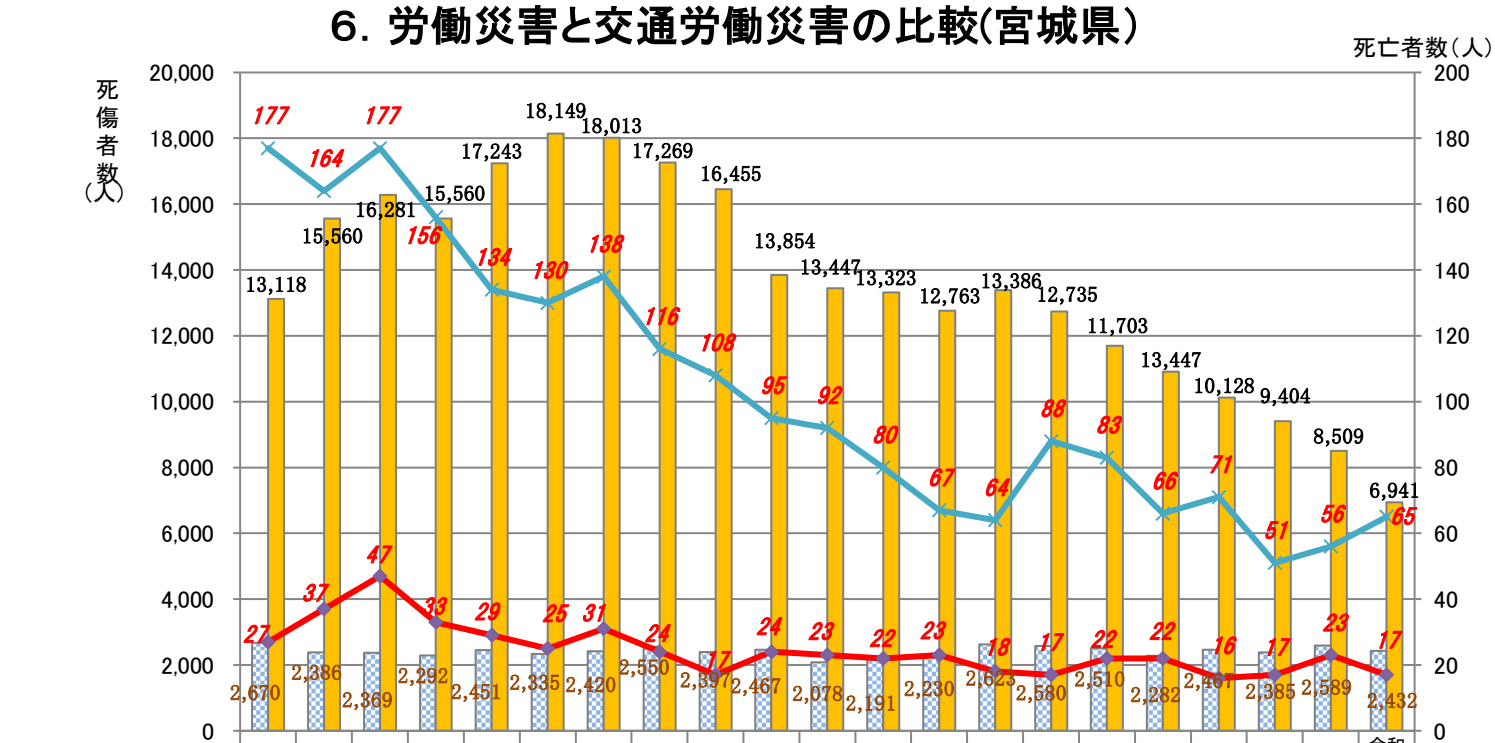
5. 死亡災害概要

＝東日本大震災復旧作業

番号	発生年月 時間帯	事故の型 起因物	業種 労働者数	災害の内容
1	H31.2 10時頃	墜落、転落 足場	土木工事業 (3.1.11) 1～9人	防潮堤工事現場において、高さ約５ｍの防潮堤の上に設置された仮設足場に乗り、天端仕上げ作業の準備中、強風により当該足場と共に墜落し、数日後に死亡した。
2	H31.2 7時頃	交通事故 (道路) トラック	一般貨物運送 事業（4.3.1） 50～99人	公道脇にある小売店の駐車場でトラックにタイヤチェーンの装着作業を行っていたところ、公道を走行していたトラックが凍結した路面でスリップし、激突した。
3	H31.2 15時頃	交通事故 (道路) トラック	通信業 (11.1.1) 100～199人	作業の下見のため、県道交差点を自転車で走行中、左側から走行してきたトラックに衝突された。
4	H31.3 3時頃	おぼれ 乗用車	警備業 (17.2.1) 200～299人	社有車で街灯のない港の巡回警備を行っていたところ、社有車ごと海に転落し運転手が溺死した。
5	H31.4 15時頃	激突され 伐木等機械	林業 (6.2.9) 1～9人	民家裏山において立木（直径約４０㎝）の伐採作業中、林業用重機で立木を押し倒したところ、立木付近にいた被災者に立木が激突した。
6	H31.4 11時頃	墜落、転落 屋根	木造家屋建築 工事業 (3.2.2) 1～9人	雨どいの設置工事の為、高さ約５ｍの屋根上で作業を行っていたところ墜落した。
7	H31.4 10時頃	激突され 掘削用機械	土地整理土木 工事業 (3.1.9) 1～9人	宅地の地ならし作業中、ドラグショベル付近にいた被災者が後退してきたドラグショベルに轢かれた。
8	R1.5 13時頃	墜落、転落 はり	木造家屋建築 工事業 (3.2.2) 1～9人	高さ約４ｍの梁上で、梁間につなぎを入れようと片足をつなぎに乗せた状態で、掛矢でつなぎを打ったところ、つなぎがホゾからはずれ、つなぎもろとも墜落した。
9	R1.5 13時頃	激突され クレーン	製鉄・製鋼・ 圧延業 (1.10.1) 300～399人	門型クレーンで、荷の移動作業を一人で行っていた被災者が、架台の上で荷の下敷きとなった。
10	R1.7 8時頃	激突され 掘削用機械	土木工事業 (3.1.11) 1～9人	ドラグショベルでの土砂掘削作業中、掘削作業の指示者が海中の掘削箇所を確認するためにショベルの旋回範囲内に進入（潜水）し、バケットが被災者に激突した。
11	R1.7 3時頃	交通事故 (道路) トラック	一般貨物運送 事業（4.3.1） 10～49人	建設現場に工事資材を運搬したダンプトラックが、帰社途中に民家のブロック塀に激突した。
12	R1.7 6時頃	墜落、転落 建築物、 構築物	その他の事業 (17.2.9) 10～49人	建屋４階の網戸取り付け作業中、誤って転落した。

番号	発生年月 時間帯	事故の型 起因物	業種 労働者数	災害の内容
13	H31.4 6時頃	交通事故（道路） 乗用車	警備業（17.2.1） 1～9人	建設工事現場の警備業務に向かうため乗用車で国道を移動中、交差点で信号を右折しようとした際に、対向車線を直進してきた軽ワゴン車と衝突し、後部座席に乗車していた被災者が死亡した。
14	R1.9 15時頃	交通事故（道路） トラック	農業（6.1.1） 1～9人	高速道路の料金所から本線に向かっていた２ｔトラックが、カーブで横転し、中央分離帯のガードレールと対向車線を走行していた軽トラックと衝突した。（２ｔトラックの運転手が死亡）
15	R1.10 9時頃	墜落、転落 地山、岩石	河川土木工事業（3.1.7） 10～49人	台風１９号通過後の現場状況の確認のために、現場内の仮設工事用道路を車で走行していたところ、増水により崩壊・陥没した仮設工事用道路から車ごと河川に落下した。
16	R1.12 15時頃	激突され 解体用機械	清掃業（15.1.3） 10～49人	廃棄物処分場内で廃棄作業の準備を行っていたところ、後退してきたグラップルに轢かれた。
17	R1.12 8時頃	崩壊、倒壊 移動式クレーン	鉄骨・鉄筋コンクリート造建築工事業（3.2.1） 10～49人	つり上げ荷重８０ｔの移動式クレーンで、重さ約１０ｔのつり荷を作業構台から移動するために吊り上げ、旋回したところ、移動式クレーンが横転し、クレーンブームが、現場敷地内に駐車していた車両数台に直撃した。（死亡1名）

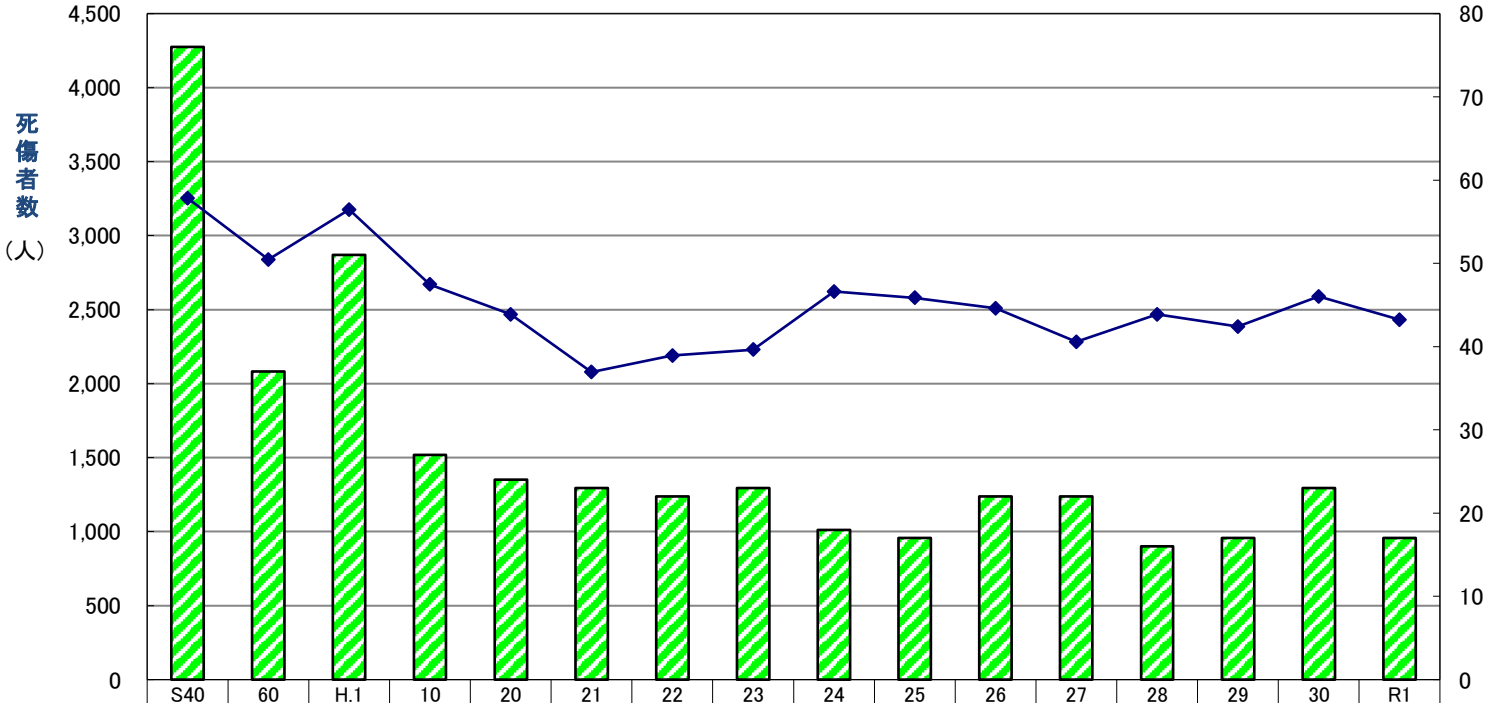
6. 労働災害と交通労働災害の比較(宮城県)



	10年	11年	12年	13年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
労働災害:死傷者数	2,670	2,386	2,369	2,292	2,451	2,335	2,420	2,550	2,397	2,467	2,078	2,191	2,230	2,623	2,580	2,510	2,282	2,467	2,385	2,589	2,432
交通事故:死傷者数	13,118	15,560	16,281	15,560	17,243	18,149	18,013	17,269	16,455	13,854	13,447	13,323	12,763	13,386	12,735	11,703	10,913	10,128	9,404	8,509	6,941
労働災害:死亡者数	27	37	47	33	29	25	31	24	17	24	23	22	23	18	17	22	22	16	17	23	17
交通事故:死亡者数	177	164	177	156	134	130	138	116	108	95	92	80	67	64	88	83	66	71	51	56	65

注:労働災害は、休業4日以上の死傷者数で、宮城労働局労働基準部健康安全課調べ
交通事故は、宮城県警察本部交通企画課調べ

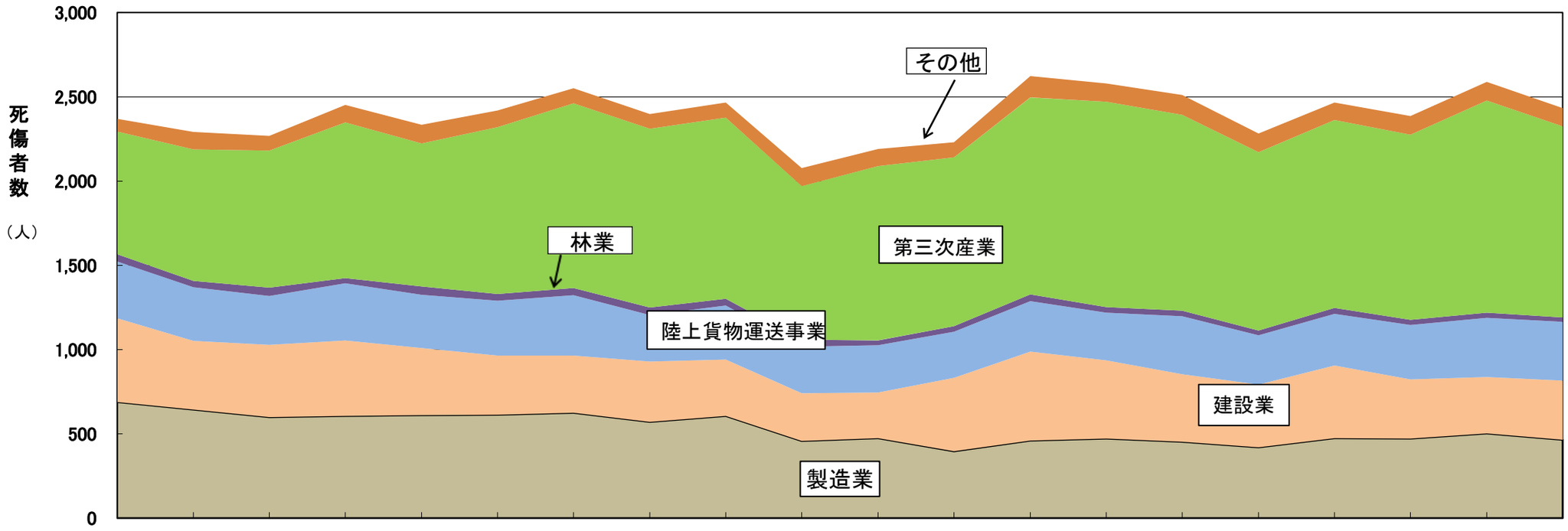
7. 労 働 災 害 の 推 移



	S40	60	H.1	10	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
死亡	76	37	51	27	24	23	22	23	18	17	22	22	16	17	23	17
死傷	3,253	2,838	3,176	2,670	2,467	2,078	2,191	2,230	2,623	2,580	2,510	2,282	2,467	2,385	2,589	2,432

1 休業4日以上の労働災害により休業した人数は、平成21年に2,078人と過去最少を記録した以降、増減を繰り返している。
2 死亡者数は、令和元年が17人となっており、20人前後での増減を繰り返している。

8. 主要業種別死傷災害の推移 （休業4日以上）



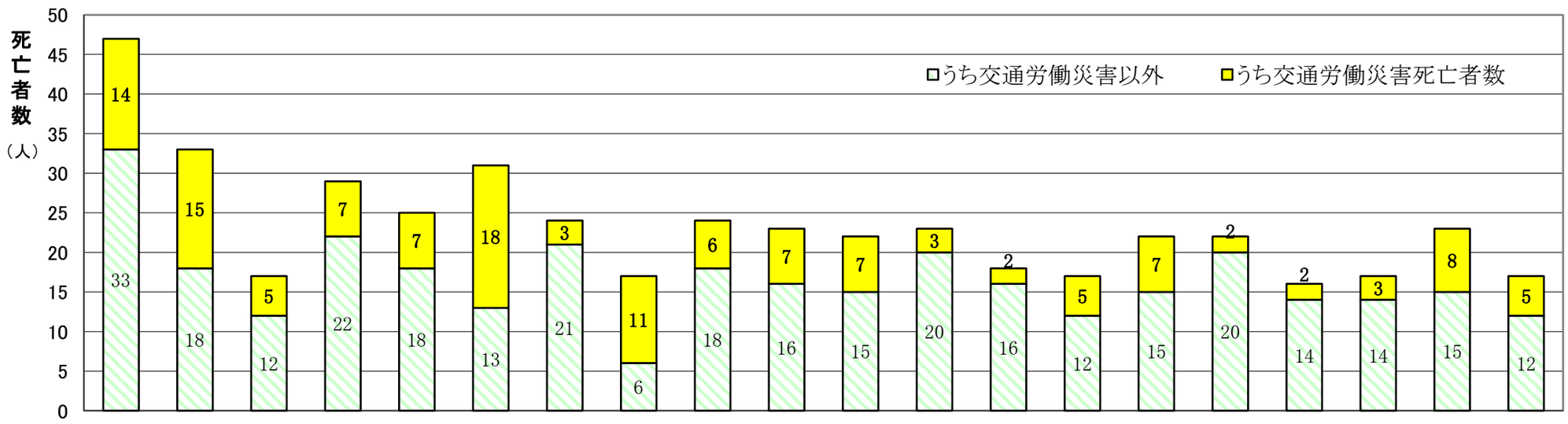
	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
全産業	2,369	2,292	2,269	2,451	2,335	2,420	2,550	2,397	2,467	2,078	2,191	2,230	2,623	2,580	2,510	2,282	2,467	2,385	2,589	2,432
製造業	689	643	600	606	610	614	626	571	607	457	474	397	460	471	452	421	474	473	502	465
製造業の全産業に占める割合	*29.1%*	*28.1%*	*26.4%*	*24.7%*	*26.1%*	*25.4%*	*24.5%*	*23.8%*	*24.6%*	*22.0%*	*21.6%*	*17.8%*	*17.5%*	*18.3%*	*18.0%*	*18.4%*	*19.2%*	*19.8%*	*19.4%*	*19.1%*
建設業	497	408	429	447	399	351	339	359	334	284	271	436	527	465	402	372	432	350	336	352
建設業の全産業に占める割合	*21.0%*	*17.8%*	*18.9%*	*18.2%*	*17.1%*	*14.5%*	*13.3%*	*15.0%*	*13.5%*	*13.7%*	*12.4%*	*19.6%*	*20.1%*	*18.0%*	*16.0%*	*16.3%*	*17.5%*	*14.7%*	*13.0%*	*14.5%*
陸上貨物運送事業	338	319	289	340	317	326	358	275	320	276	280	273	300	282	343	292	305	324	350	349
陸上貨物運送事業の全産業に占める割合	*14.3%*	*13.9%*	*12.7%*	*13.9%*	*13.6%*	*13.5%*	*14.0%*	*11.5%*	*13.0%*	*13.3%*	*12.8%*	*12.2%*	*11.4%*	*10.9%*	*13.7%*	*12.8%*	*12.4%*	*13.6%*	*13.5%*	*14.4%*
林業	42	38	49	31	48	39	42	45	40	43	30	32	40	35	33	28	37	29	32	26
林業の全産業に占める割合	*1.8%*	*1.7%*	*2.2%*	*1.3%*	*2.1%*	*1.6%*	*1.6%*	*1.9%*	*1.6%*	*2.1%*	*1.4%*	*1.4%*	*1.5%*	*1.4%*	*1.3%*	*1.2%*	*1.5%*	*1.2%*	*1.2%*	*1.1%*
第三次産業	729	780	815	924	849	989	1,097	1,061	1,075	910	1,033	1,002	1,169	1,218	1,162	1,059	1,115	1,100	1,258	1,133
第三次産業の全産業に占める割合	*30.8%*	*34.0%*	*35.9%*	*37.7%*	*36.4%*	*40.9%*	*43.0%*	*44.3%*	*43.6%*	*43.8%*	*47.1%*	*44.9%*	*44.6%*	*47.2%*	*46.3%*	*46.4%*	*45.2%*	*46.1%*	*48.6%*	*46.6%*
その他	74	104	87	103	112	101	88	86	91	108	103	90	127	109	118	110	104	109	111	107
その他の全産業に占める割合	*3.1%*	*4.5%*	*3.8%*	*4.2%*	*4.8%*	*4.2%*	*3.5%*	*3.6%*	*3.7%*	*5.2%*	*4.7%*	*4.0%*	*4.8%*	*4.2%*	*4.7%*	*4.8%*	*4.2%*	*4.6%*	*4.3%*	*4.4%*

（単位：人）

注）陸上貨物運送事業：道路貨物運送業、貨物取扱業
第三次産業：商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、官公署、その他事業

1. 休業4日以上の労働災害により休業した人数は、平成21年に2,078人と過去最少を記録したが、東日本大震災以降増加に転じ、平成25年以後は増減を繰り返し、令和元年は2,432人であった。
2. 製造業では、平成21年以降、450人前後で推移しており、令和元年は前年より37人減少したものの、依然として465人と高い水準となっている。
3. 建設業は、前年（平成30年）は東日本大震災以降最少の336人であった、令和元年は16人増加した。
4. 陸上貨物運送事業は300人前後で推移していたものの、近年は増加傾向にあり、令和元年も前年比1人減の349人となった。
5. 第三次産業は長期的に増加傾向にあり、前年（平成30年）は過去20年で最も多い1,258人であった。令和元年は125人減少したもの1,133人となった。
6. 全産業に占める主要業種の割合は、第三次産業が最も高く、次いで製造業、建設業の順となっている。建設業、陸上貨物運送事業は前年と比較して増加し、その他の主要業種で減少しているが、第三次産業における割合が依然として高い割合となっている。

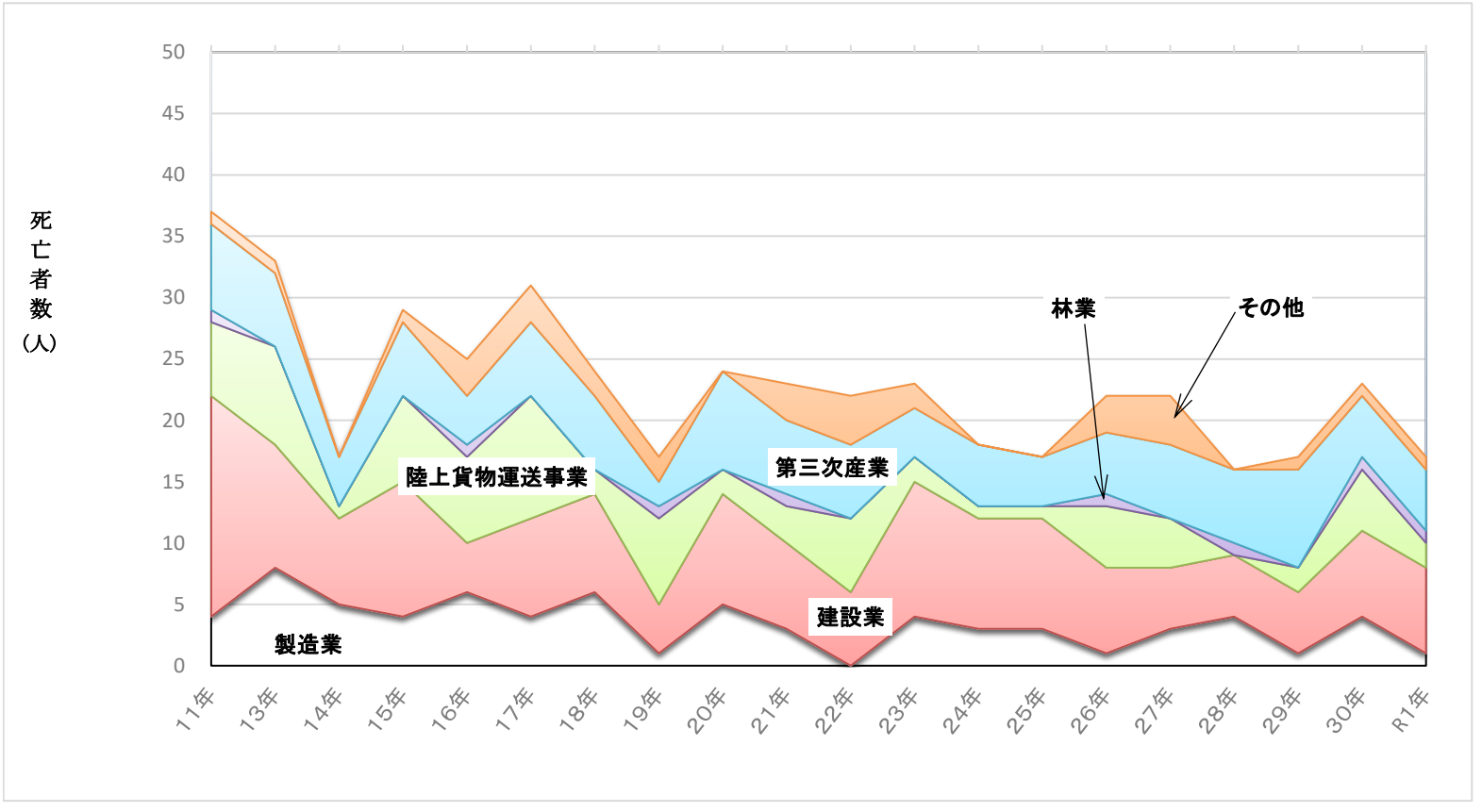
9. 交通死亡労働災害の推移



	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
全産業死傷災害	2,369	2,292	2,269	2,451	2,335	2,420	2,550	2,397	2,467	2,078	2,191	2,230	2,623	2,580	2,510	2,282	2,467	2,385	2,589	2,432
うち交通労働災害	155	152	159	208	178	200	197	264	181	181	188	166	221	189	195	170	174	174	180	145
交通労働災害の割合[%]	6.5	6.6	7.0	8.5	7.6	8.3	7.7	11.0	7.3	8.7	8.6	7.4	8.4	7.3	7.8	7.4	7.1	7.3	7.0	6.0
全産業死亡	47	33	17	29	25	31	24	17	24	23	22	23	18	17	22	22	16	17	23	17
うち交通死亡労働災害	14	15	5	7	7	18	3	11	6	7	7	3	2	5	7	2	2	3	8	5
交通死亡労働災害の割合[%]	29.8	45.5	29.4	24.1	28.0	58.1	12.5	64.7	25.0	30.4	31.8	13.0	11.1	29.4	31.8	9.1	12.5	17.6	34.8	29.4

1. 近年、交通労働災害の全死傷災害に占める割合は、7～8%で推移してきたが、令和元年は平成13年以来の6%台に減少した。
2. 交通死亡労働災害は、前年（平成30年）から3人減少し、5人となった。

10.主要業種別死亡災害の推移



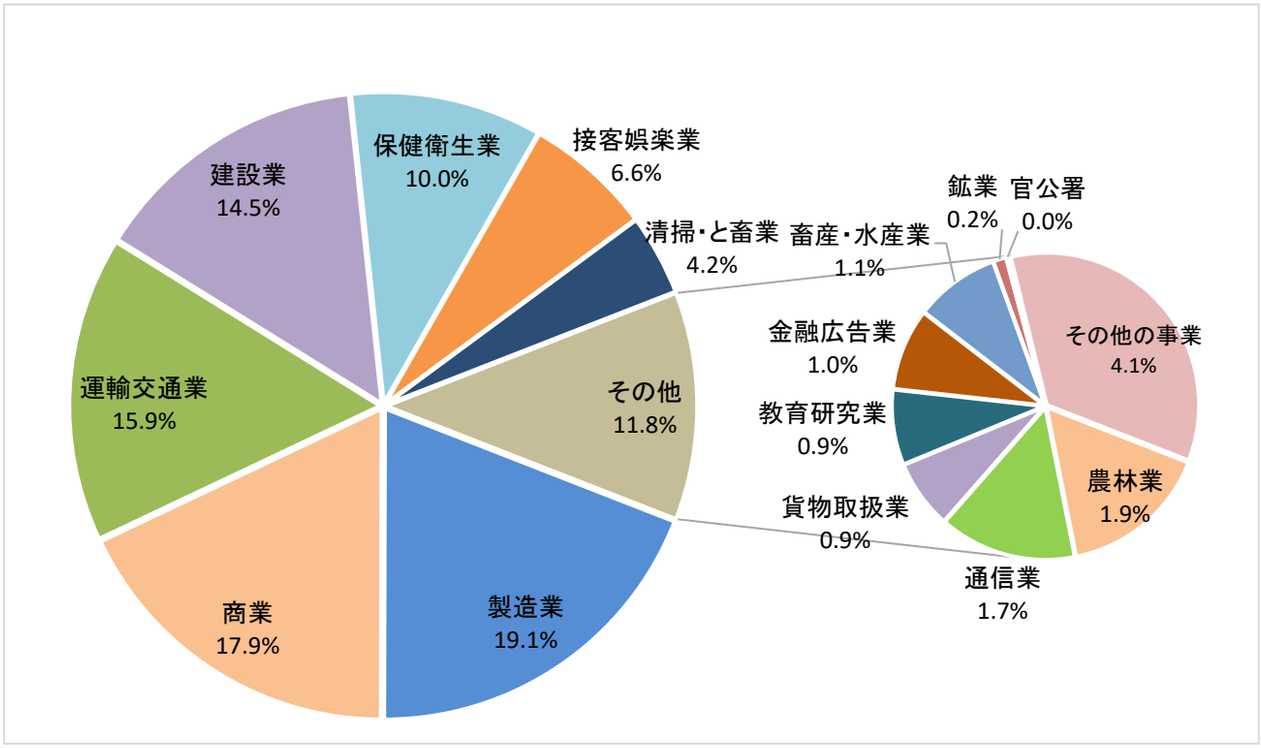
	11年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年
全産業	37	33	17	29	25	31	24	17	24	23	22	23	18	17	22	22	16	17	23	17
製造業	4	8	5	4	6	4	6	1	5	3	0	4	3	3	1	3	4	1	4	1
建設業	18	10	7	11	4	8	8	4	9	7	6	11	9	9	7	5	5	5	7	7
陸上貨物運送事業	6	8	1	7	7	10	2	7	2	3	6	2	1	1	5	4	0	2	5	2
林業	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1
第三次産業	7	6	4	6	4	6	6	2	8	6	6	4	5	4	5	6	6	8	5	5
その他	1	1	0	1	3	3	2	2	0	3	4	2	0	0	3	4	0	1	1	1

1. 全産業における労働災害による死亡者数は、20人前後での増減を繰り返している。
2. 業種別では建設業が最も多く7人、次いで第三次産業5人、陸上貨物運送事業2人の順となっている。

11.業種別・各監督署別災害発生状況

11-1.令和元年　業種別死傷災害発生状況

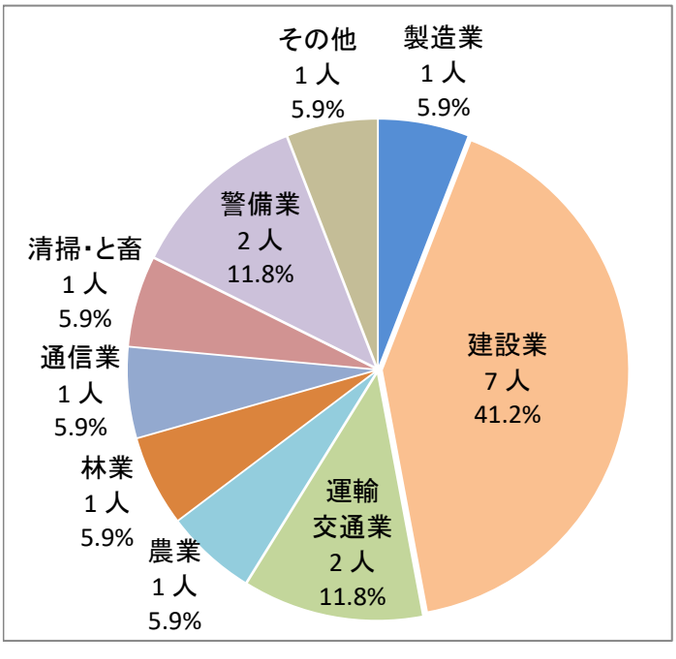
（全産業合計：2,432人）

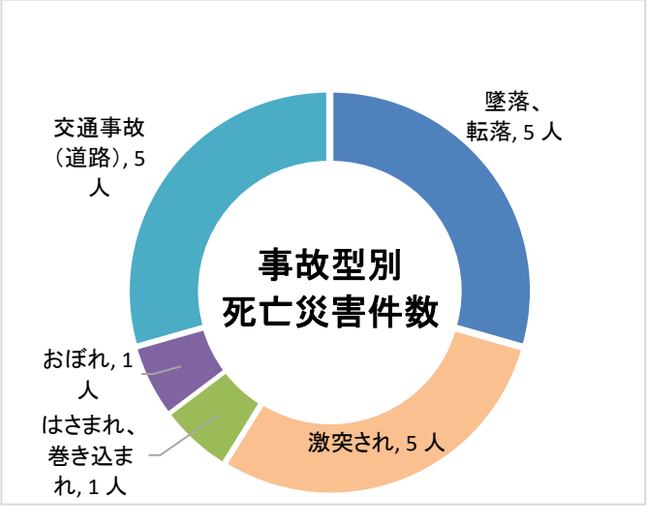


1.　令和元年の死傷災害の全業種に占める割合は、製造業19.1%、商業17.9%、運輸交通業15.9%、建設業14.5%、保健衛生業10.1%の順となっている。
2.　第三次産業の占める割合は46.6%となっている。

11-2.令和元年　業種別死亡災害発生状況

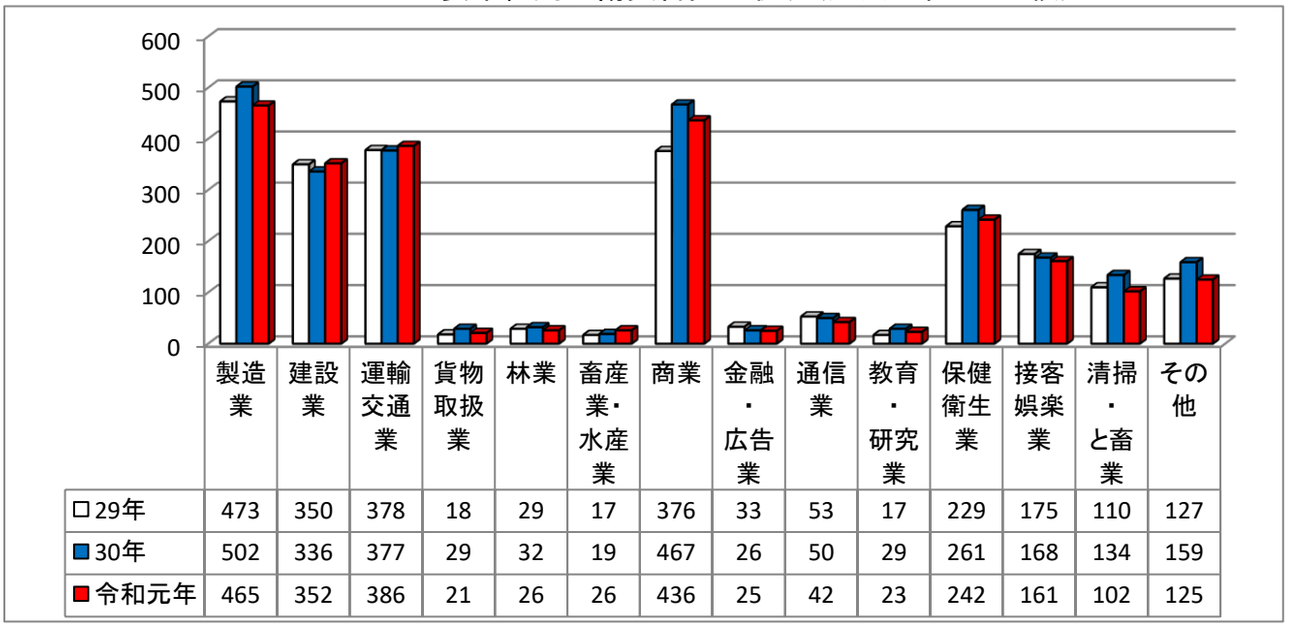
（全産業合計：17人）





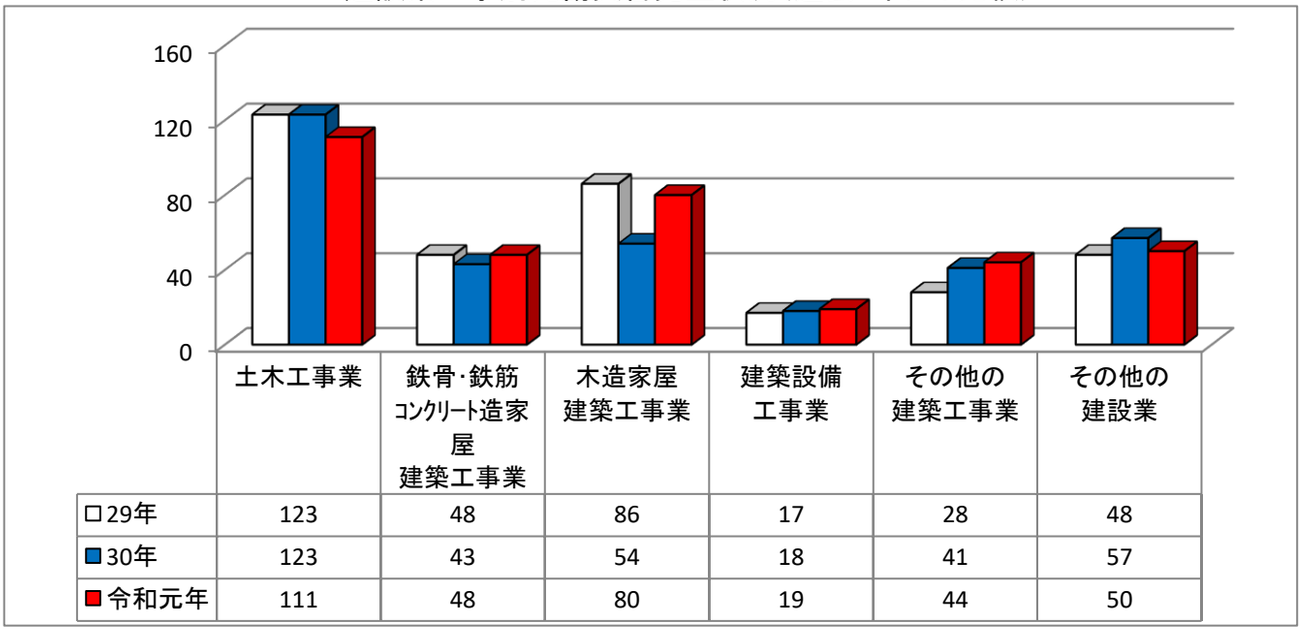
1. 死亡災害の全業種に占める割合は、建設業が7人で最も多く、次いで運輸交通業と警備業（その他の業種）がそれぞれ2人となっている。
2. 事故型別でみると、「墜落・転落」、「激突され」、「交通事故」がそれぞれ5人となっている。

11-3.主要業種別死傷災害発生状況（過去3年との比較）



	製造業	建設業	運輸交通業	貨物取扱業	林業	畜産業・水産業	商業	金融・広告業	通信業	教育・研究業	保健衛生業	接客娯楽業	清掃・と畜業	その他
29年	473	350	378	18	29	17	376	33	53	17	229	175	110	127
30年	502	336	377	29	32	19	467	26	50	29	261	168	134	159
令和元年	465	352	386	21	26	26	436	25	42	23	242	161	102	125

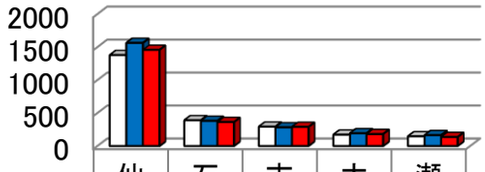
11-4.建設業工事別死傷災害発生状況（過去3年との比較）



	土木工事業	鉄骨･鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造家屋建築工事業	木造家屋建築工事業	建築設備工事業	その他の建築工事業	その他の建設業
29年	123	48	86	17	28	48
30年	123	43	54	18	41	57
令和元年	111	48	80	19	44	50

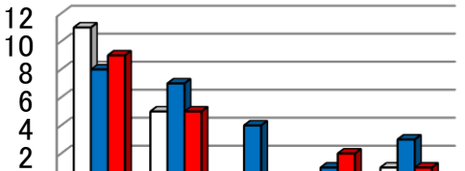
11-5.監督署別労働災害発生状況（過去3年との比較）

（死傷件数）



	仙台	石巻	古川	大河原	瀬峰
29年	1379	391	294	173	148
30年	1564	382	284	194	165
令和元年	1458	364	290	182	138

（死亡件数）

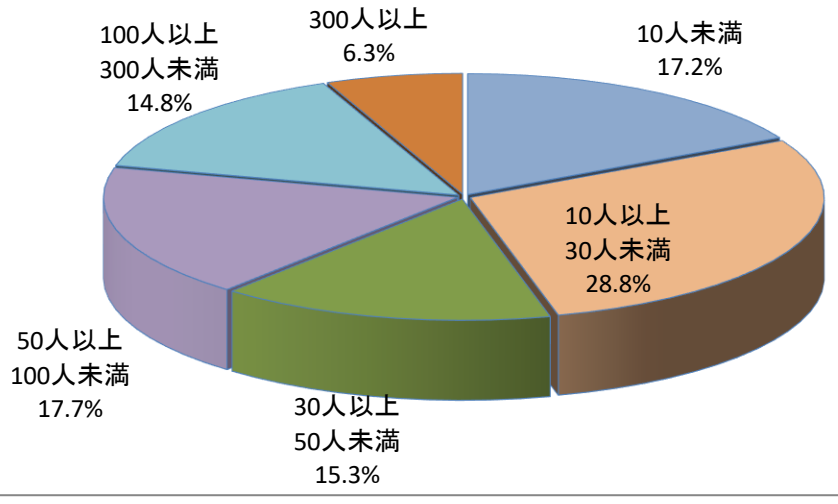


	仙台	石巻	古川	大河原	瀬峰
29年	11	5	0	0	1
30年	8	7	4	1	3
令和元年	9	5	0	2	1

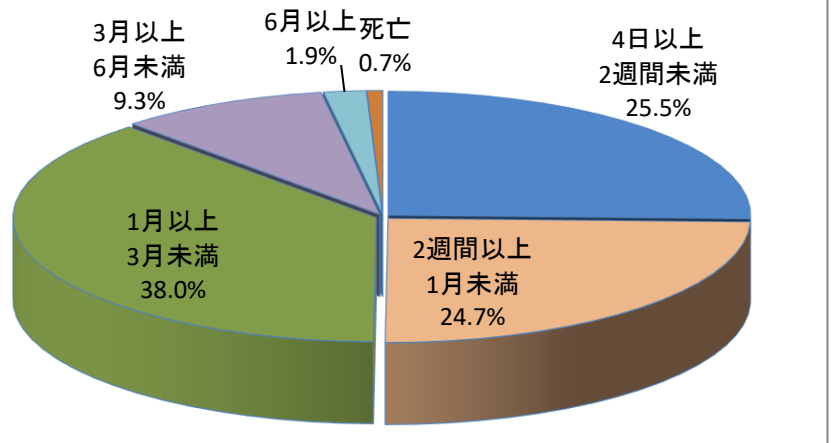
12.全産業における労働災害発生状況(令和元年)

（全産業：2,432人）

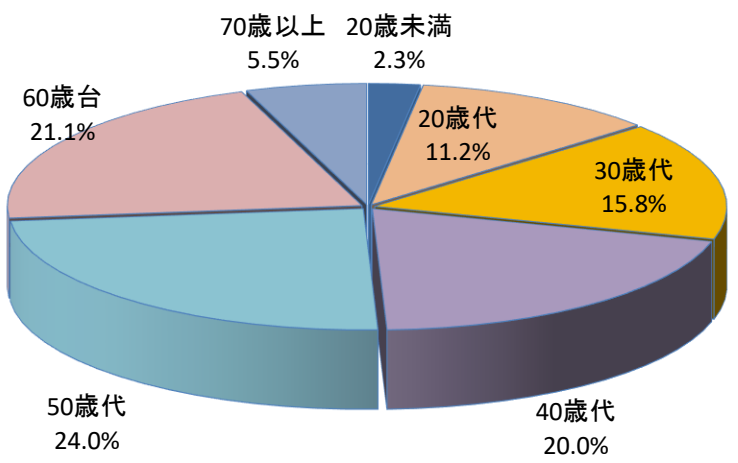
(1)事業場規模別の状況



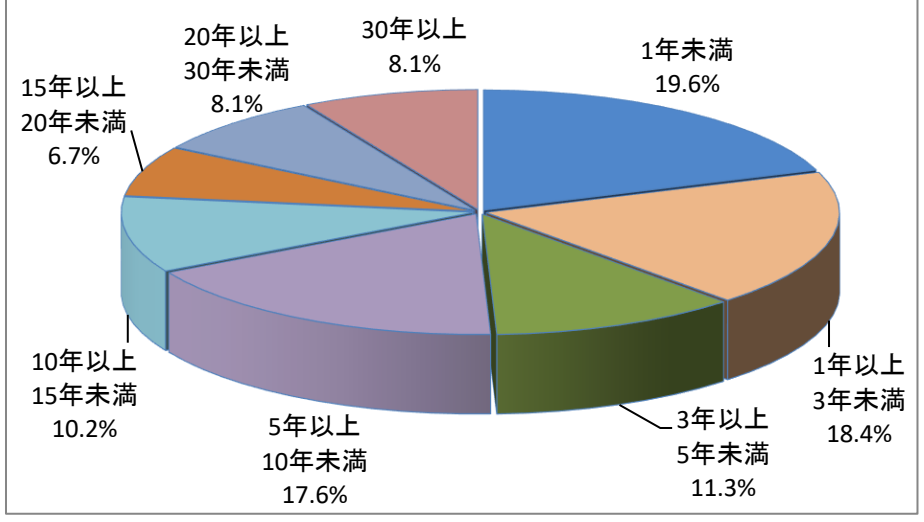
(2)被災程度別の状況



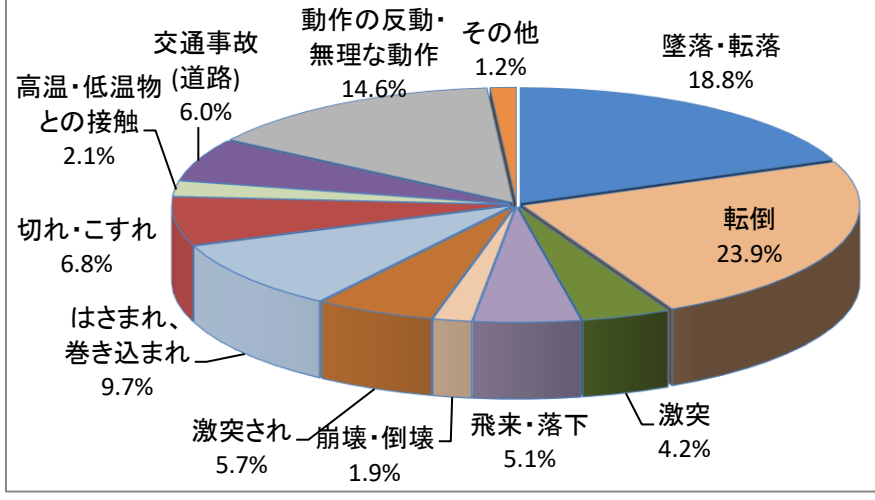
(3)年齢別の状況



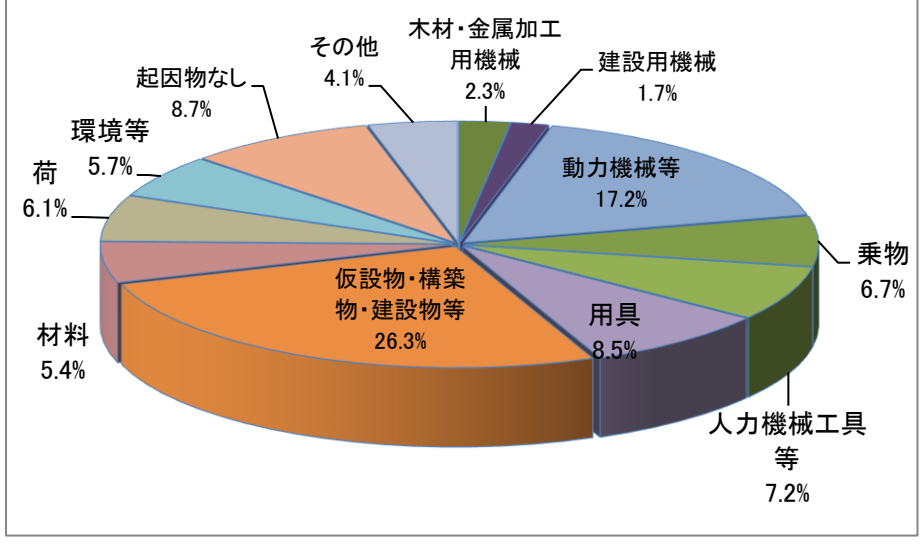
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

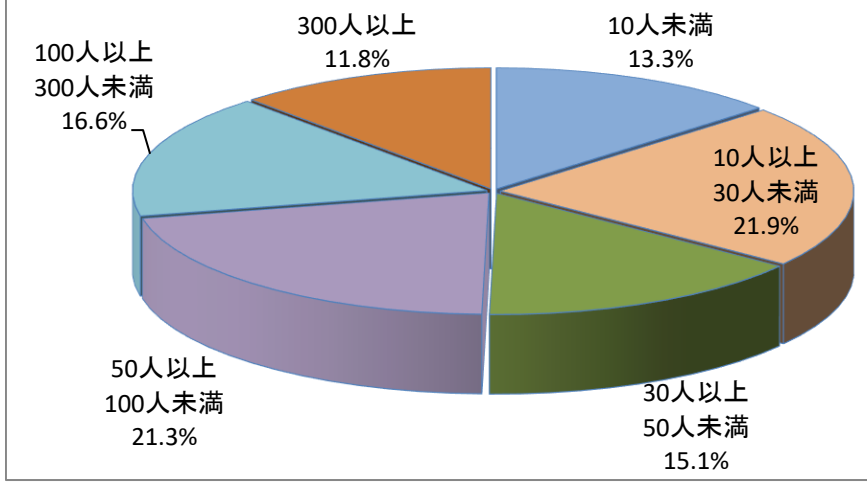


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が28.8%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.7%、「10人未満」が17.2%、「30人以上50人未満」15.3%の順となっている。 50人未満の事業場が61.3%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が38.0%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」が25.5%、「2週間以上1月未満」24.7%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合は49.9%である。
3. 年齢別では、「50歳代」が24.0%と最も多く、次いで「60歳代」が21.1%、「40歳代」20.0%の順となっている。60歳以上の被災が26.6%と4分の1以上を占めている。
4. 経験年数では、「1年未満」が19.6%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が18.4%、「5年以上10年未満」17.6%の順となっている。経験年数が短い者の割合が高くなっている。
5. 事故の型は、「転倒」が23.9%と最も多く、次いで「墜落・転落」が18.8%、「動作の反動・無理な動作」14.6%（このうち23.1%が腰痛を発症している。）、「はさまれ・巻き込まれ」9.7%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が26.3%と最も多く、次いで「動力機械等」が17.2%、「用具」8.5%の順となっている。（※「動力機械等」は、一般動力機械（食品等加工機械、ロール機等）、動力クレーン等、動力運搬機等の合計）

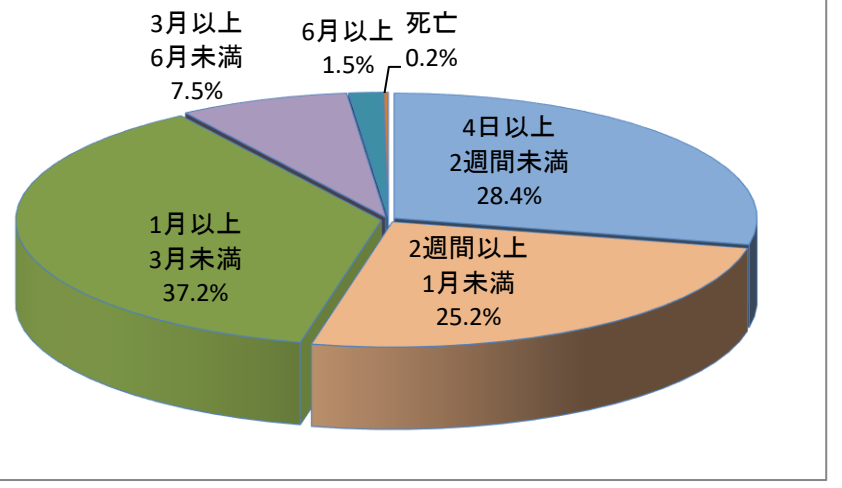
13.製造業における労働災害発生状況(令和元年)

(製造業:465人)

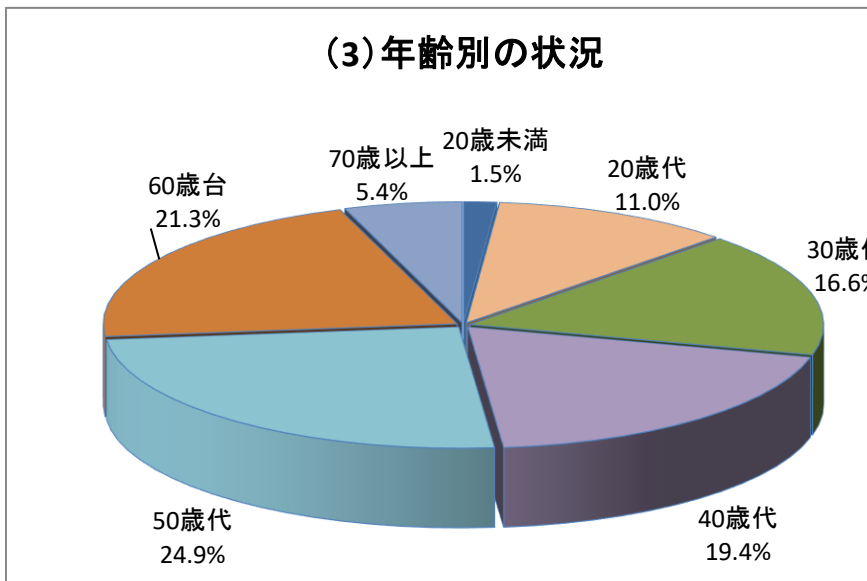
(1)事業場規模の状況



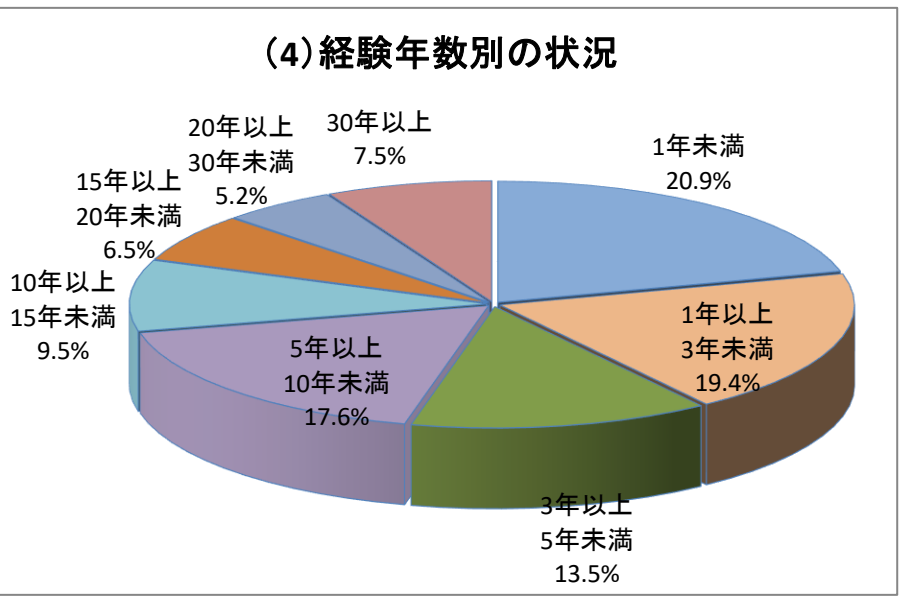
(2)被災程度別の状況



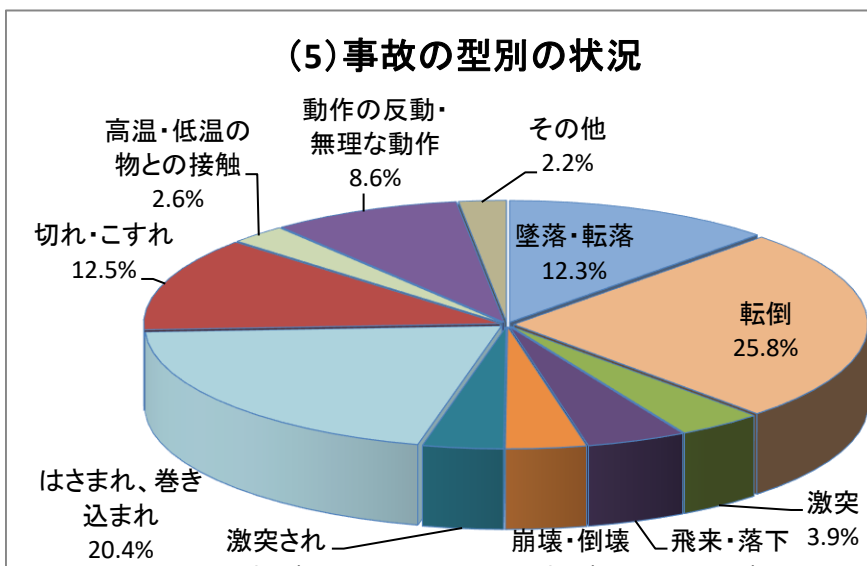
(3)年齢別の状況



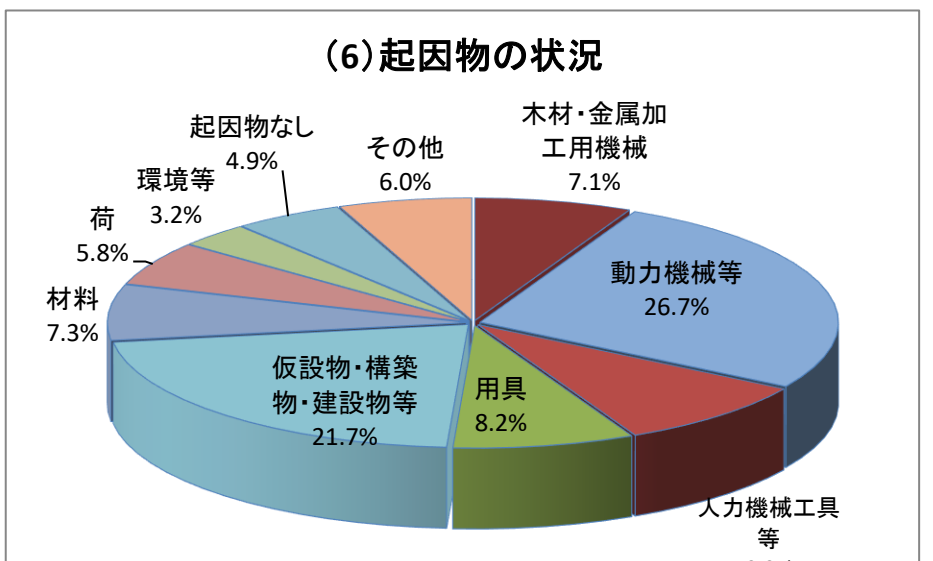
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物の状況

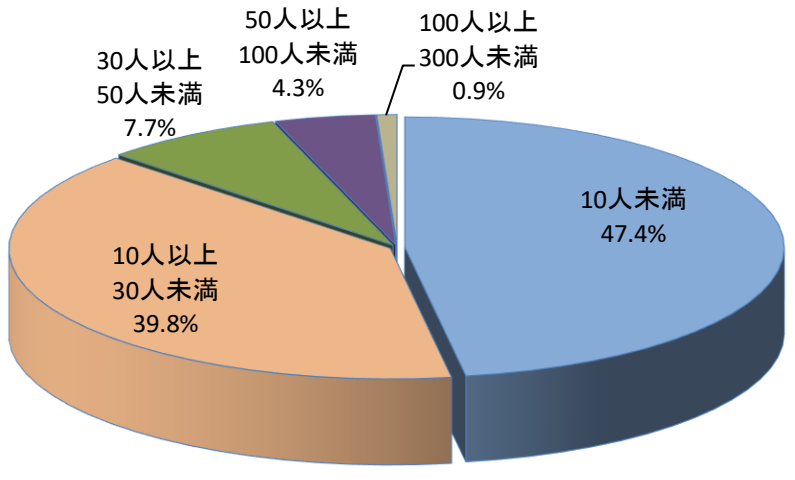


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が21．9%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が21.3%、「100人以上300人未満」が16.6%、「30人以上50人未満」が15.1%の順となっている。 50人未満の事業場が50.3%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が37.2%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」が28.4%、「2週間以上1月未満」が25.2%の順となっている。休業日数が1月未満の災害は53.6%、3月未満の災害は90.8%となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が24.9%と最も多く、次いで「60歳代」が21.3%、「40歳代」が19.4%の順となっている。60歳以上は26.7%を占めている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が20.9%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が19.4%、「5年以上10年未満」が17.6%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が25.8%と最も多く、「はさまれ・巻き込まれ」が20.4%、「切れ・こすれ」が12.5%、墜落・転落が12.3%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力機械等」が26.7%と最も多く、「仮設物、建築物、構築物等」(通路等)が21.7%、「人力機械工具等」が9.0%の順となっている。(※「動力機械等」は、一般動力機械(食品等加工機械、ロール機等)、動力クレーン等、動力運搬機等の合計)

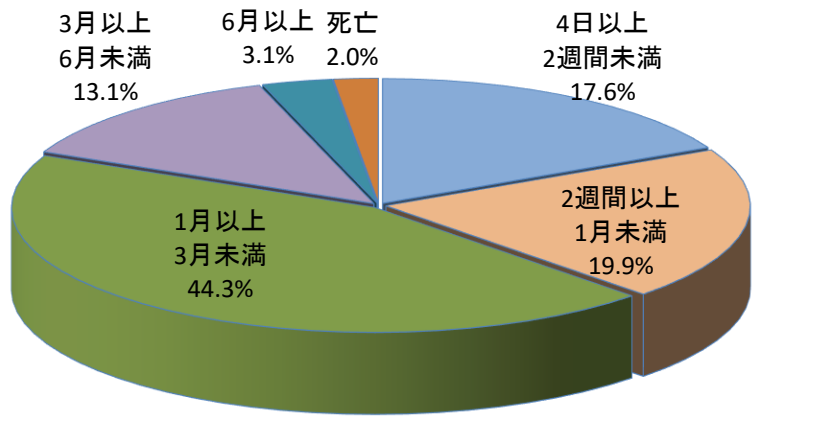
14.建設業における労働災害発生状況(令和元年)

(建設業:352人)

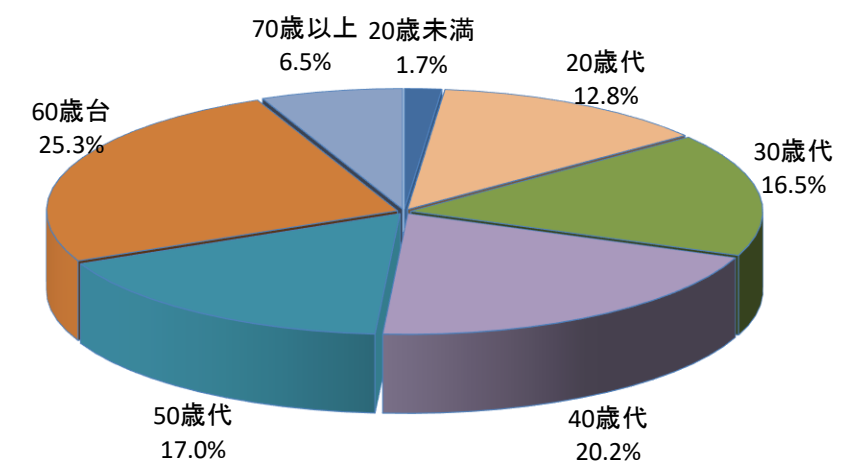
(1)事業場規模別の状況



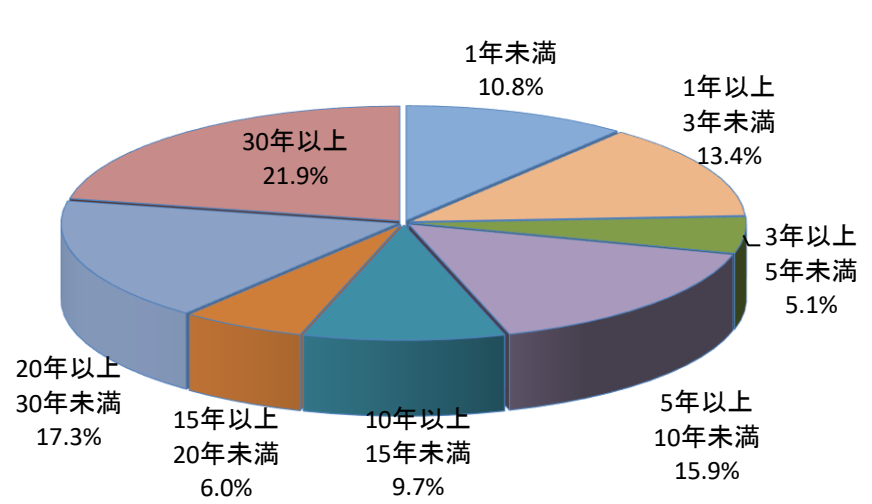
(2)被災程度別の状況



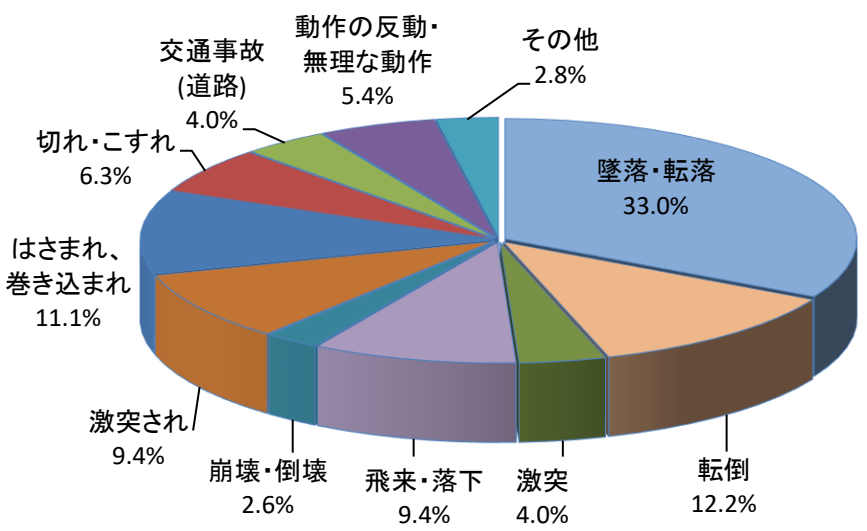
(3)年齢別の状況



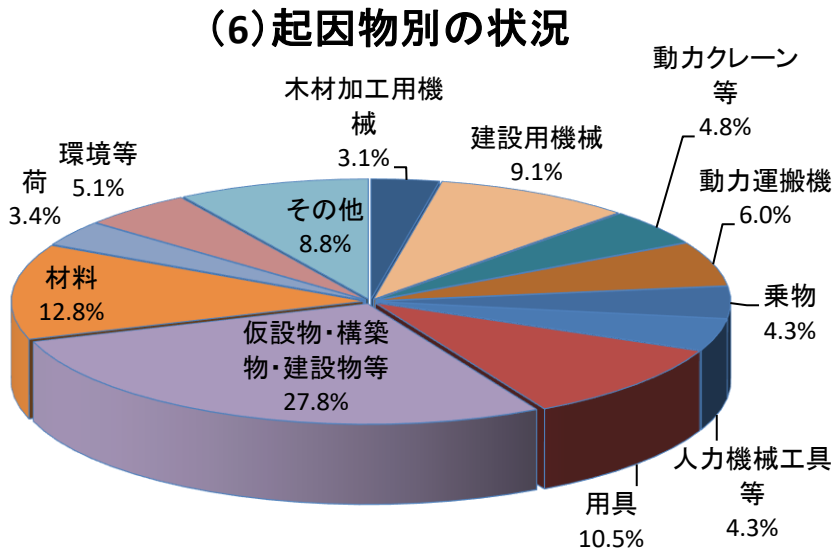
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



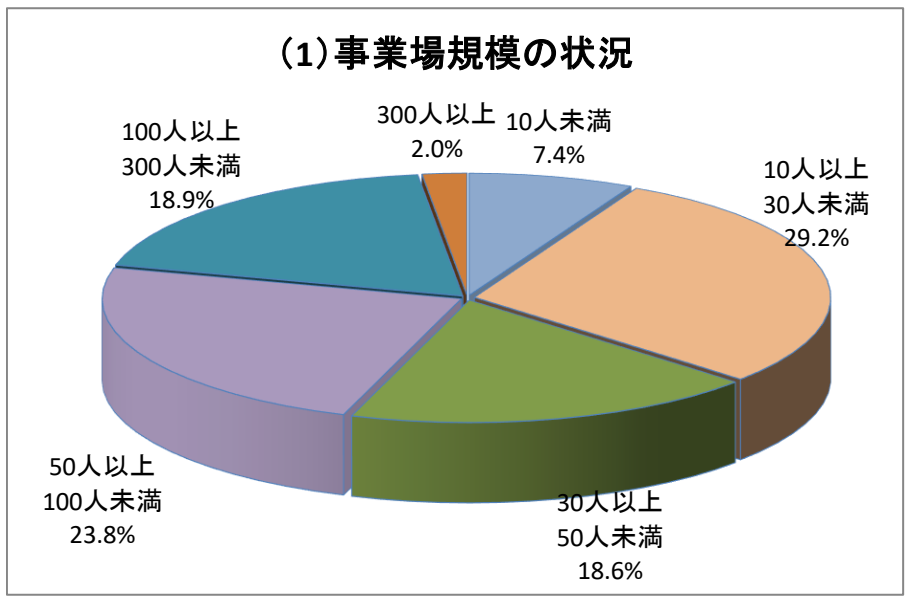
(6)起因物別の状況

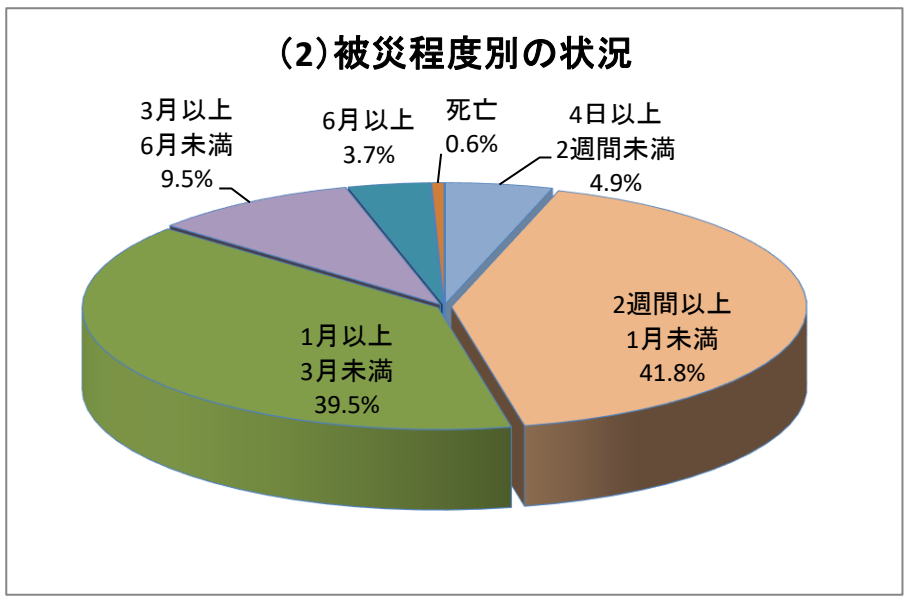


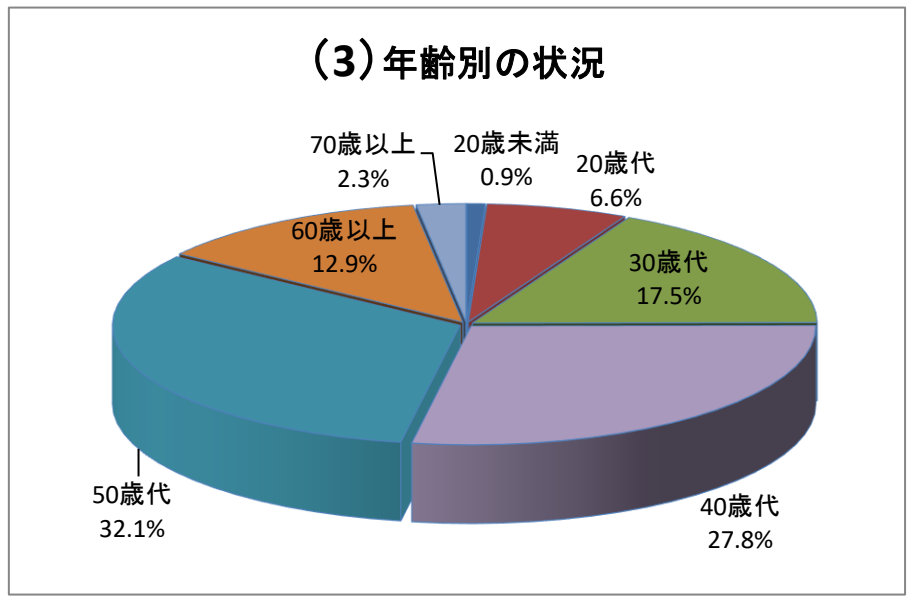
1. 「被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が44. 3%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が19.9%、「4日以上2週間未満」が17.6%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合が62.5%となっている。
2. 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「40歳代」が20.2%、「50歳代」が17.0%の順となっている。60歳代以上が31.8%と3分の1を占めている。
3. 経験年数別では、「30年以上」が21.9%と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が17.3%、「5年以上10年未満」が15.9%の順となっている。経験年数が長い者の割合が高い。
4. 事故の型別では、「墜落・転落」によるものが33.0%と最も多く、次いで「転倒」が12.2%、「はさまれ、巻き込まれ」が11.1%の順となっている。
5. 起因物別では、「仮設物、建設物、構築物等」(屋根、梁、足場等)が27.8%と最も多く、次いで「材料」が12.8%、「用具」(はしご、脚立、玉掛用具等)が10.5%の順となっている。

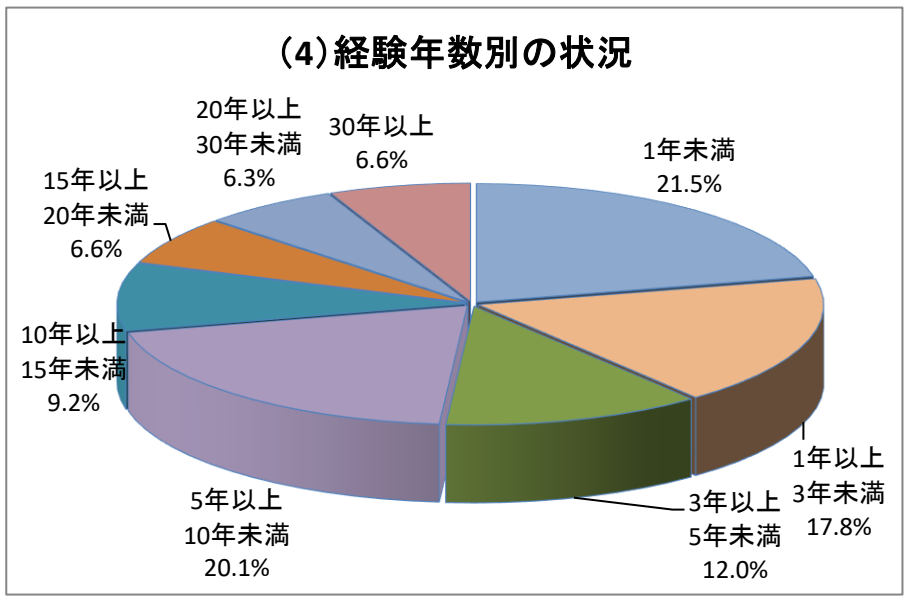
15.陸上貨物運送事業における労働災害発生状況(令和元年)

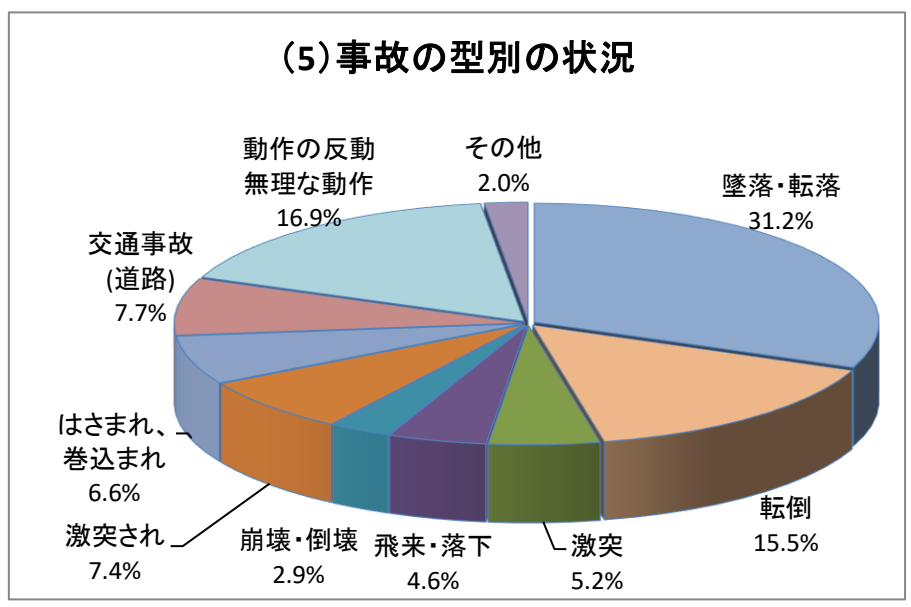
(陸上貨物運送事業:349人)

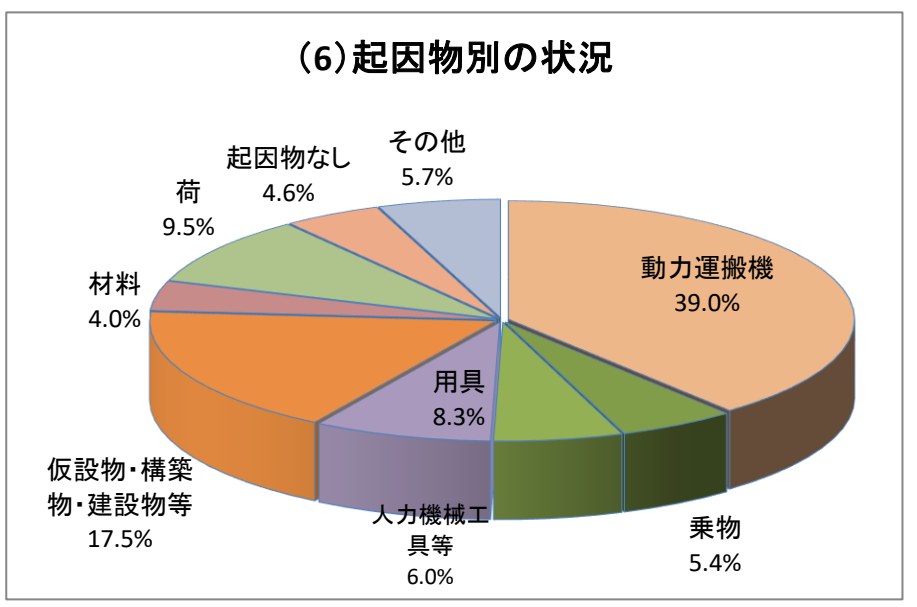










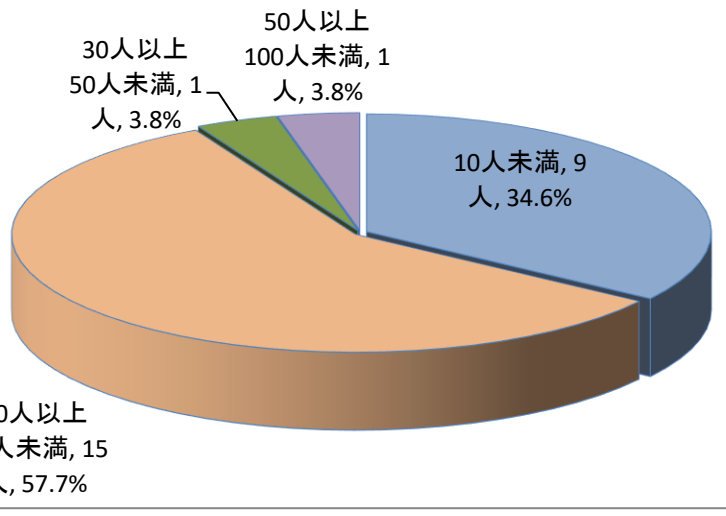


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が29.2%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が23.8%、「30人以上50人未満」が18.6%の順となっている。「50人未満」の事業場が55.2%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」が41.8%と最も多く、次いで、「1月以上3月未満」の災害が39.5%となっている。休業日数「1月以上」の災害の割合は53.3%である。
3. 年齢別では、「50歳代」が32.1%と最も多く、次いで「40歳代」が27.8%の順となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が21.5%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が20.1%、「1年以上3年未満」が17.8%の順となっている。
5. 事故の型別では、「墜落・転落」が31.2%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が16.9%(このうち22.0%で腰痛を発症している。)、「転倒」が15.5%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力運搬機」(トラック、フォークリフト等)が39.0%と最も多く、次いで「仮設物、建築物、構築物等」(通路、階段等)が17.5%、「荷」が9.5%の順となっている。

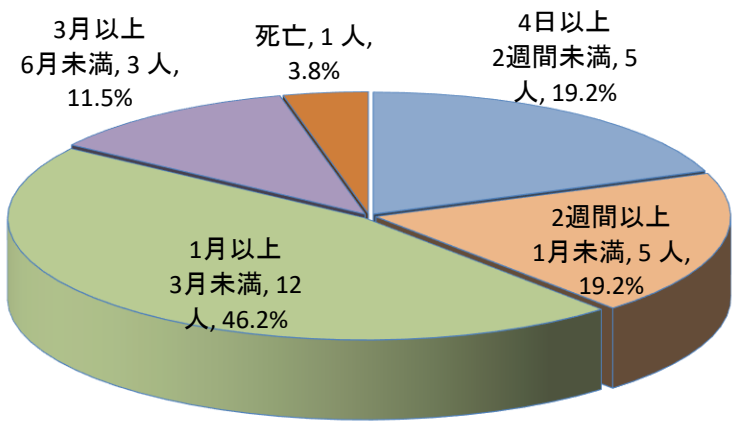
16.林業における労働災害発生状況(令和元年)

（林業：26人）

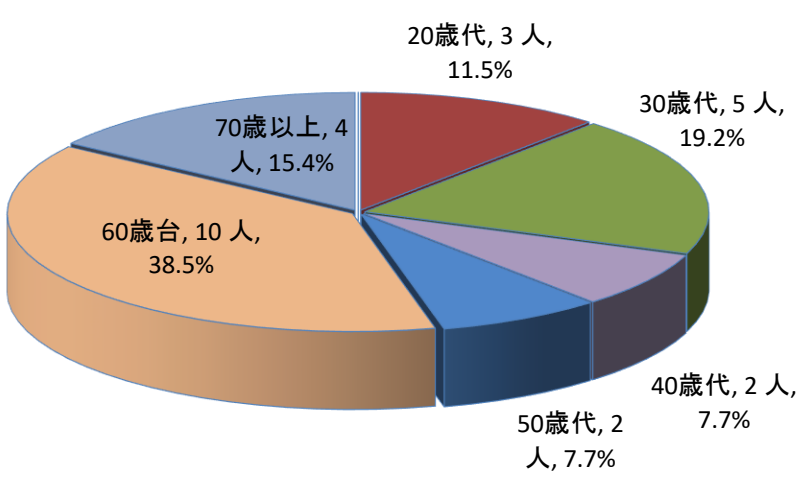
（1）事業場規模の状況



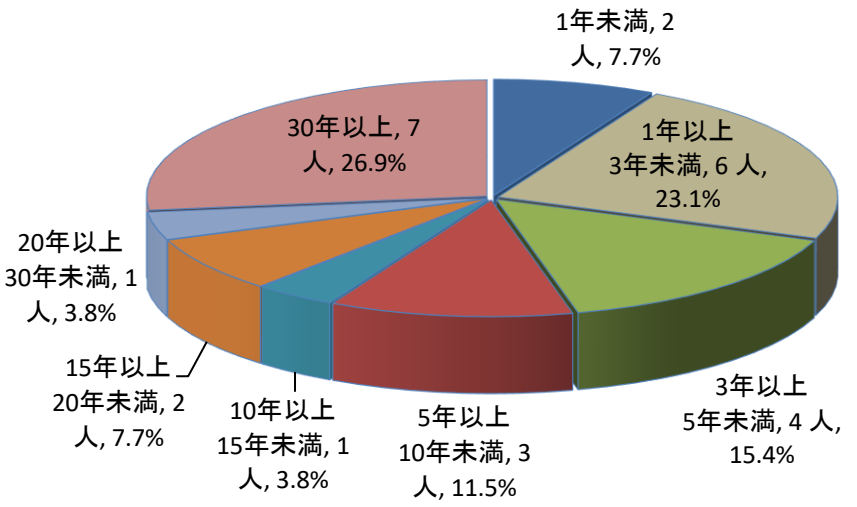
（2）被災程度別の状況



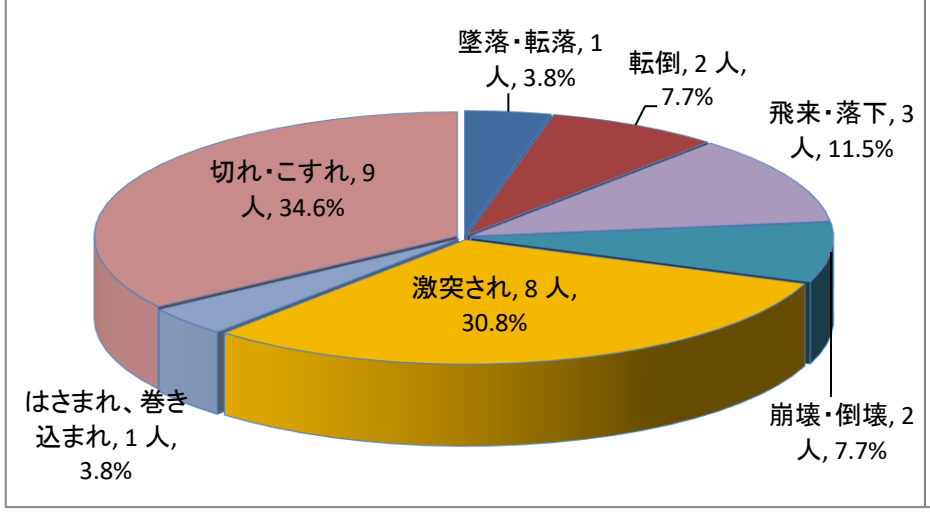
（3）年齢別の状況



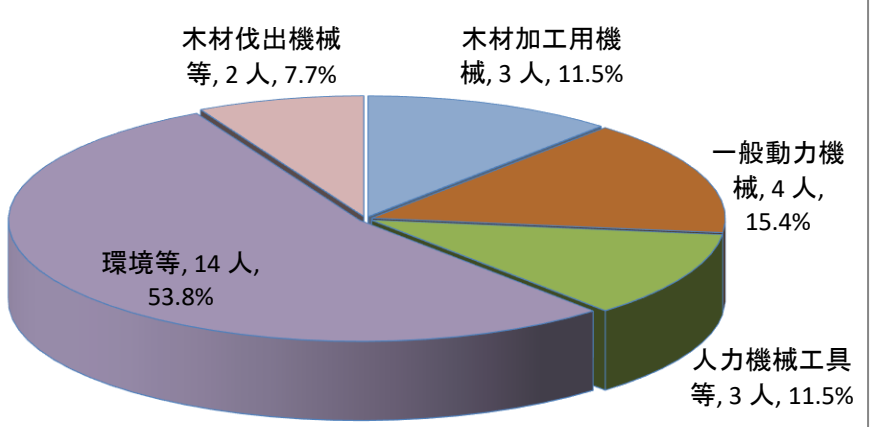
（4）経験年数別の状況



（5）事故の型別の状況



（6）起因物別の状況

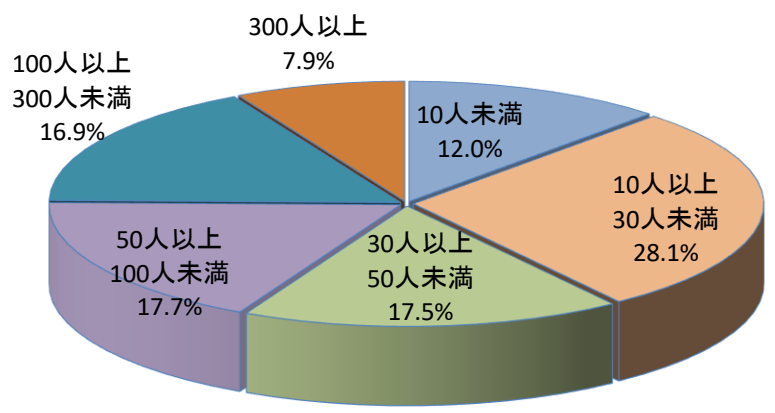


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が57.7％と最も多く、次いで「10人未満」が34.6％となっている。
2. 被災程度別では、「休業1月以上3月未満」が46.2％で最も多く、次いで「休業4日以上2週間未満」、「2週間以上1月未満」がそれぞれ19.2％となっている。全体の61.5％が休業日数1月以上の災害となっている。
3. 年齢別では、60歳代が38.5％と最も多く、次いで30歳代が19.2％、70歳以上15.4％と続いている。60歳以上で53.9％を占める。
4. 経験年数別では、「30年以上」が26.9％と最も多く、「1年以上3年未満」23.1％、「3年以上5年未満」15.4％の順となっている。
5. 事故の型別では、「切れ・こすれ」34.6％と最も多く、次いで「激突され」が30.8％、「飛来・落下」11.5％の順になっている。
6. 起因物別では、「環境等」（立木、地山等）が53.8％と最も多く、次いで「一般動力機械」15.4％となっている。

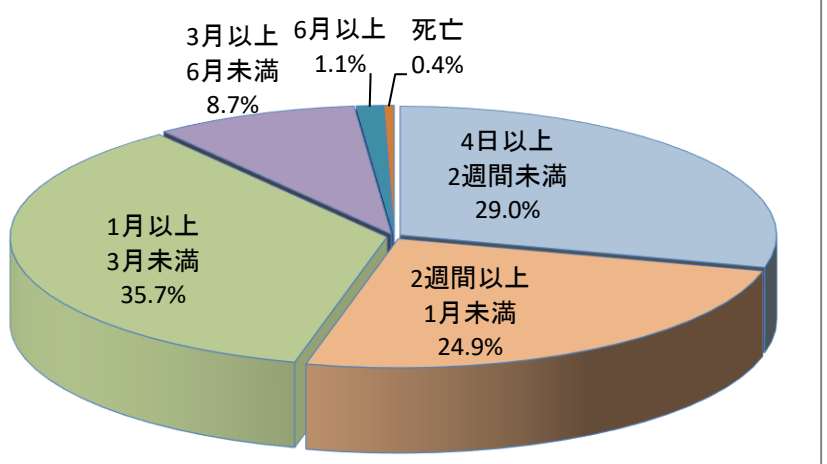
17.第三次産業における労働災害発生状況（令和元年）

（第三次産業：1，133名）

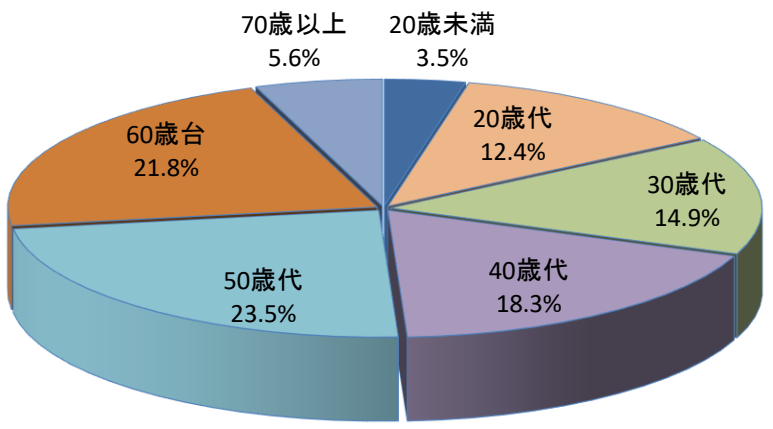
（1）事業場規模別の状況



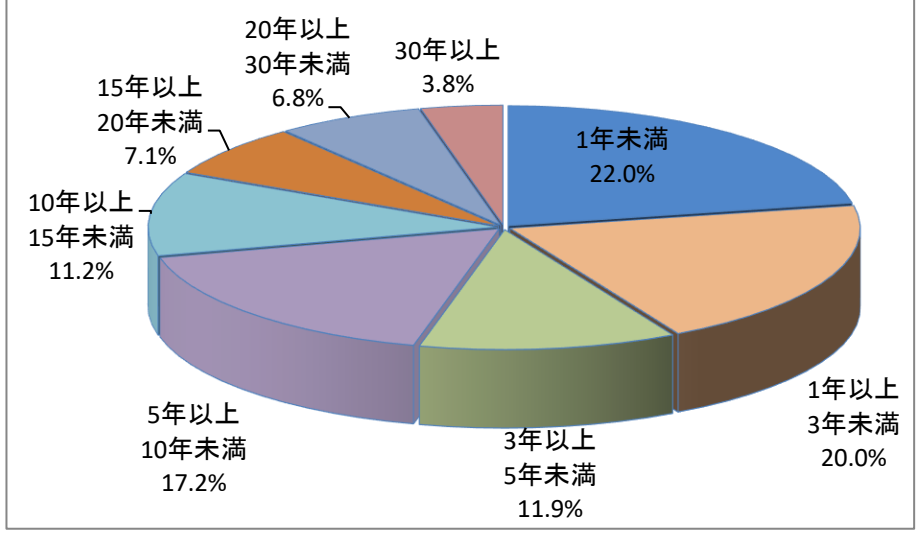
（2）被災程度別の状況



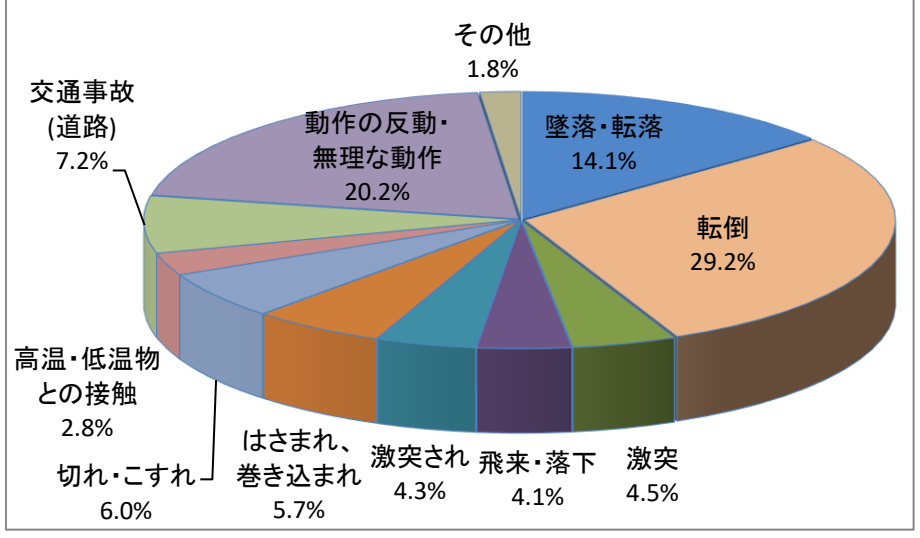
（3）年齢別の状況



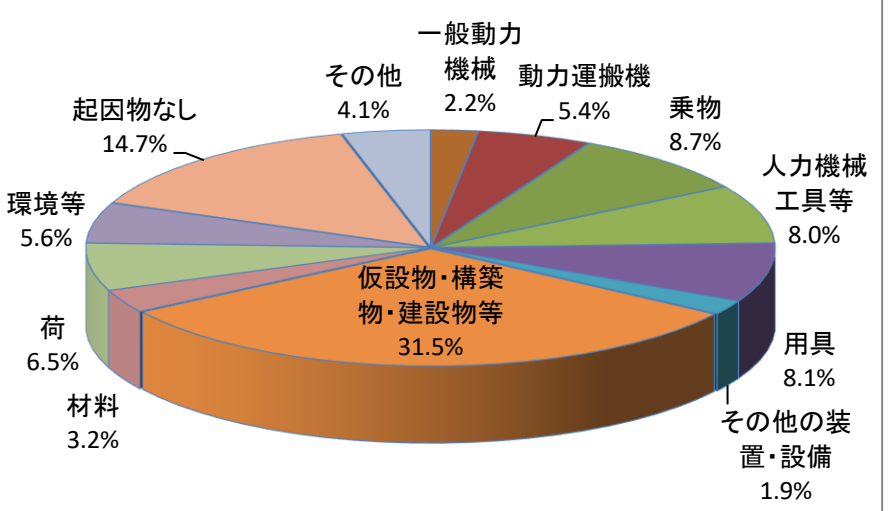
（4）経験年数別の状況



（5）事故の型別の状況



（6）起因物別の状況

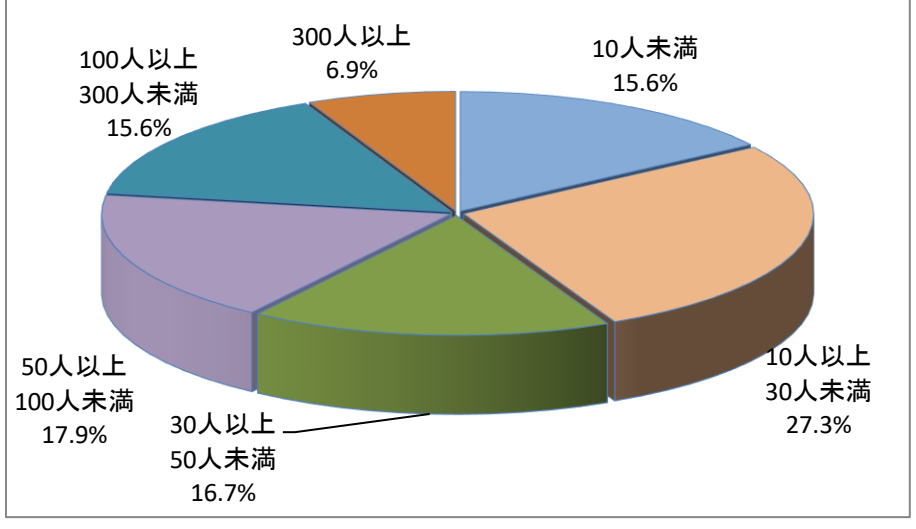


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が28.1％と最も多く、次いで50人以上100人未満」が17.7％、「30人以上50人未満」17.5％の順となっている。50人未満の事業場が57.6％を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が35.7 ％と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」29.0％、「2週間以上1月未満」24.9％の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」の23.5％が最も多く、次いで「60歳代」が21.8％、「40歳代」が18.3％の順となっている。60歳代以上は27.4％となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が22.0％と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が20.0％、「5年以上10年未満」17.2％の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が29.2％と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が20.2％（このうち25.3％が腰痛を発症している。）、「墜落・転落」が14.1％の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」（通路等の床面、階段等）が31.5％と最も多く、次いで「起因物なし」14.7％、「乗物」（乗用車、バイク等）が8.7％の順となっている。

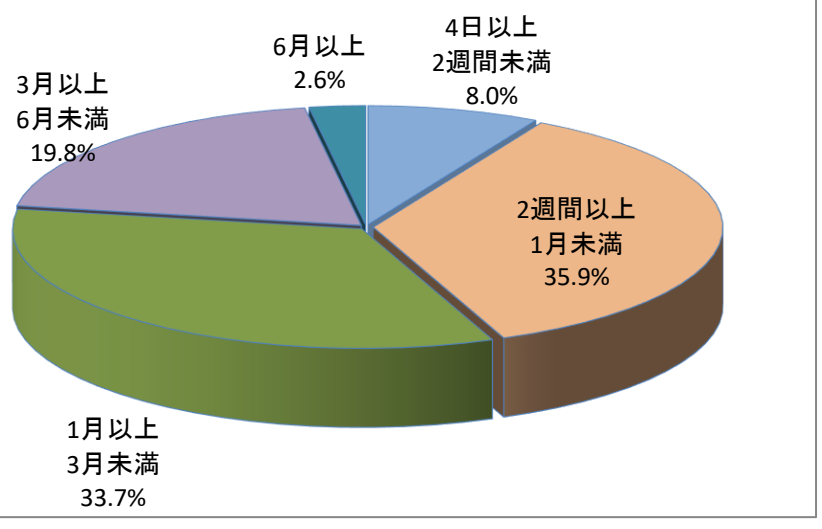
17-1.商業における労働災害発生状況(令和元年)

（商業：436人）

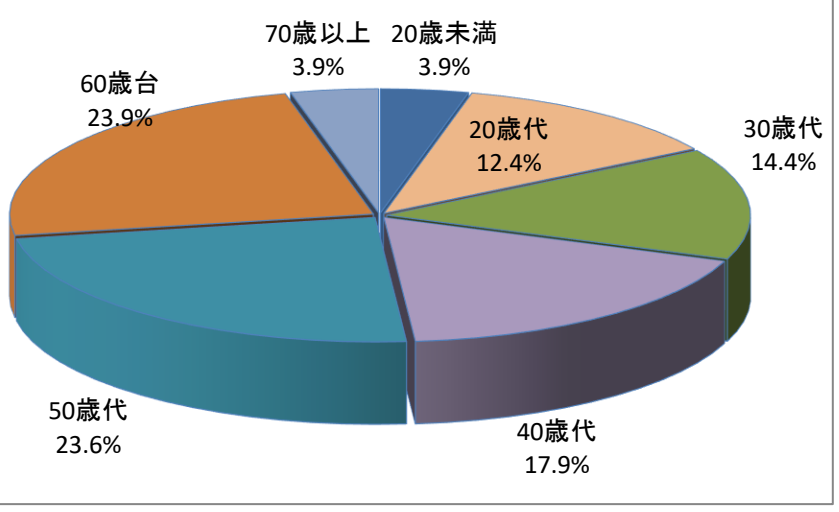
(1)事業場規模別の状況



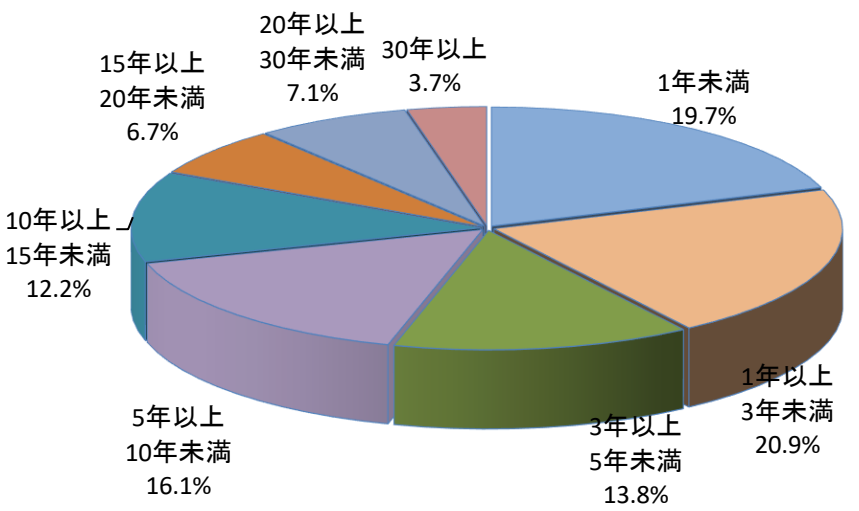
(2)被災程度別の状況



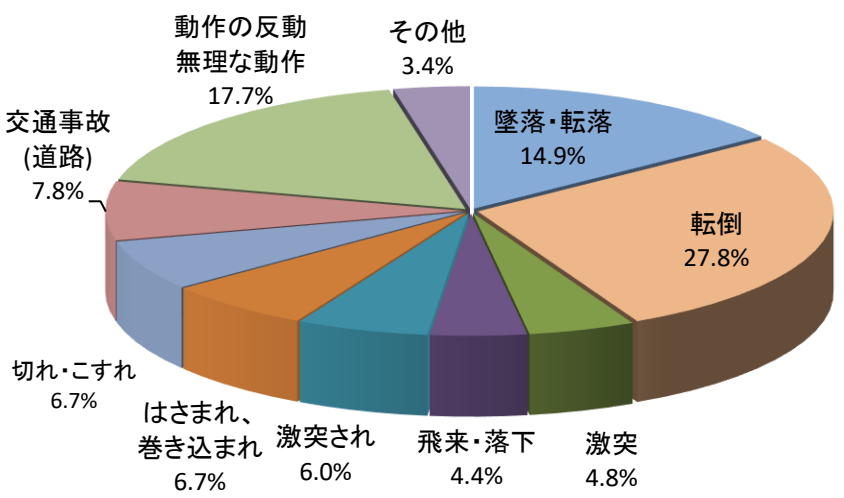
(3)年齢の状況



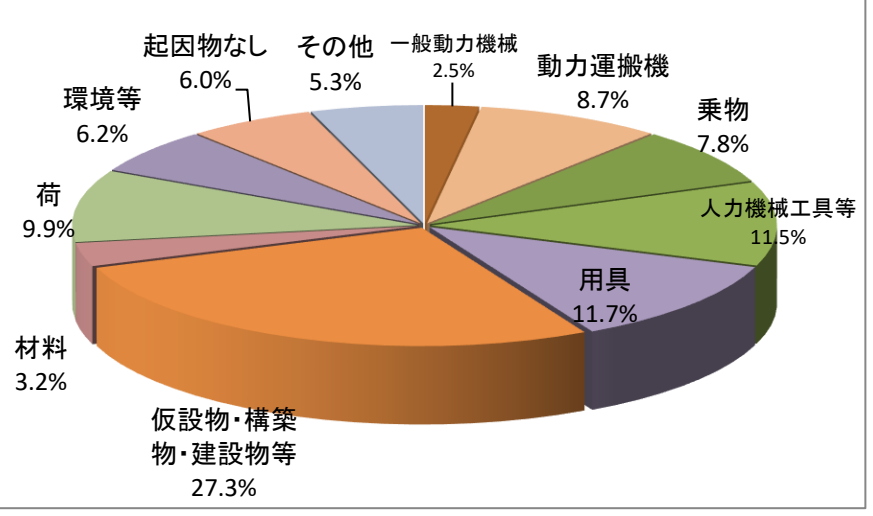
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

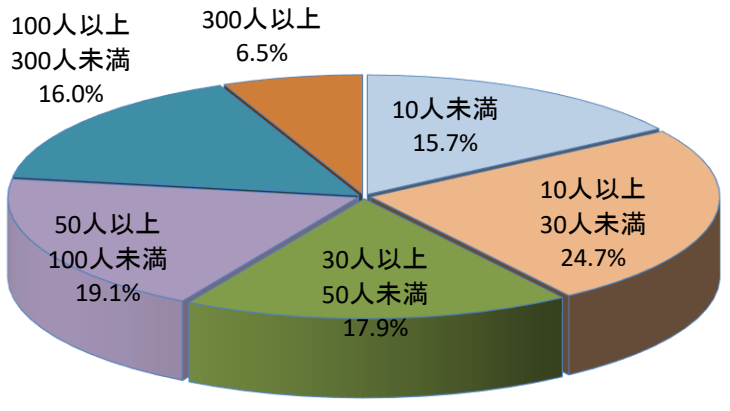


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が27.3%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.9%、「30人以上50人未満」16.7%の順となっている。50人未満の事業場が59.6%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」の災害が35.9と最も多く、次いで「1月以上3月未満」が33.7%、「3月以上6月未満」19.8%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合は56.1%となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が23.9%と最も多く、次いで「50歳代」が23.6%、「40歳代」17.9%の順となっている。60歳代以上は27.8%となっている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が20.9%と最も多く、次いで「1年未満」が19.7%、「5年以上10年未満」が16.1%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が27.8%と最も多く、次いで、「動作の反動・無理な動作」が17.7%（このうち19.5%が腰痛を発症している。）、「墜落・転落」14.9%の順となっている。
6. 起因物別では、「建設物・構築物・仮設物等」が27.3%と最も多く、次いで「用具」が11.7%、「人力機械工具等」11.5%の順になっている。

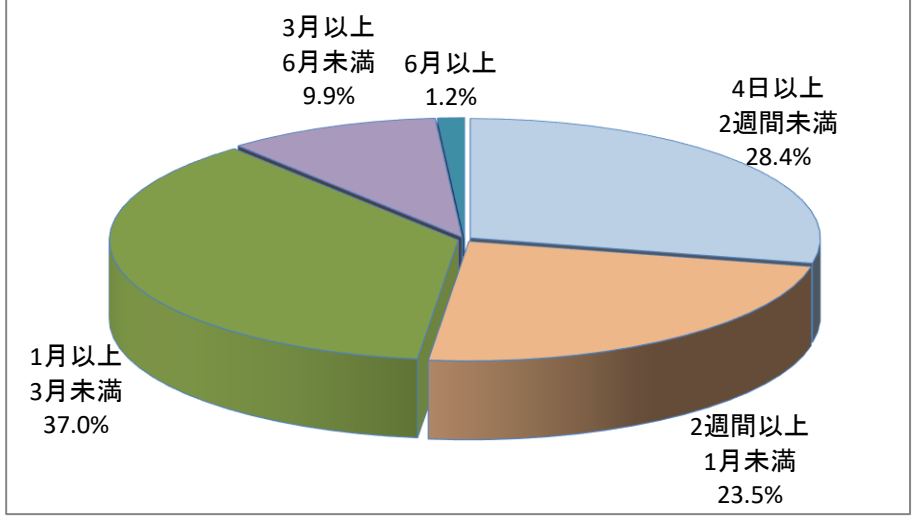
17-2.小売業における労働災害発生状況(令和元年)

（小売業：324人）

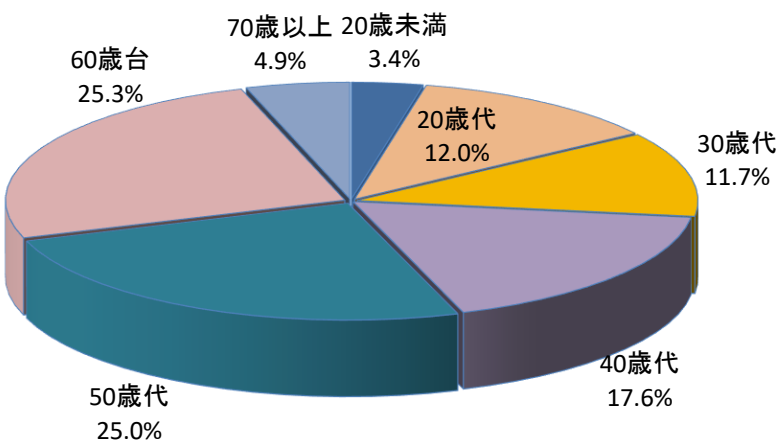
(1)事業場規模別の状況



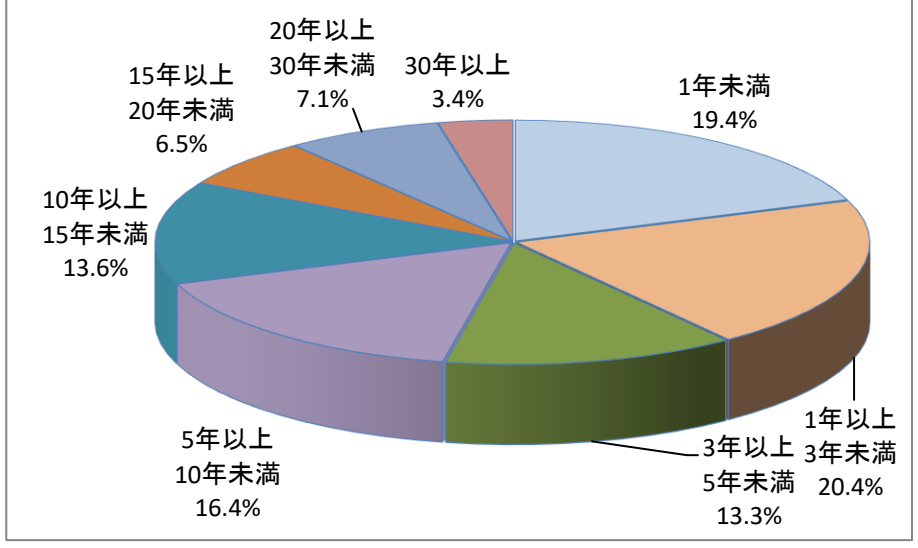
(2)被災程度別の状況



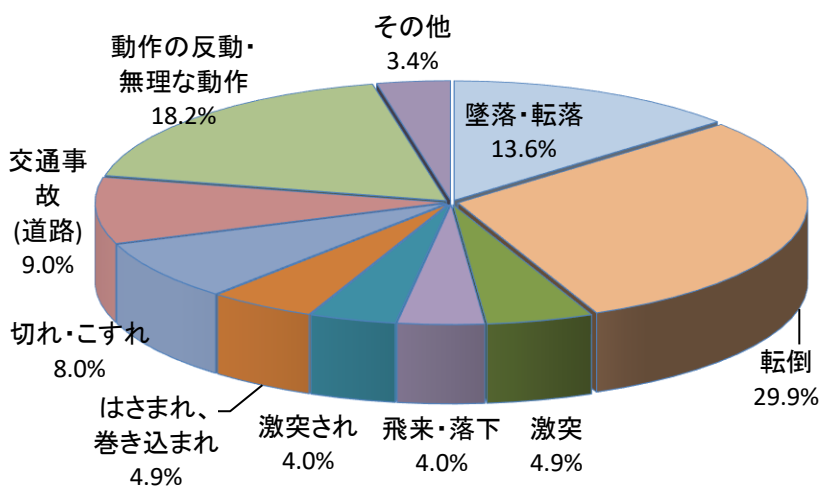
(3)年齢別の状況



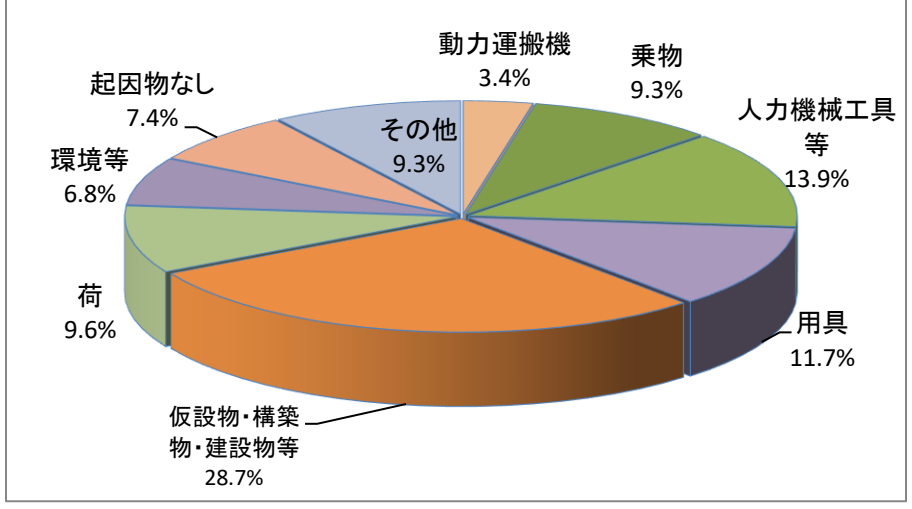
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

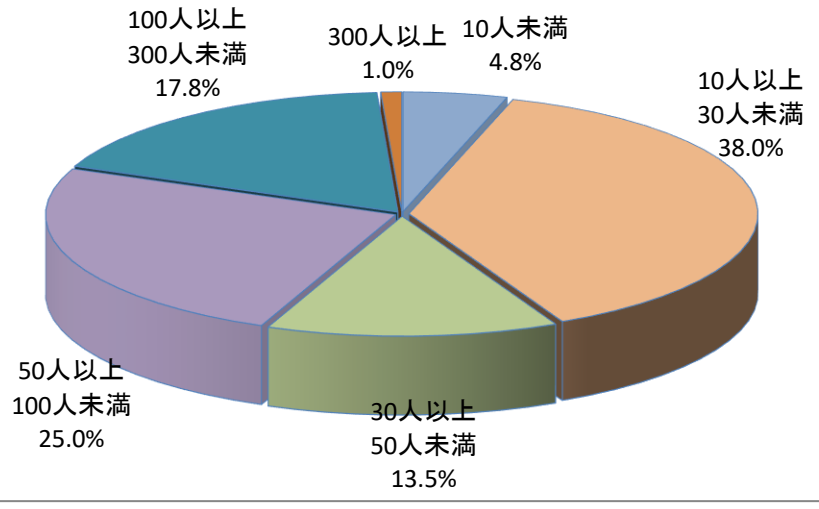


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が24.7%、と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が19.1%、「30人以上50人未満」17.9%となっている。50人未満の事業場が58.3%を占めている。
2. 被災程度別では、「1月以上3月未満」の災害が37.0%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」28.4%、「2週間以上1月未満」23.5%の順となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「50歳代」が25.0%、「40歳代」17.65%の順となっている。60歳以上は30.2%を占めている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が20.4%と最も多く、次いで「1年未満」が19.4%、「5年以上10年未満」16．4%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が29.9%と最も多くなっており、次いで「動作の反動・無理な動作」が18.2%、「墜落・転落」13.6%の順となっている。
6. 起因物別では、「建設物・構築物・仮設物」が28.7%と最も多く、次いで「人力機械工具等」が13.9%、「用具」11.7%と続いている。

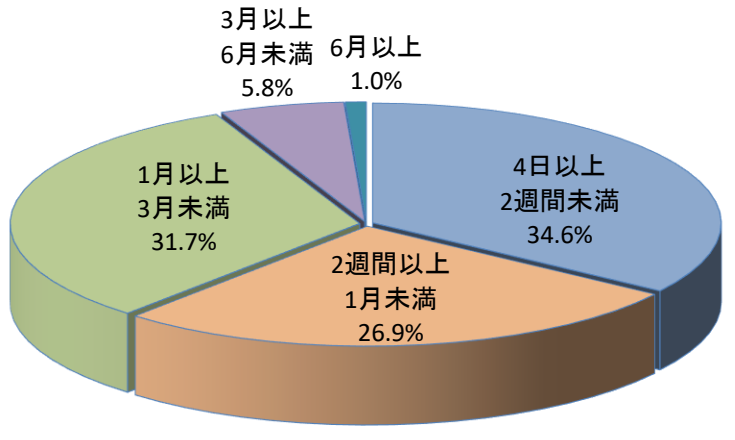
17-3.社会福祉施設における労働災害発生状況(令和元年)

(社会福祉施設：208人)

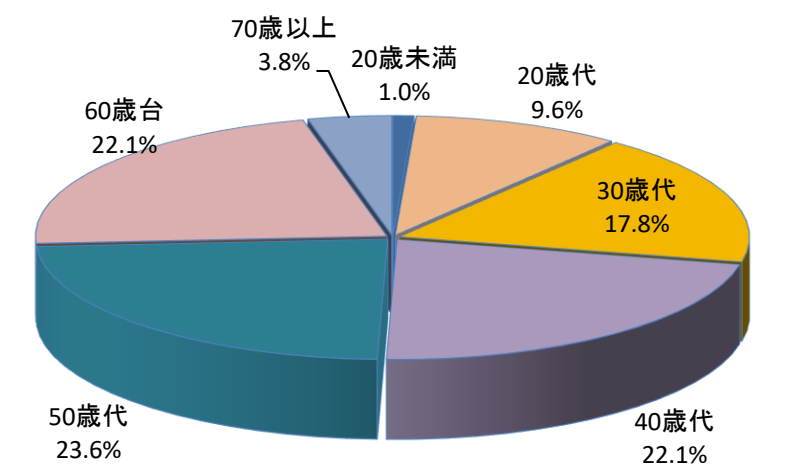
(1)事業場規模別の状況



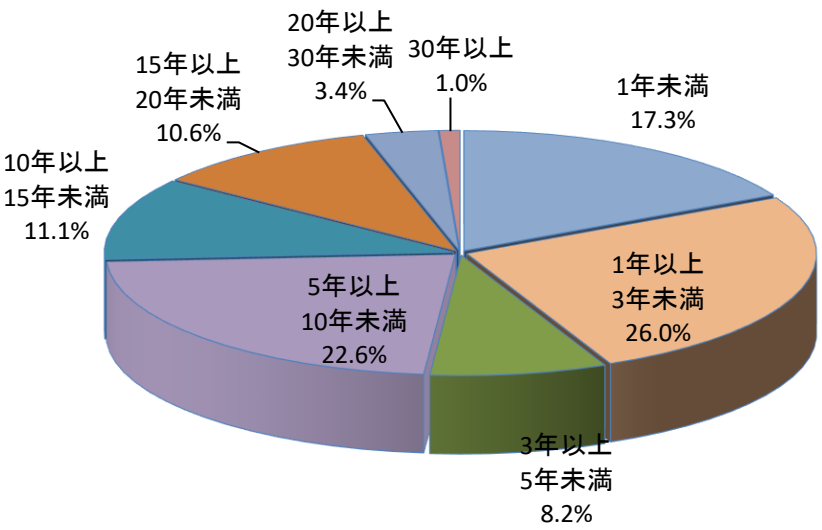
(2)被災程度別の状況



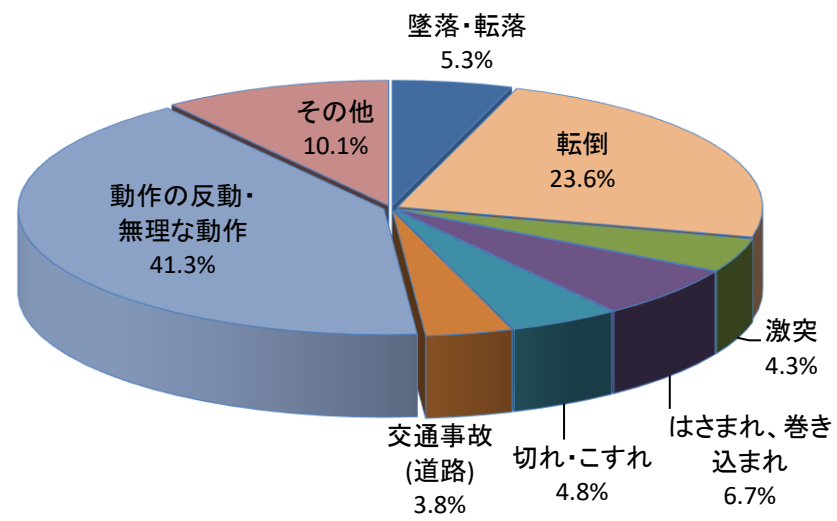
(3)年齢別の状況



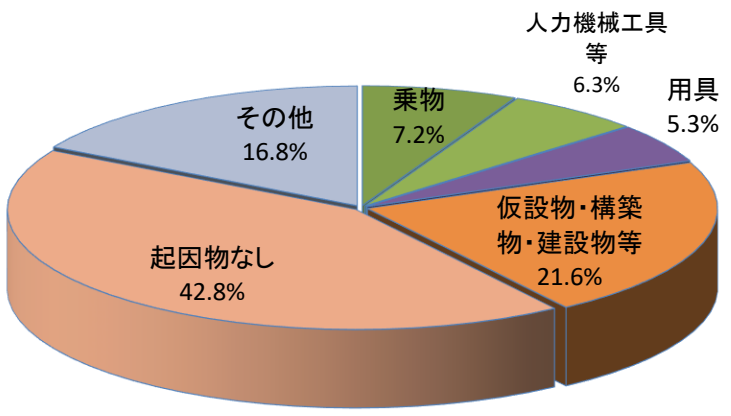
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

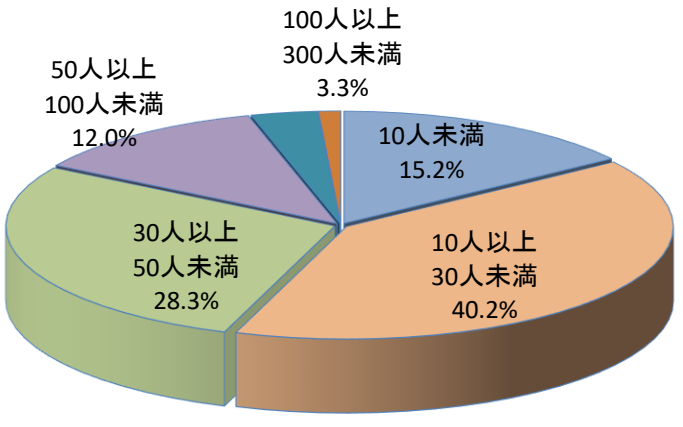


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が38.0%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が25.0%、「100人以上300人未満」17.8%の順となっている。50人未満の事業場が56.3%を占めている。
2. 被災程度別では、「4日以上2週間未満」が34.6%と最も多く、次いで「休業1月以上3月未満」が31.7%、「2週間以上1月未満」26.9%の順となっている。
3. 年齢別では、50歳代が23.6%と最も多く、次いで、60歳代、40歳代がそれぞれ22.1%となっている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が26.0と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が22.6%、「1年未満」が17.3%の順となっている。
5. 事故の型別では、「動作の反動、無理な動作」が41．3%(このうち43.0%が腰痛を発症している。)と最も多く、次いで「転倒」が23.6%となっている。
6. 起因物別では、「起因物なし(人など)」が42.8%(このうち事故の型が「動作の反動・無理な動作」は87.6%)と最も多く、次いで「建設物・構築物・仮設物」が21.6%の順となっている。

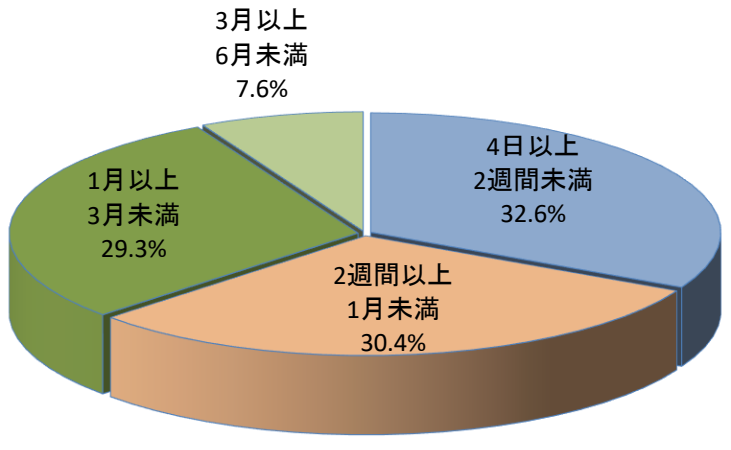
17-4.飲食店における労働災害発生状況(令和元年)

(飲食店：92人)

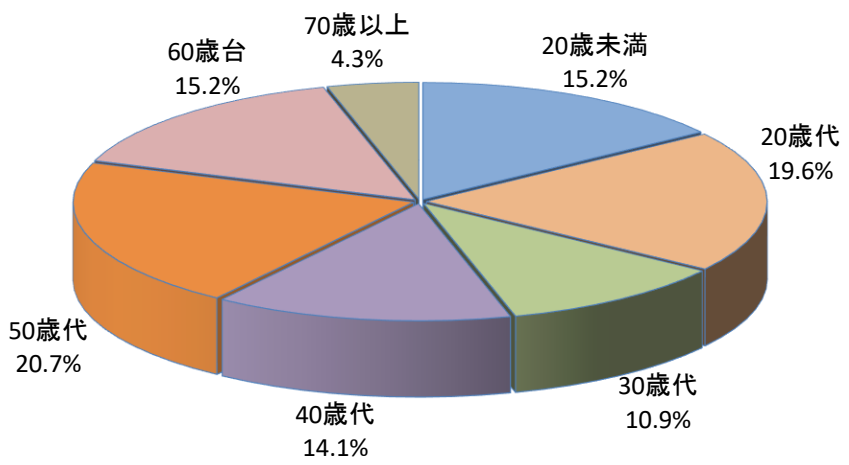
(1)事業場規模の状況



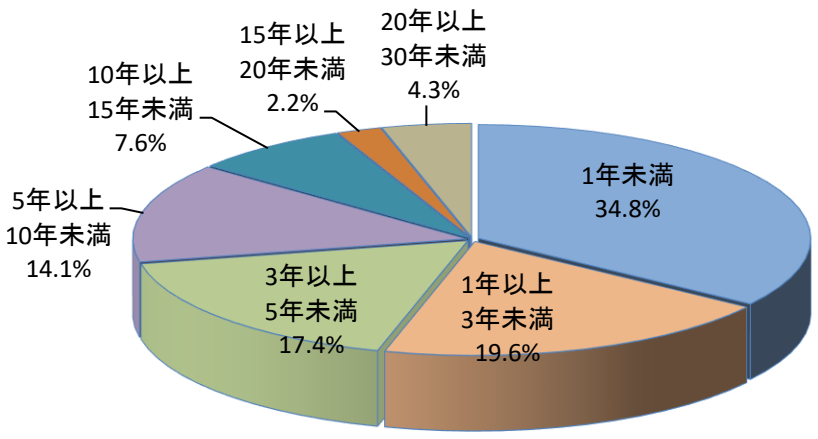
(2)被災程度別の状況



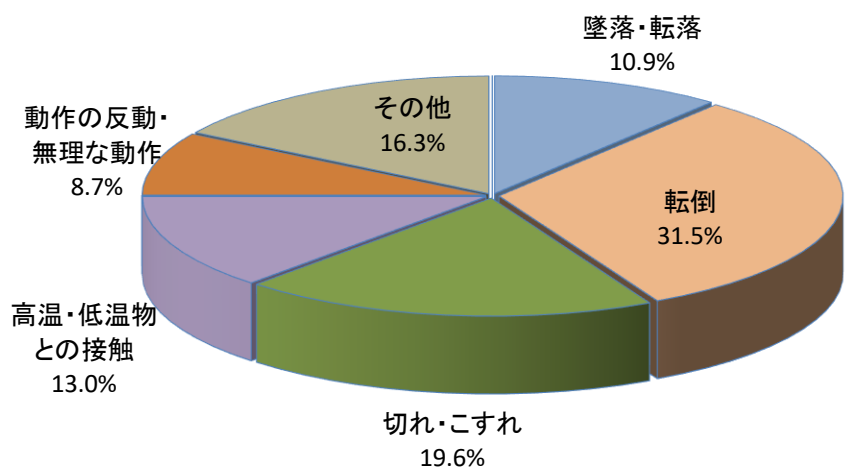
(3)年齢別の状況



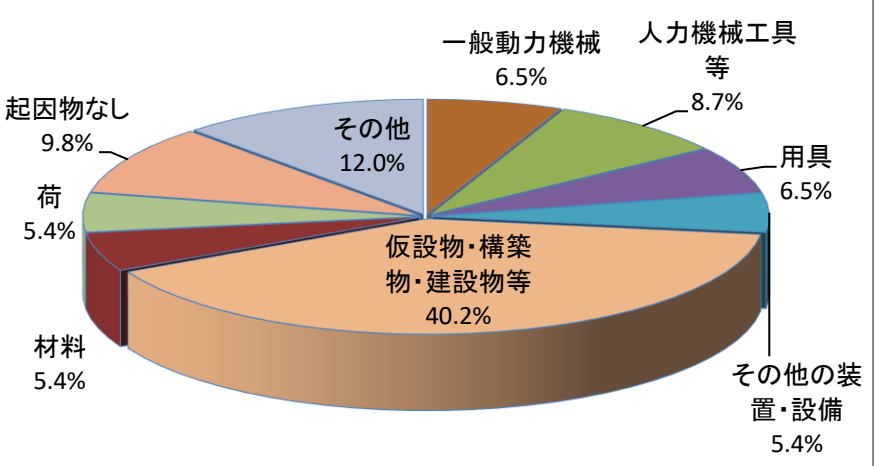
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

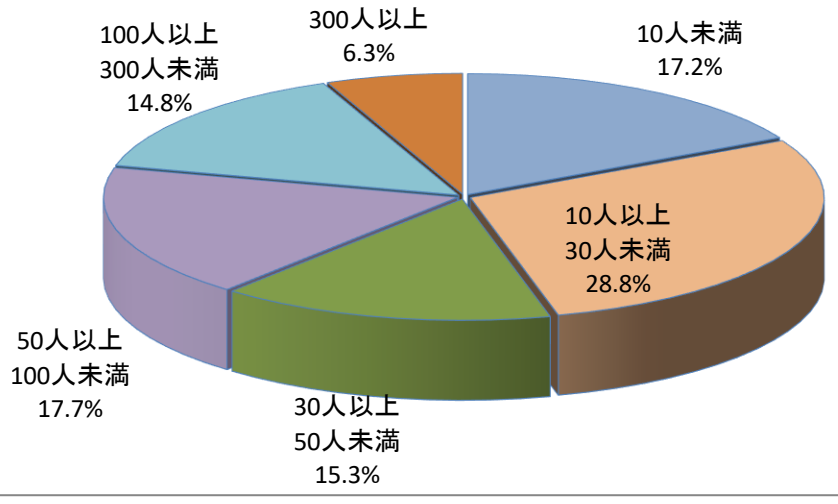


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が40.2%と最も多く、次いで「30人以上50人未満」が28.3%、「10人未満」15.2%の順となっている。50人未満の事業場が83.7%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「4日以上2週間未満」が32.6%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が30.4%、「1月以上3月未満」29.3%の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が20.7%と最も多く、次いで「20歳代」が19.6%、「60歳代」、「20歳未満」がそれぞれ15.2%の順となっている。60歳以上は19.5%となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が34.8%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が19.6%、「3年以上5年未満」17.4%の順となっている。3年未満が54.4%となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が31.5%と最も多く、次いで「切れ・こすれ」が19.6%、「高温・低温の物との接触」13.0%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・構築物・建設物等」が40.2%と最も多く、次いで「起因物なし」が9.8%、「人力機械工具等」8.7%の順になっている。

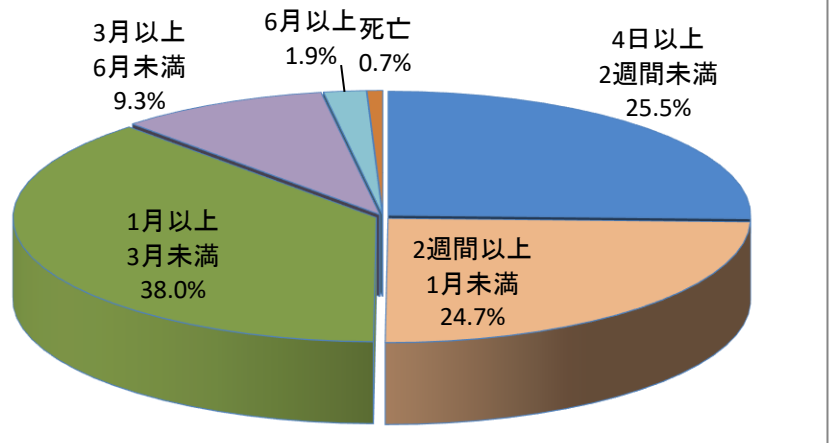
12.全産業における労働災害発生状況(令和元年)

（全産業：2,432人）

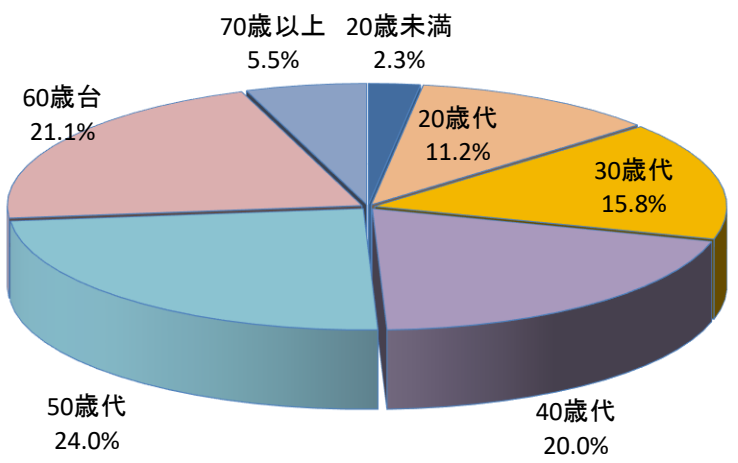
(1)事業場規模別の状況



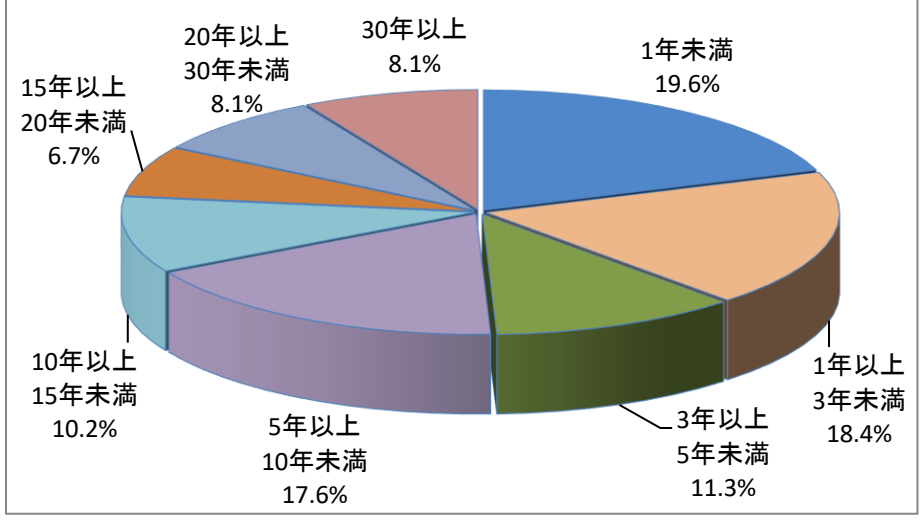
(2)被災程度別の状況



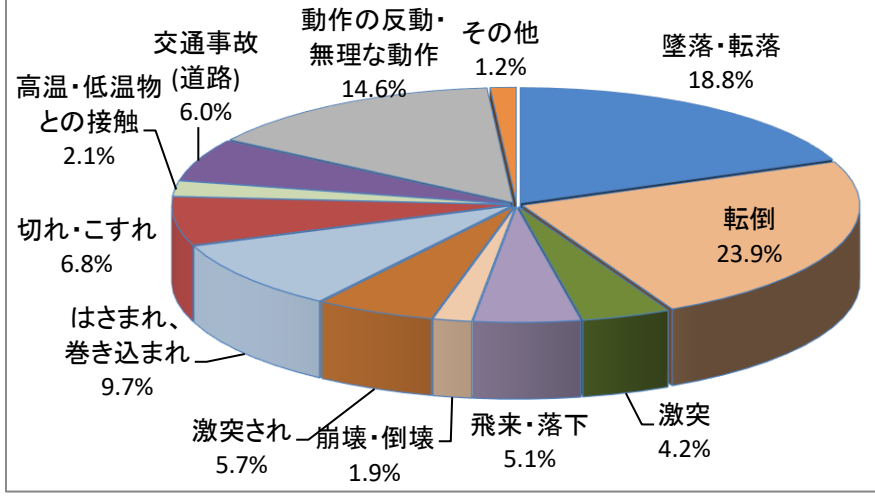
(3)年齢別の状況



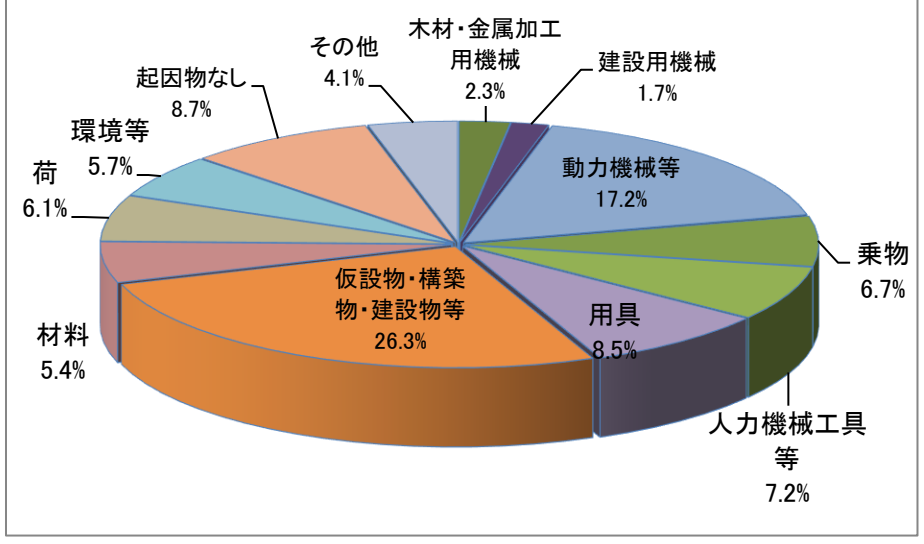
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

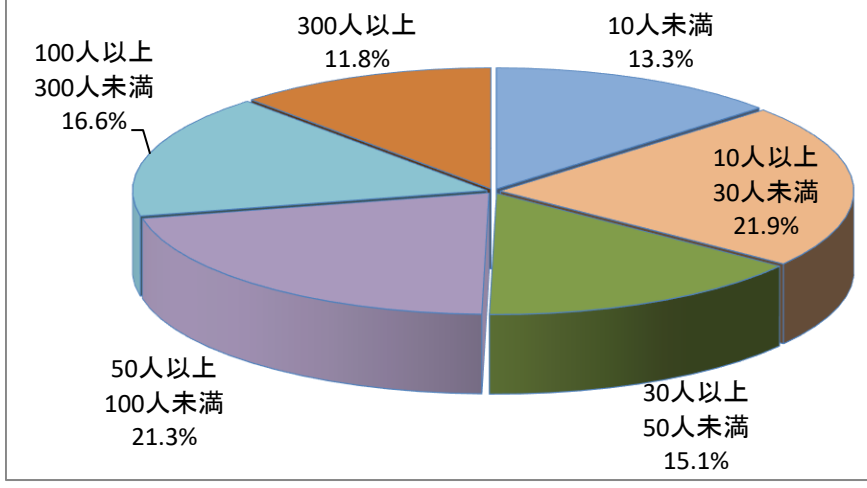


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が28.8%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.7%、「10人未満」が17.2%、「30人以上50人未満」15.3%の順となっている。 50人未満の事業場が61.3%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が38.0%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」が25.5%、「2週間以上1月未満」24.7%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合は49.9%である。
3. 年齢別では、「50歳代」が24.0%と最も多く、次いで「60歳代」が21.1%、「40歳代」20.0%の順となっている。60歳以上の被災が26.6%と4分の1以上を占めている。
4. 経験年数では、「1年未満」が19.6%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が18.4%、「5年以上10年未満」17.6%の順となっている。経験年数が短い者の割合が高くなっている。
5. 事故の型は、「転倒」が23.9%と最も多く、次いで「墜落・転落」が18.8%、「動作の反動・無理な動作」14.6%（このうち23.1%が腰痛を発症している。）、「はさまれ・巻き込まれ」9.7%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が26.3%と最も多く、次いで「動力機械等」が17.2%、「用具」8.5%の順となっている。（※「動力機械等」は、一般動力機械（食品等加工機械、ロール機等）、動力クレーン等、動力運搬機等の合計）

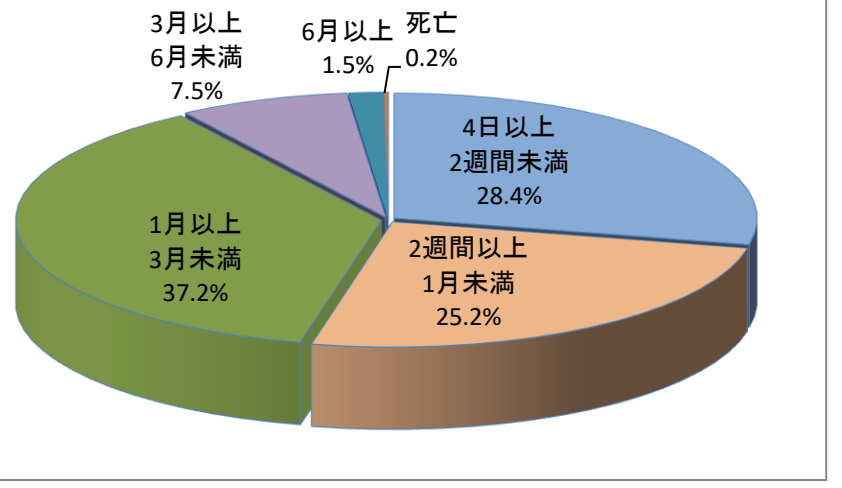
13.製造業における労働災害発生状況(令和元年)

(製造業:465人)

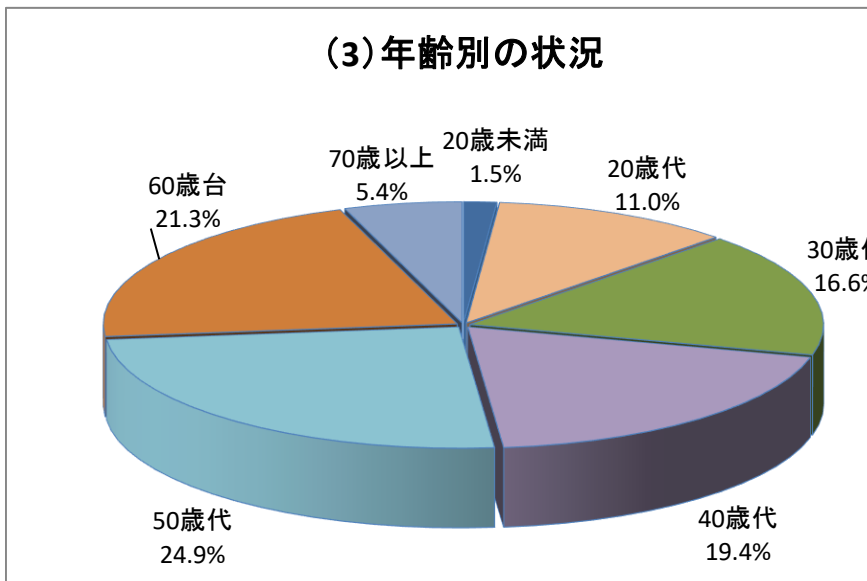
(1)事業場規模の状況



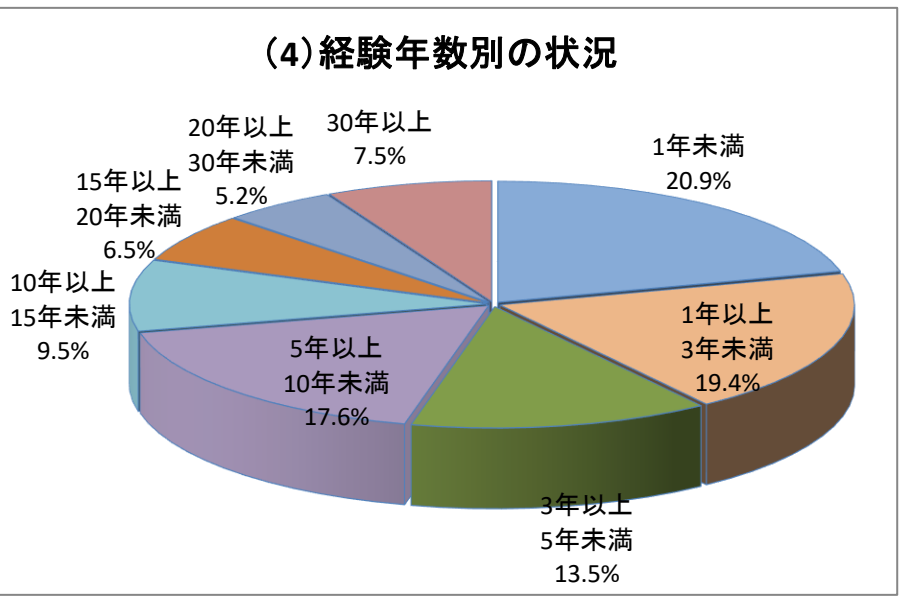
(2)被災程度別の状況



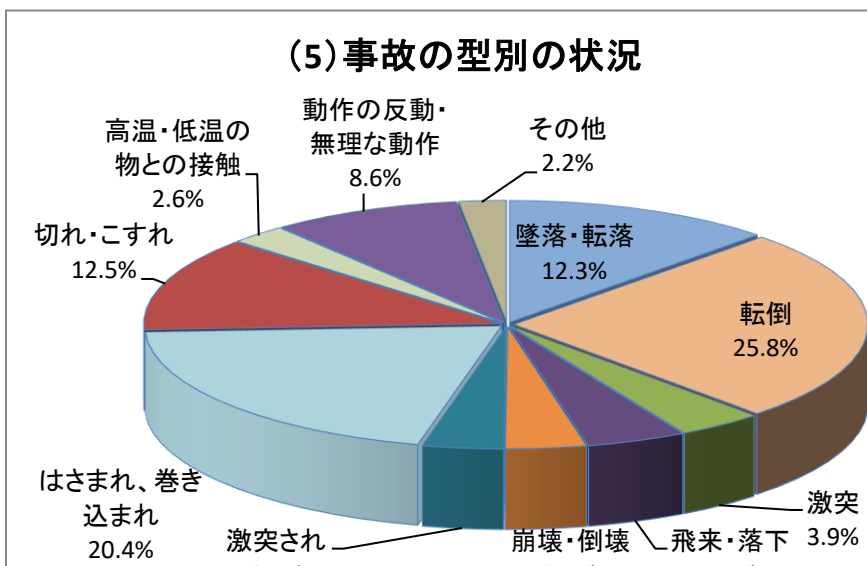
(3)年齢別の状況



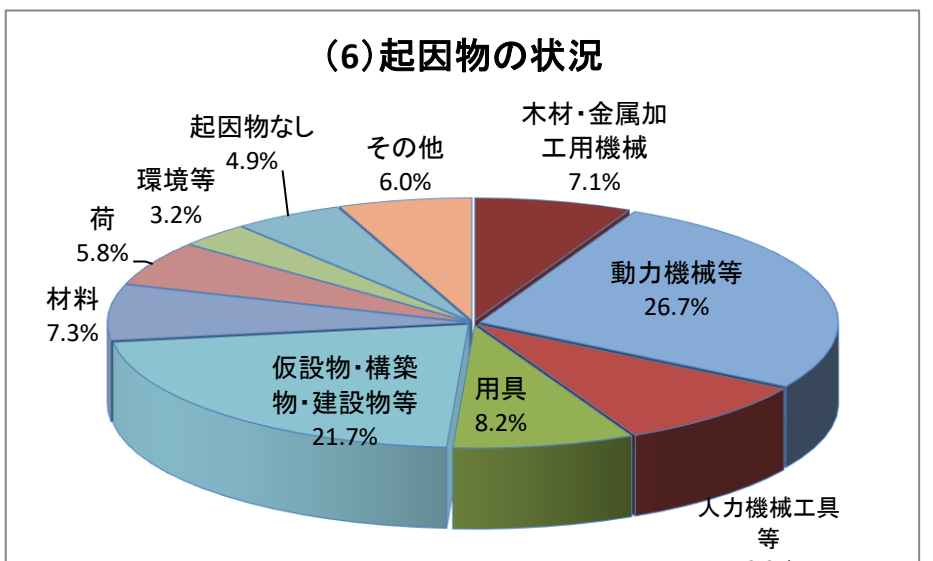
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物の状況

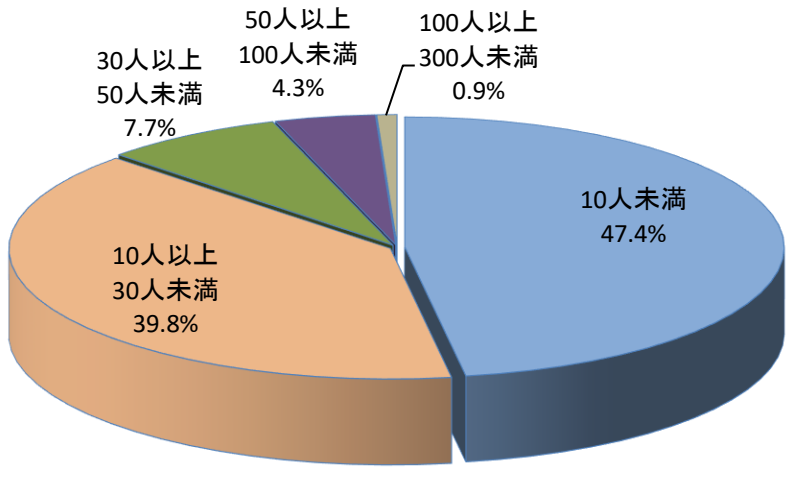


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が21．9%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が21.3%、「100人以上300人未満」が16.6%、「30人以上50人未満」が15.1%の順となっている。 50人未満の事業場が50.3%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が37.2%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」が28.4%、「2週間以上1月未満」が25.2%の順となっている。休業日数が1月未満の災害は53.6%、3月未満の災害は90.8%となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が24.9%と最も多く、次いで「60歳代」が21.3%、「40歳代」が19.4%の順となっている。60歳以上は26.7%を占めている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が20.9%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が19.4%、「5年以上10年未満」が17.6%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が25.8%と最も多く、「はさまれ・巻き込まれ」が20.4%、「切れ・こすれ」が12.5%、墜落・転落が12.3%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力機械等」が26.7%と最も多く、「仮設物、建築物、構築物等」(通路等)が21.7%、「人力機械工具等」が9.0%の順となっている。(※「動力機械等」は、一般動力機械(食品等加工機械、ロール機等)、動力クレーン等、動力運搬機等の合計)

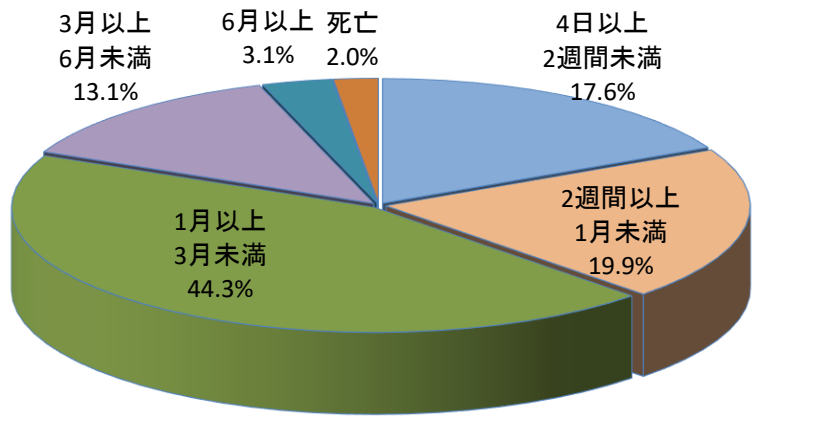
14.建設業における労働災害発生状況(令和元年)

(建設業:352人)

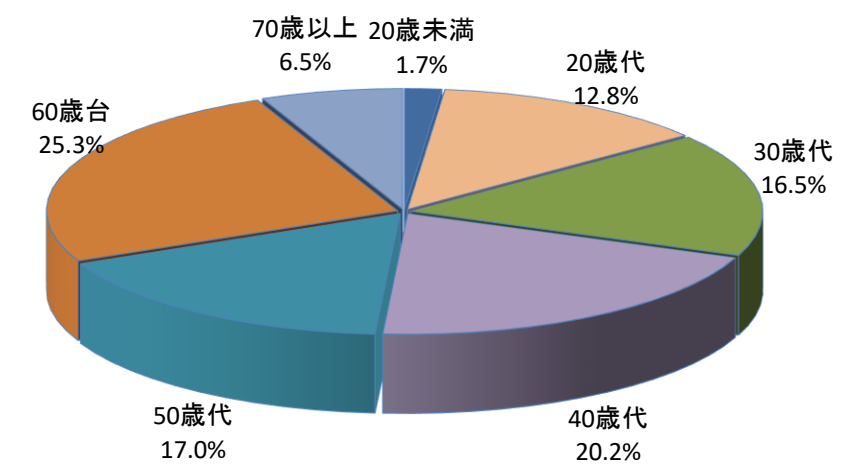
(1)事業場規模別の状況



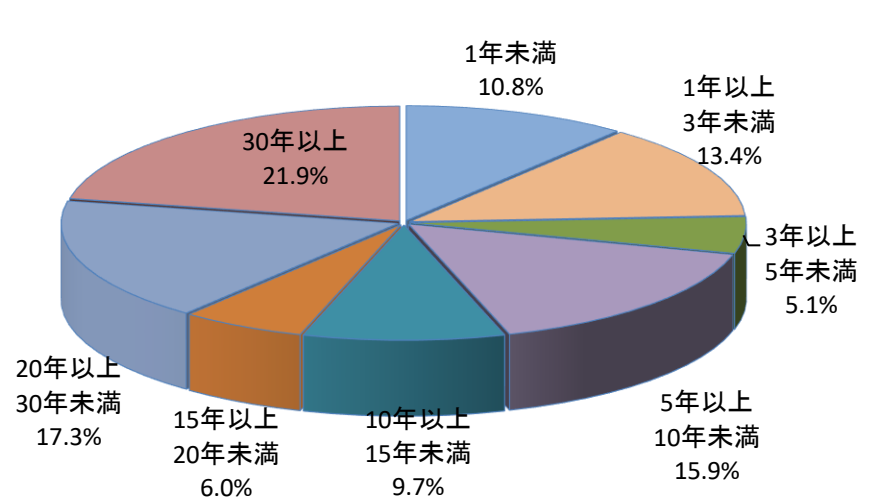
(2)被災程度別の状況



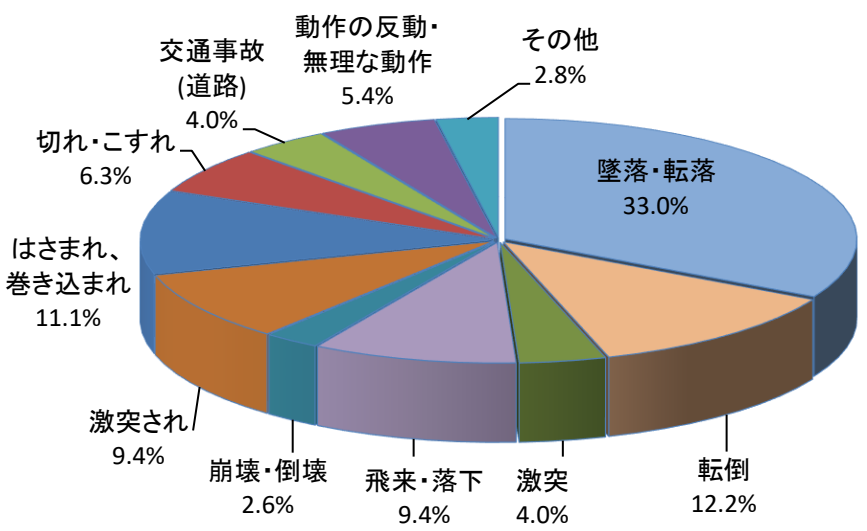
(3)年齢別の状況



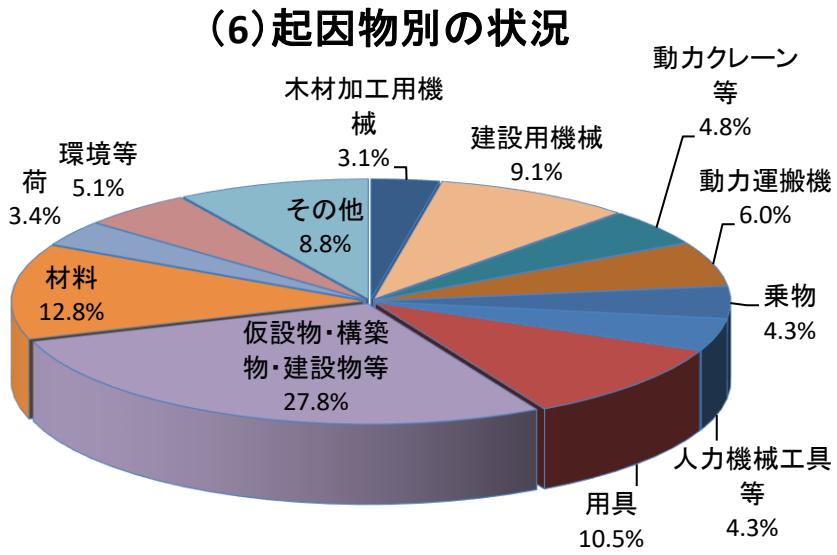
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



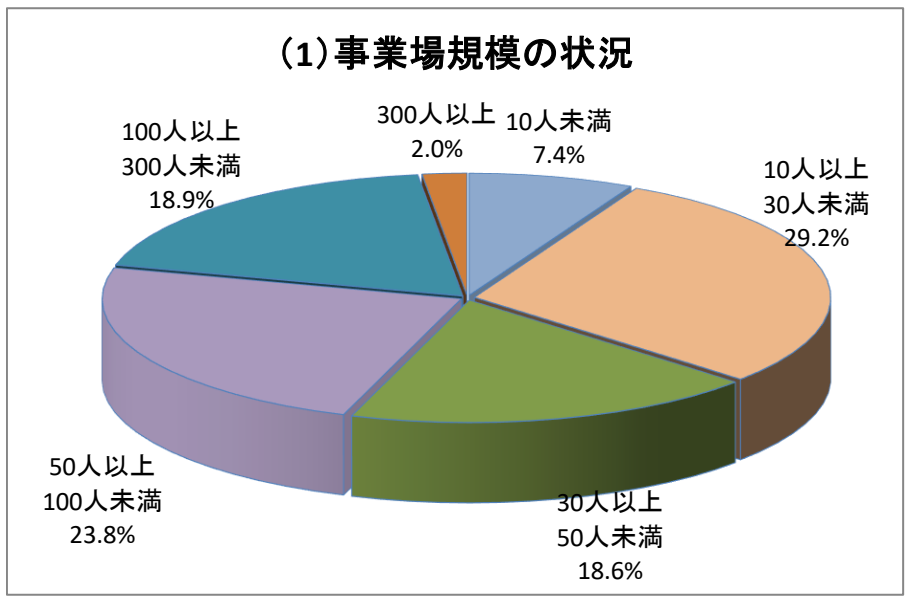
(6)起因物別の状況

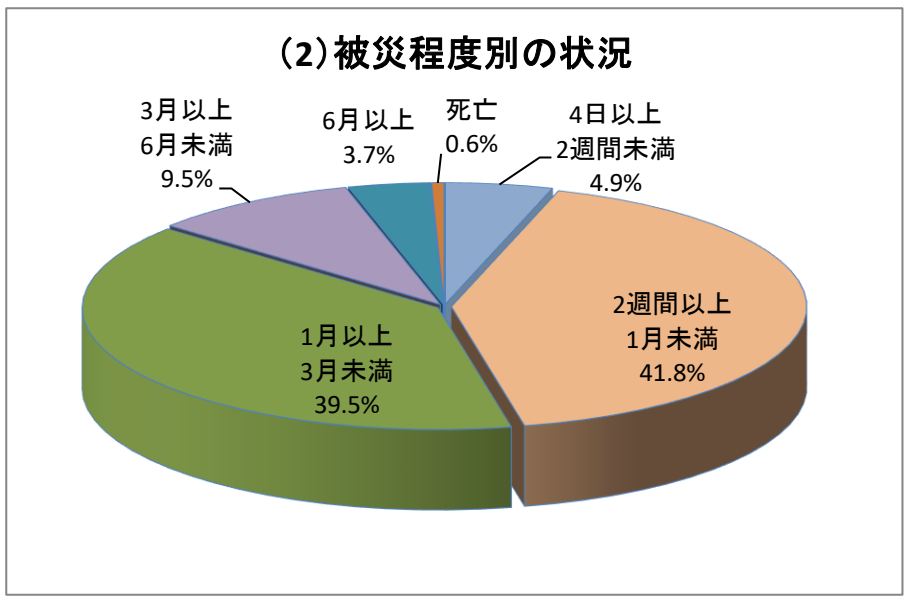


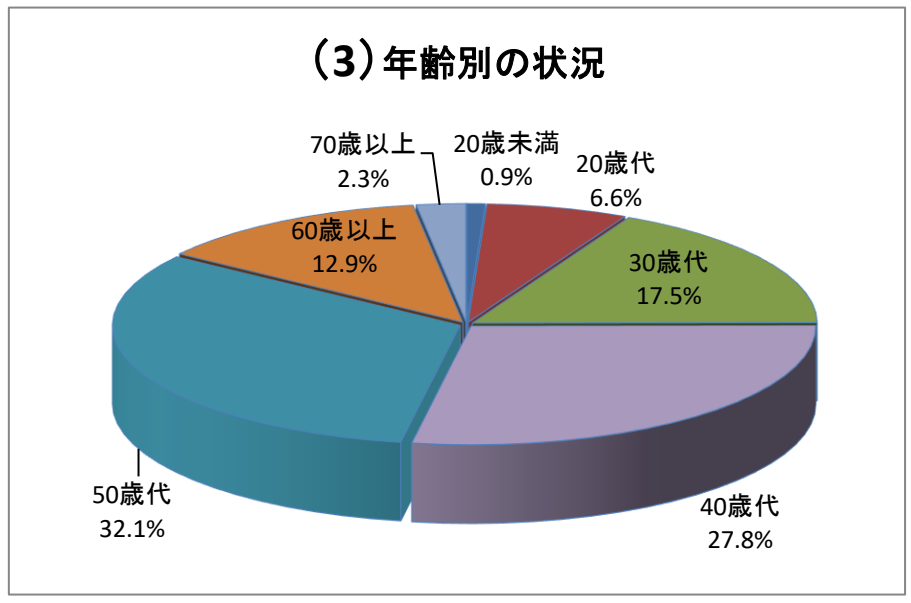
1. 「被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が44. 3%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が19.9%、「4日以上2週間未満」が17.6%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合が62.5%となっている。
2. 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「40歳代」が20.2%、「50歳代」が17.0%の順となっている。60歳代以上が31.8%と3分の1を占めている。
3. 経験年数別では、「30年以上」が21.9%と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が17.3%、「5年以上10年未満」が15.9%の順となっている。経験年数が長い者の割合が高い。
4. 事故の型別では、「墜落・転落」によるものが33.0%と最も多く、次いで「転倒」が12.2%、「はさまれ、巻き込まれ」が11.1%の順となっている。
5. 起因物別では、「仮設物、建設物、構築物等」(屋根、梁、足場等)が27.8%と最も多く、次いで「材料」が12.8%、「用具」(はしご、脚立、玉掛用具等)が10.5%の順となっている。

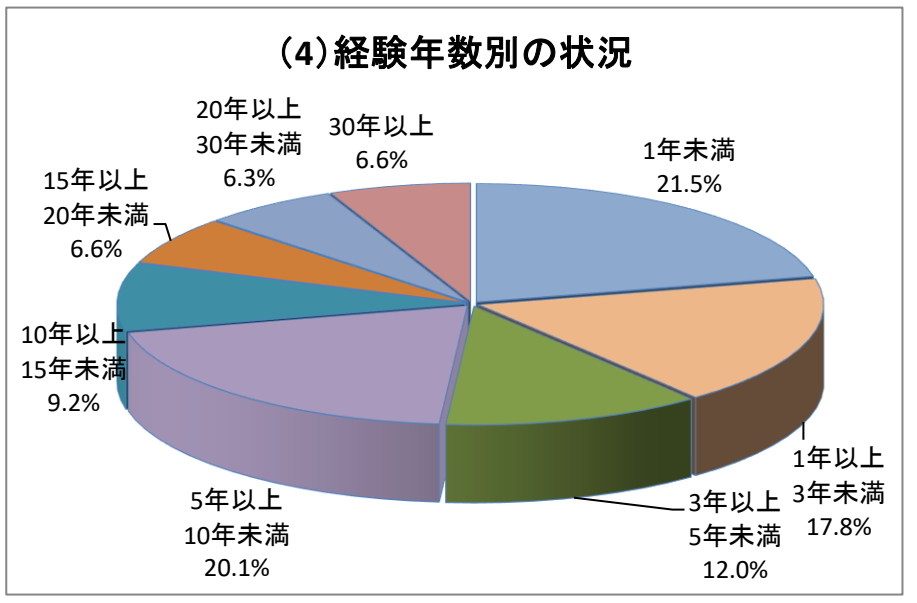
15.陸上貨物運送事業における労働災害発生状況(令和元年)

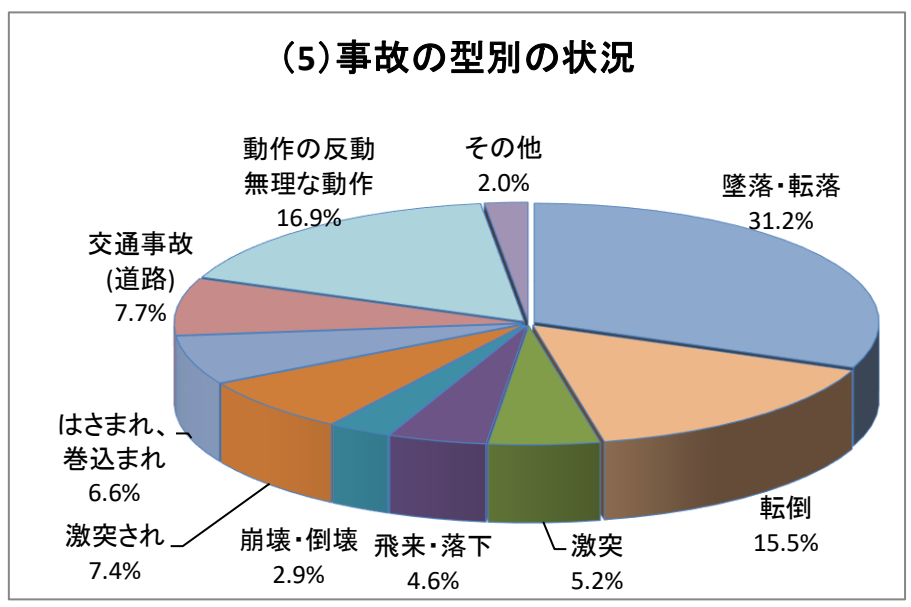
(陸上貨物運送事業:349人)

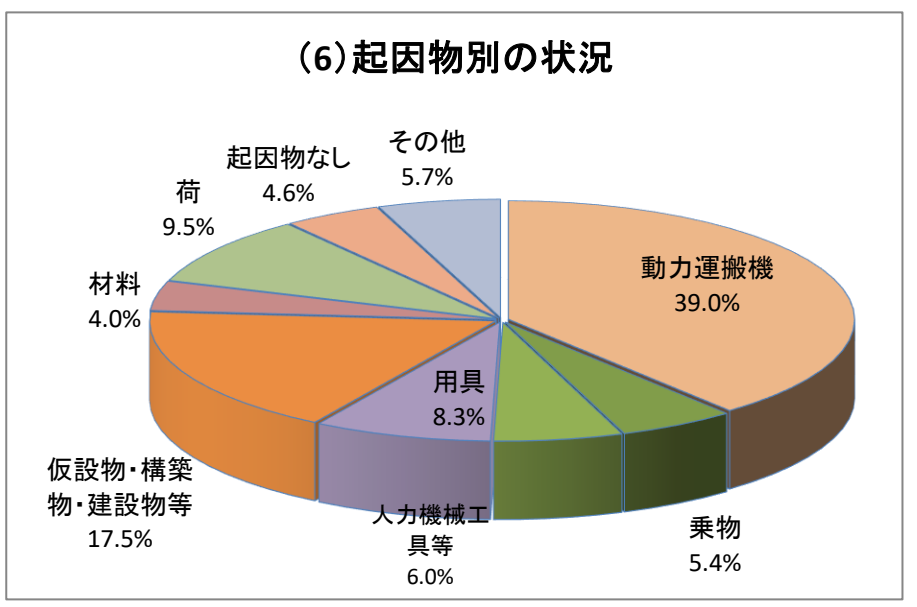










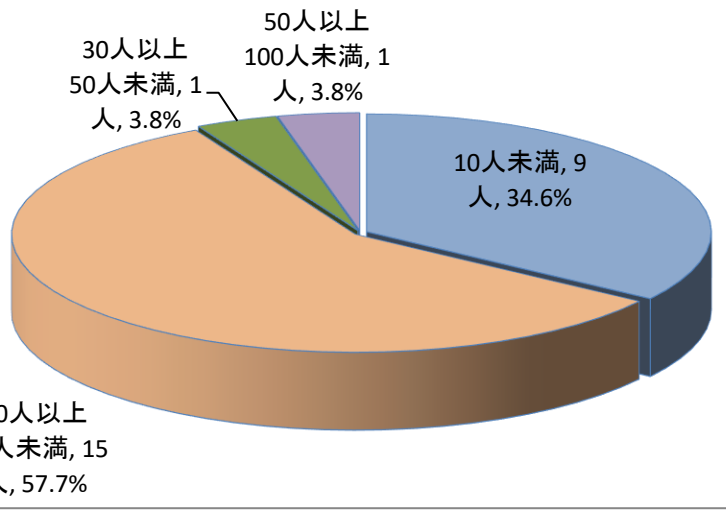


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が29.2%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が23.8%、「30人以上50人未満」が18.6%の順となっている。「50人未満」の事業場が55.2%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」が41.8%と最も多く、次いで、「1月以上3月未満」の災害が39.5%となっている。休業日数「1月以上」の災害の割合は53.3%である。
3. 年齢別では、「50歳代」が32.1%と最も多く、次いで「40歳代」が27.8%の順となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が21.5%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が20.1%、「1年以上3年未満」が17.8%の順となっている。
5. 事故の型別では、「墜落・転落」が31.2%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が16.9%(このうち22.0%で腰痛を発症している。)、「転倒」が15.5%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力運搬機」(トラック、フォークリフト等)が39.0%と最も多く、次いで「仮設物、建築物、構築物等」(通路、階段等)が17.5%、「荷」が9.5%の順となっている。

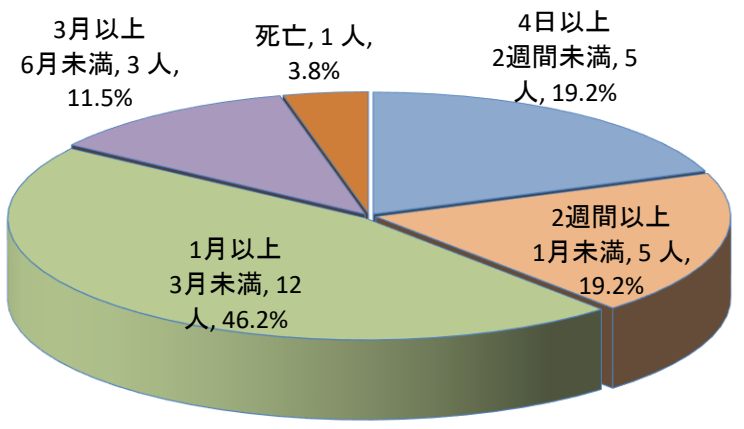
16.林業における労働災害発生状況(令和元年)

（林業：26人）

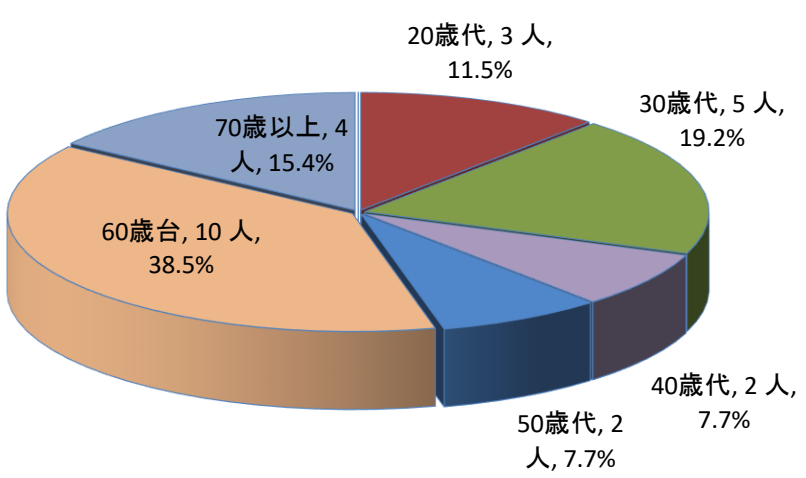
（1）事業場規模の状況



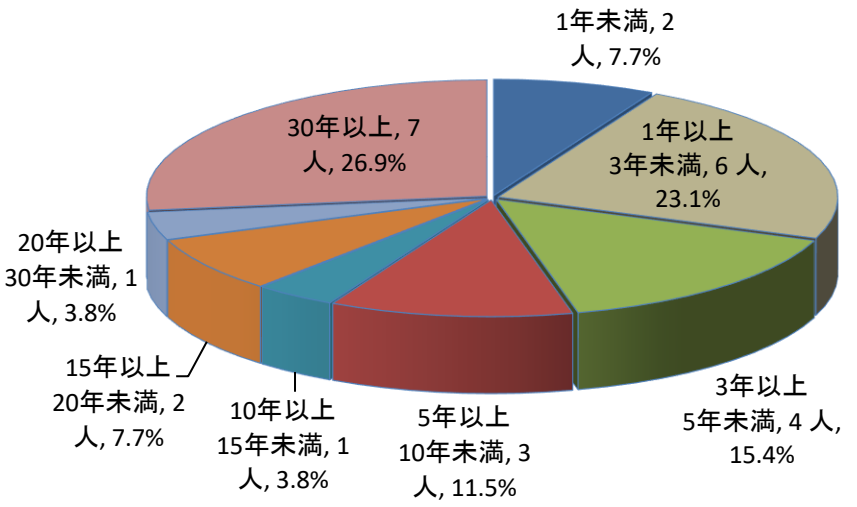
（2）被災程度別の状況



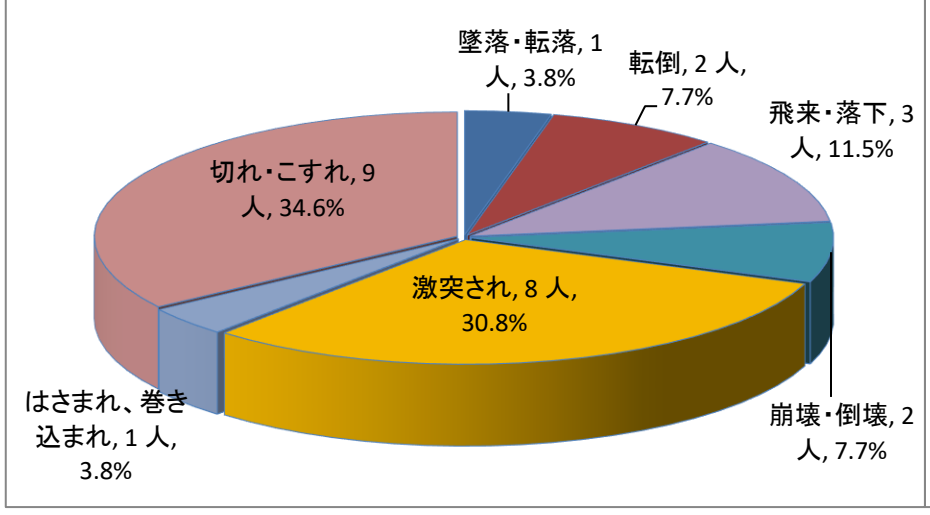
（3）年齢別の状況



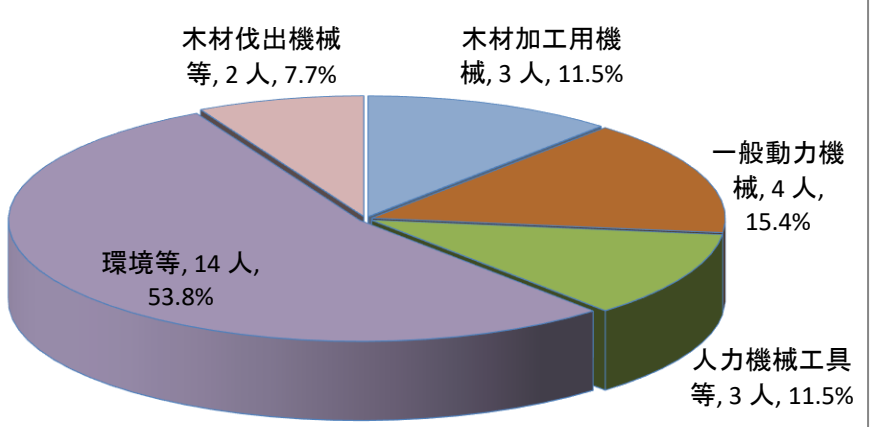
（4）経験年数別の状況



（5）事故の型別の状況



（6）起因物別の状況

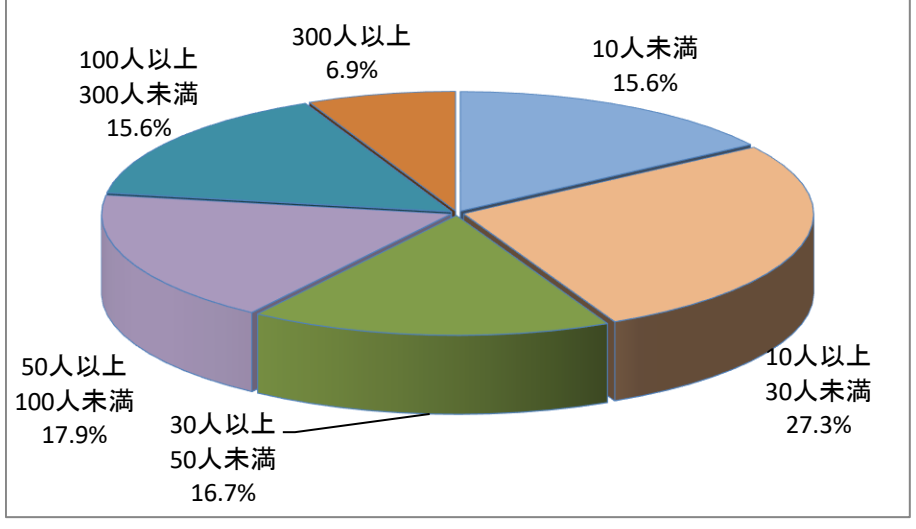


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が57.7％と最も多く、次いで「10人未満」が34.6％となっている。
2. 被災程度別では、「休業1月以上3月未満」が46.2％で最も多く、次いで「休業4日以上2週間未満」、「2週間以上1月未満」がそれぞれ19.2％となっている。全体の61.5％が休業日数1月以上の災害となっている。
3. 年齢別では、60歳代が38.5％と最も多く、次いで30歳代が19.2％、70歳以上15.4％と続いている。60歳以上で53.9％を占める。
4. 経験年数別では、「30年以上」が26.9％と最も多く、「1年以上3年未満」23.1％、「3年以上5年未満」15.4％の順となっている。
5. 事故の型別では、「切れ・こすれ」34.6％と最も多く、次いで「激突され」が30.8％、「飛来・落下」11.5％の順になっている。
6. 起因物別では、「環境等」（立木、地山等）が53.8％と最も多く、次いで「一般動力機械」15.4％となっている。

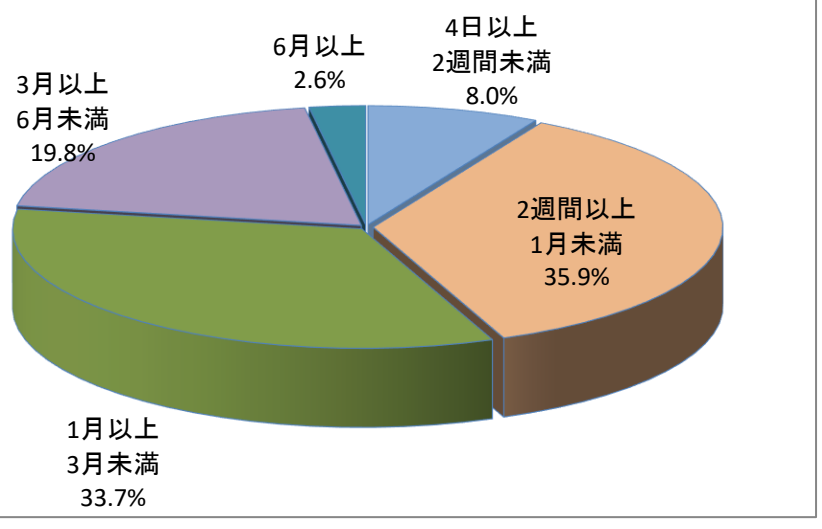
17-1.商業における労働災害発生状況(令和元年)

（商業：436人）

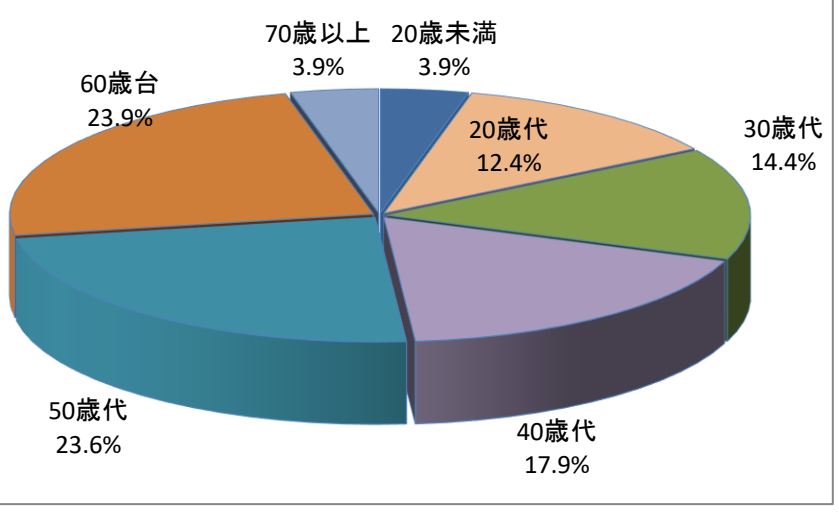
(1)事業場規模別の状況



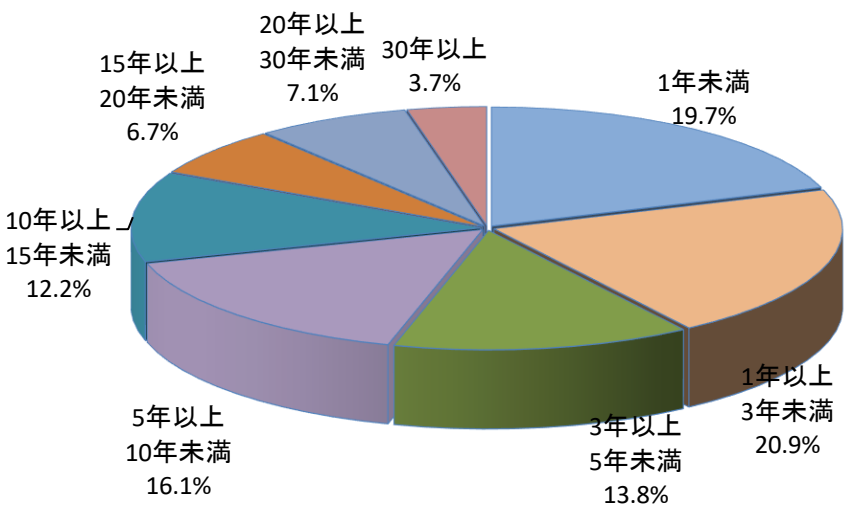
(2)被災程度別の状況



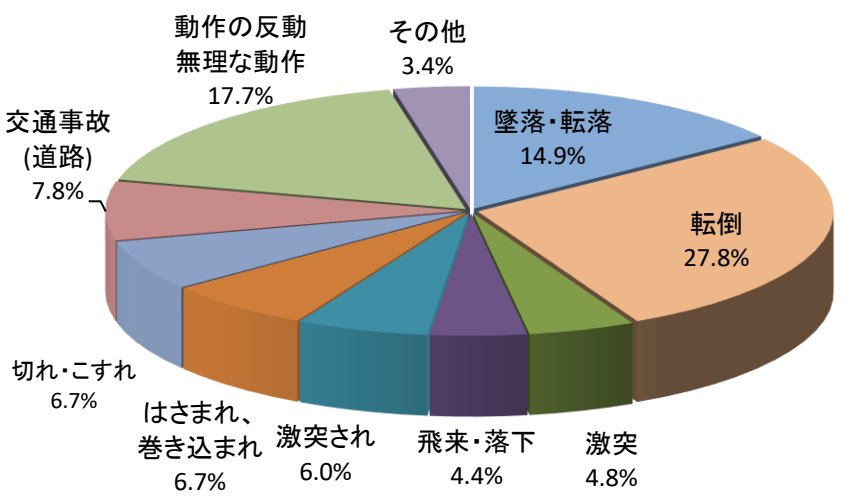
(3)年齢の状況



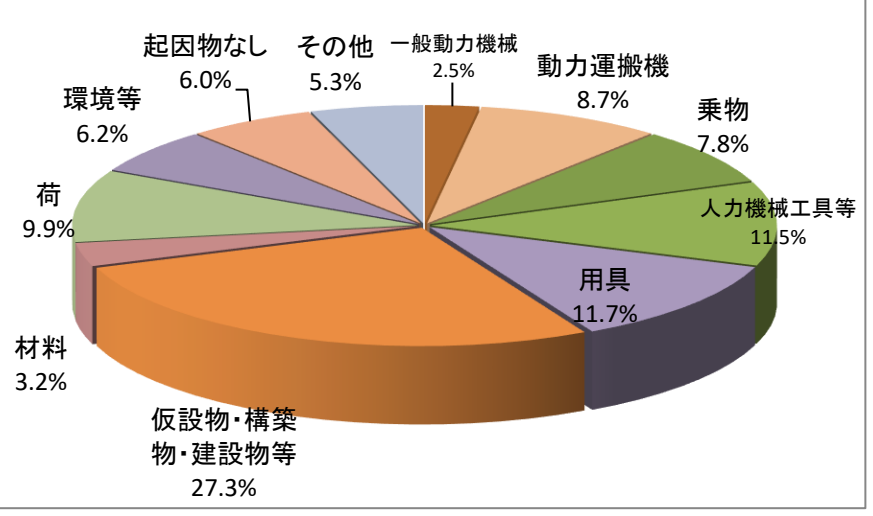
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

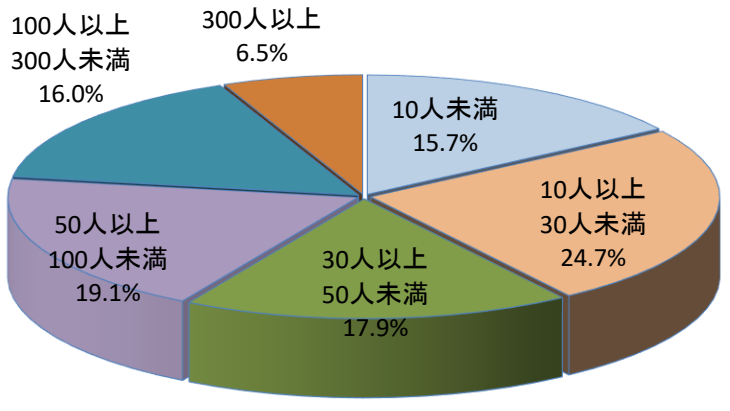


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が27.3%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が17.9%、「30人以上50人未満」16.7%の順となっている。50人未満の事業場が59.6%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」の災害が35.9と最も多く、次いで「1月以上3月未満」が33.7%、「3月以上6月未満」19.8%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合は56.1%となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が23.9%と最も多く、次いで「50歳代」が23.6%、「40歳代」17.9%の順となっている。60歳代以上は27.8%となっている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が20.9%と最も多く、次いで「1年未満」が19.7%、「5年以上10年未満」が16.1%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が27.8%と最も多く、次いで、「動作の反動・無理な動作」が17.7%（このうち19.5%が腰痛を発症している。）、「墜落・転落」14.9%の順となっている。
6. 起因物別では、「建設物・構築物・仮設物等」が27.3%と最も多く、次いで「用具」が11.7%、「人力機械工具等」11.5%の順になっている。

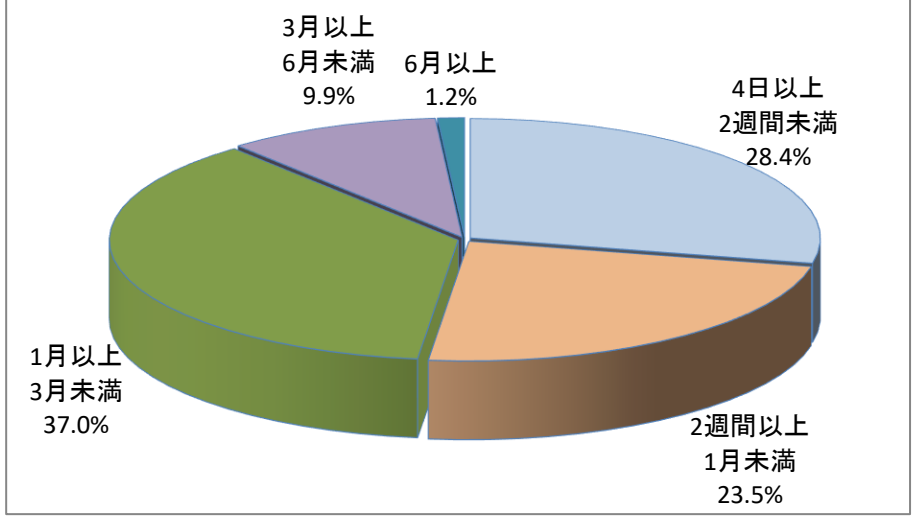
17-2.小売業における労働災害発生状況(令和元年)

（小売業：324人）

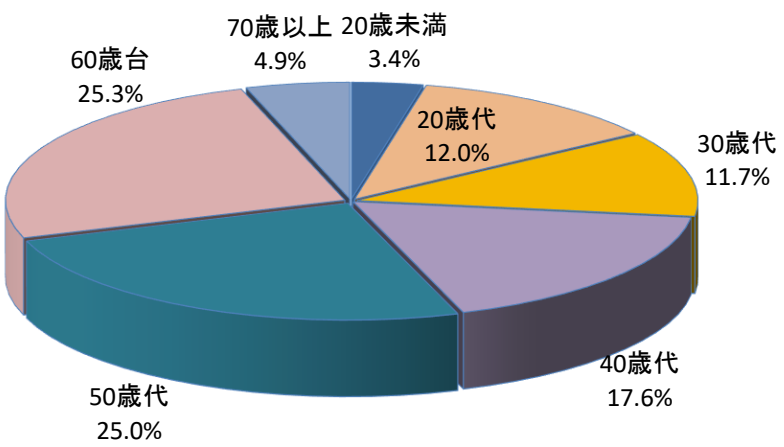
(1)事業場規模別の状況



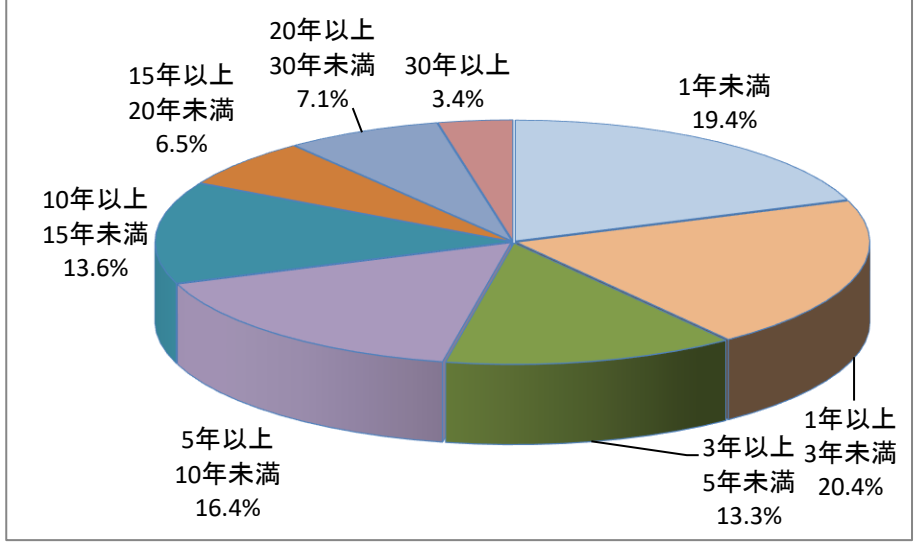
(2)被災程度別の状況



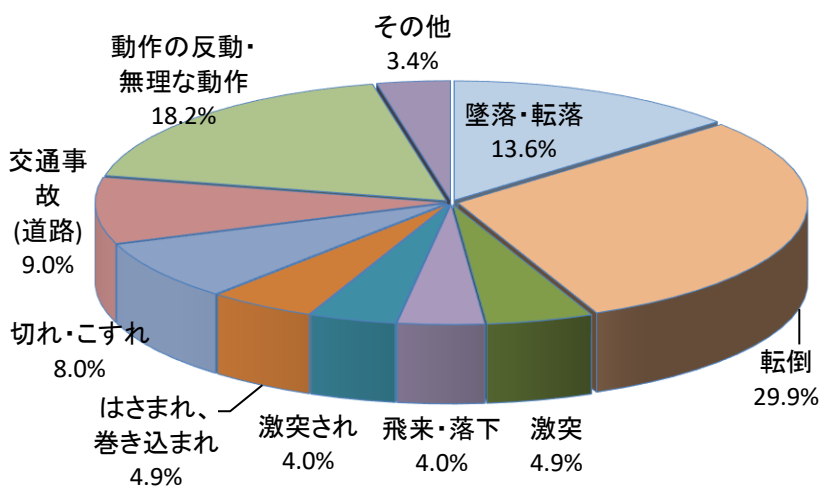
(3)年齢別の状況



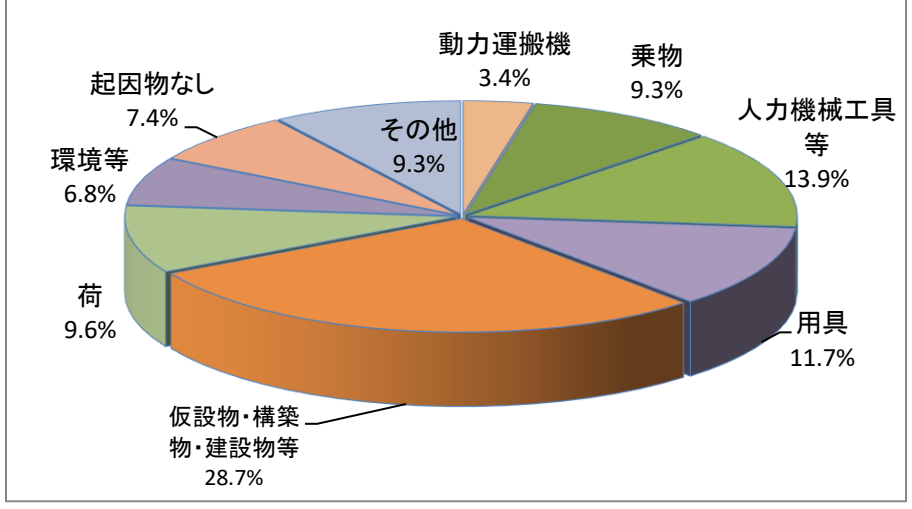
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

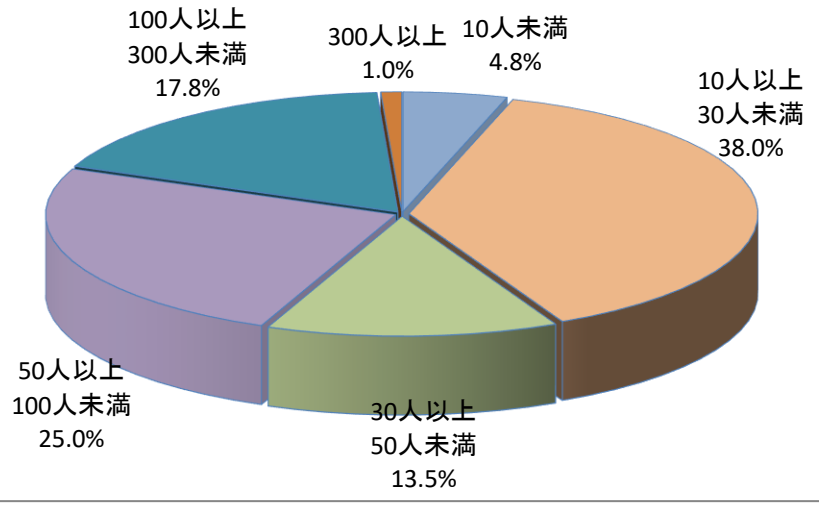


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が24.7%、と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が19.1%、「30人以上50人未満」17.9%となっている。50人未満の事業場が58.3%を占めている。
2. 被災程度別では、「1月以上3月未満」の災害が37.0%と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」28.4%、「2週間以上1月未満」23.5%の順となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「50歳代」が25.0%、「40歳代」17.65%の順となっている。60歳以上は30.2%を占めている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が20.4%と最も多く、次いで「1年未満」が19.4%、「5年以上10年未満」16．4%の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が29.9%と最も多くなっており、次いで「動作の反動・無理な動作」が18.2%、「墜落・転落」13.6%の順となっている。
6. 起因物別では、「建設物・構築物・仮設物」が28.7%と最も多く、次いで「人力機械工具等」が13.9%、「用具」11.7%と続いている。

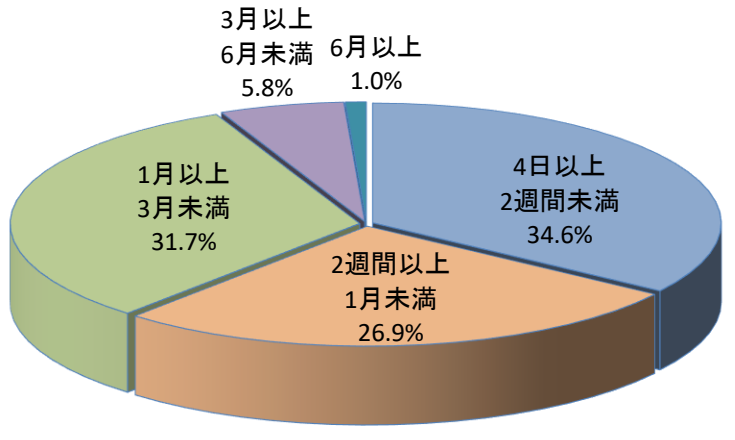
17-3.社会福祉施設における労働災害発生状況(令和元年)

(社会福祉施設：208人)

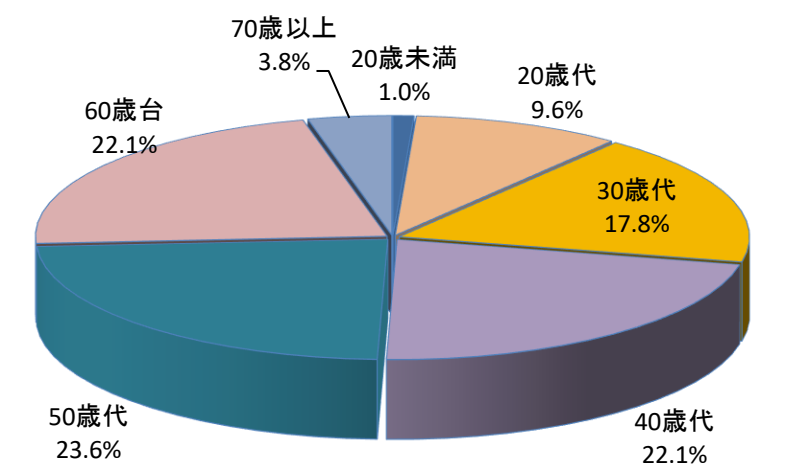
(1)事業場規模別の状況



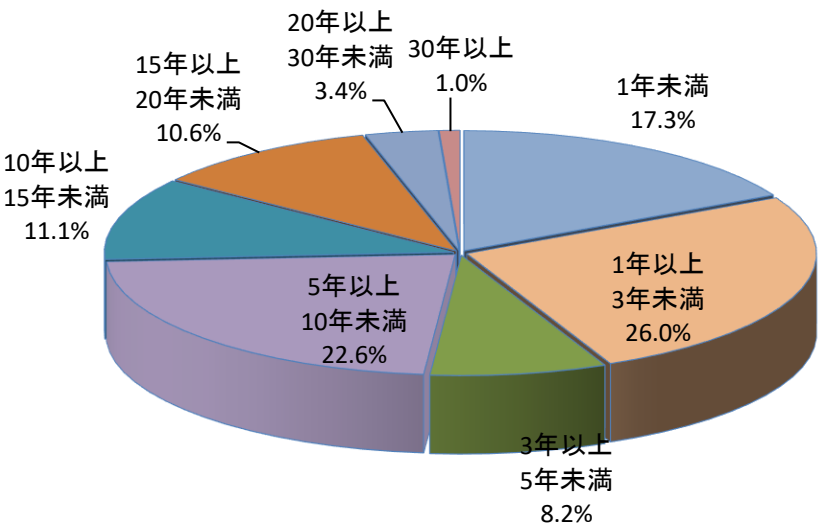
(2)被災程度別の状況



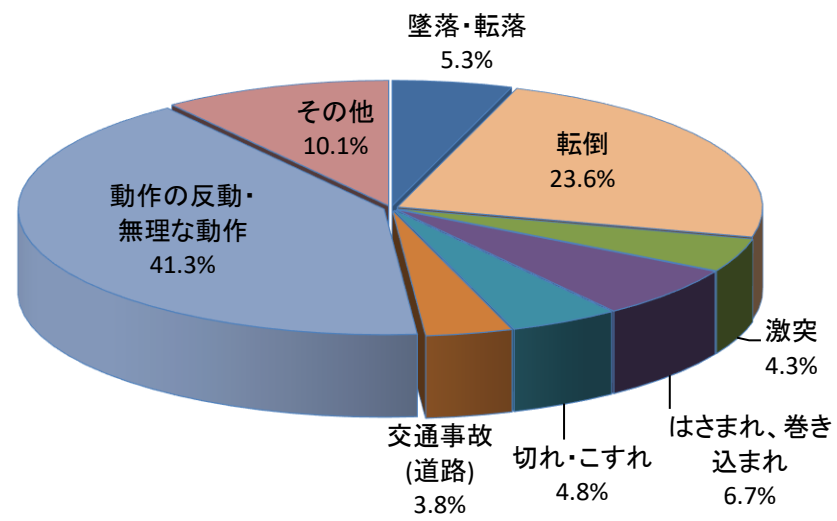
(3)年齢別の状況



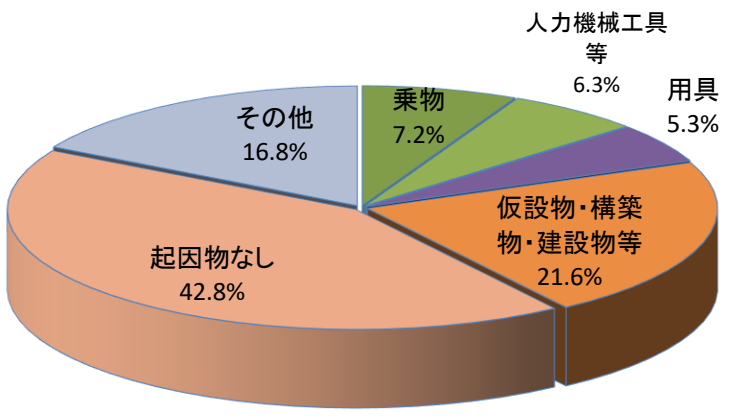
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

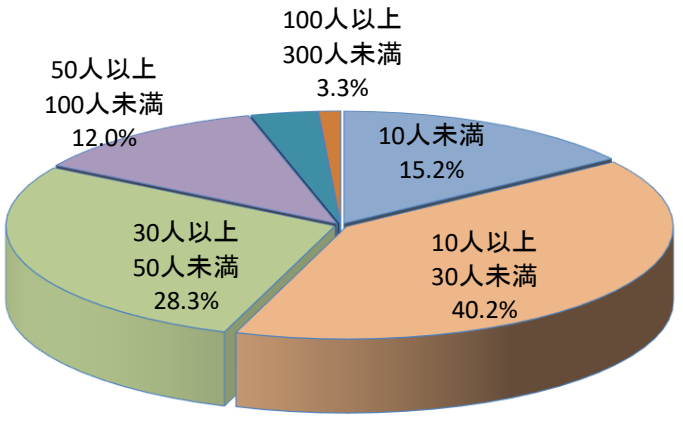


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が38.0%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が25.0%、「100人以上300人未満」17.8%の順となっている。50人未満の事業場が56.3%を占めている。
2. 被災程度別では、「4日以上2週間未満」が34.6%と最も多く、次いで「休業1月以上3月未満」が31.7%、「2週間以上1月未満」26.9%の順となっている。
3. 年齢別では、50歳代が23.6%と最も多く、次いで、60歳代、40歳代がそれぞれ22.1%となっている。
4. 経験年数別では、「1年以上3年未満」が26.0と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が22.6%、「1年未満」が17.3%の順となっている。
5. 事故の型別では、「動作の反動、無理な動作」が41．3%(このうち43.0%が腰痛を発症している。)と最も多く、次いで「転倒」が23.6%となっている。
6. 起因物別では、「起因物なし(人など)」が42.8%(このうち事故の型が「動作の反動・無理な動作」は87.6%)と最も多く、次いで「建設物・構築物・仮設物」が21.6%の順となっている。

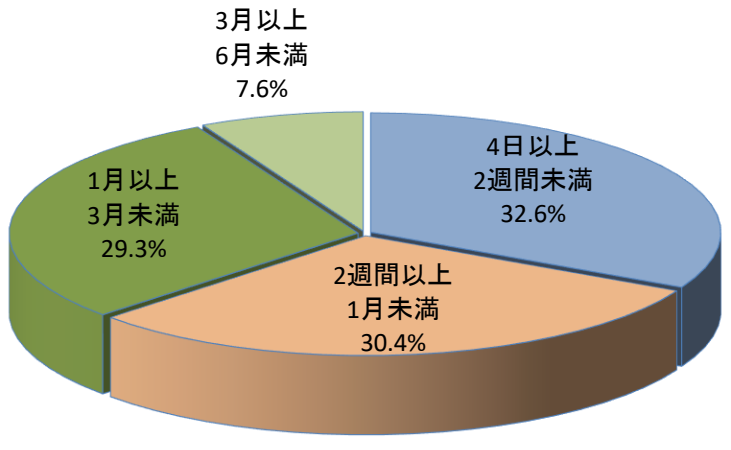
17-4.飲食店における労働災害発生状況(令和元年)

(飲食店：92人)

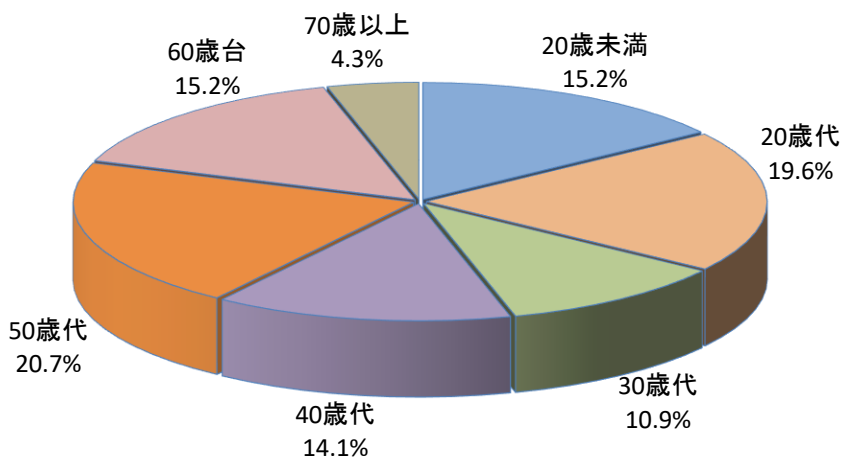
(1)事業場規模の状況



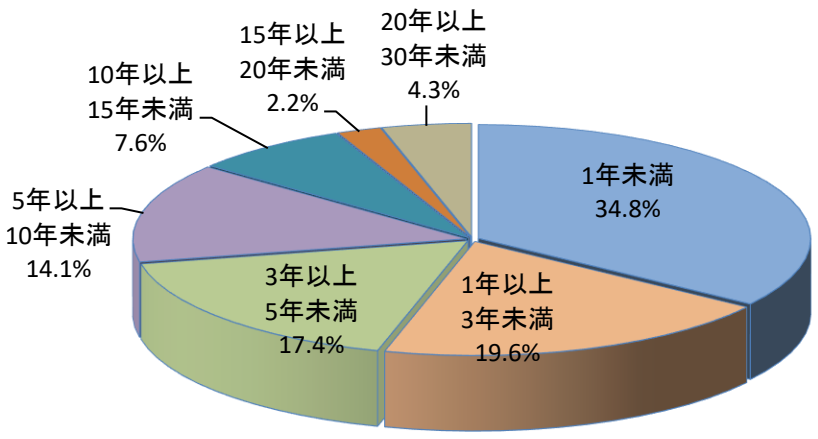
(2)被災程度別の状況



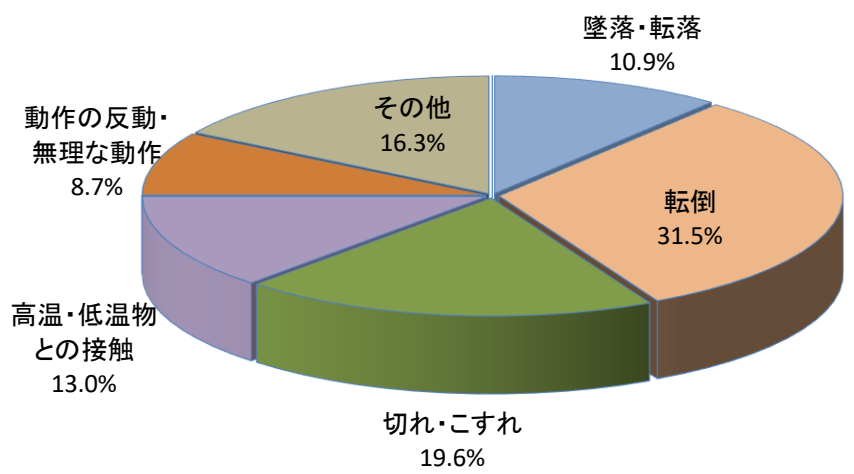
(3)年齢別の状況



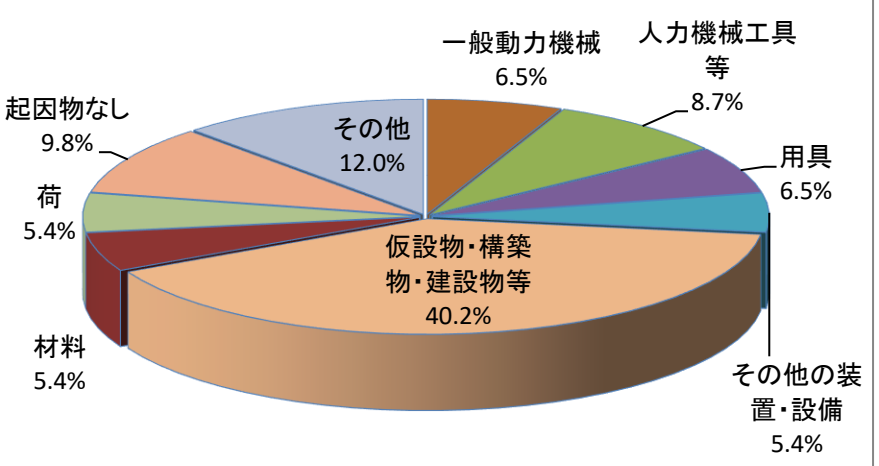
(4)経験年数別の状況



(5)事故の型別の状況



(6)起因物別の状況

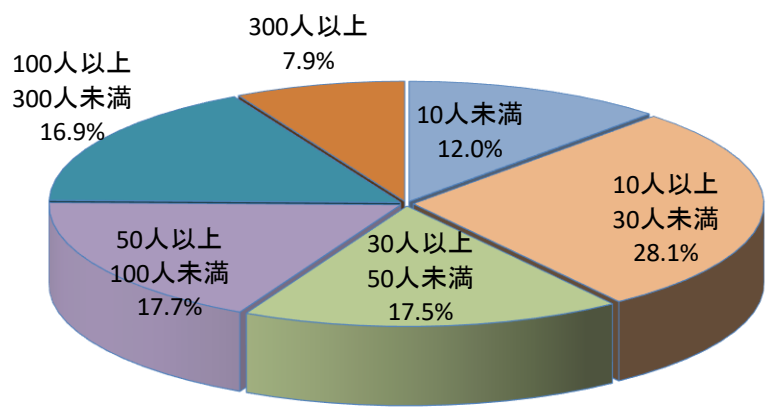


1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が40.2%と最も多く、次いで「30人以上50人未満」が28.3%、「10人未満」15.2%の順となっている。50人未満の事業場が83.7%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「4日以上2週間未満」が32.6%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が30.4%、「1月以上3月未満」29.3%の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が20.7%と最も多く、次いで「20歳代」が19.6%、「60歳代」、「20歳未満」がそれぞれ15.2%の順となっている。60歳以上は19.5%となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が34.8%と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が19.6%、「3年以上5年未満」17.4%の順となっている。3年未満が54.4%となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が31.5%と最も多く、次いで「切れ・こすれ」が19.6%、「高温・低温の物との接触」13.0%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・構築物・建設物等」が40.2%と最も多く、次いで「起因物なし」が9.8%、「人力機械工具等」8.7%の順になっている。

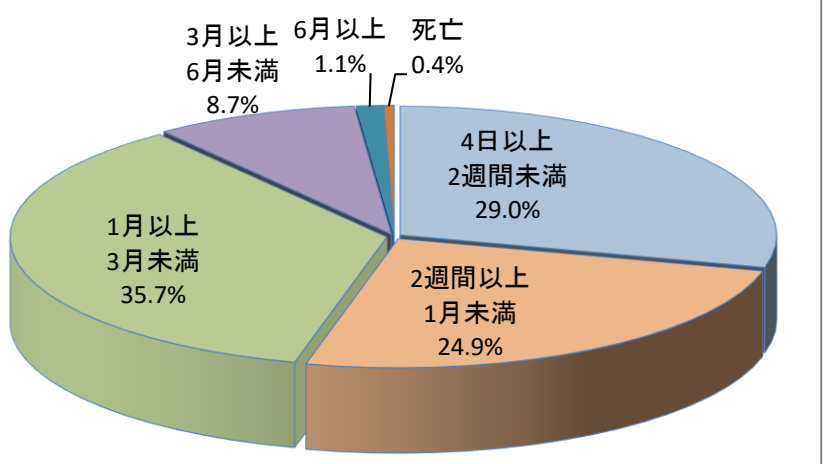
17.第三次産業における労働災害発生状況（令和元年）

（第三次産業：1，133名）

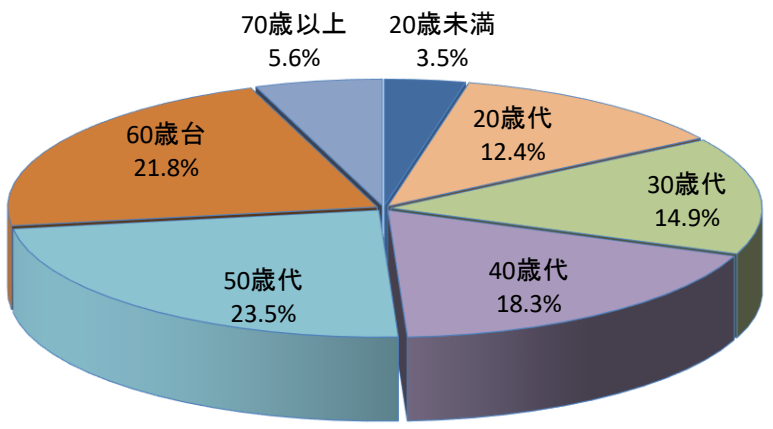
（1）事業場規模別の状況



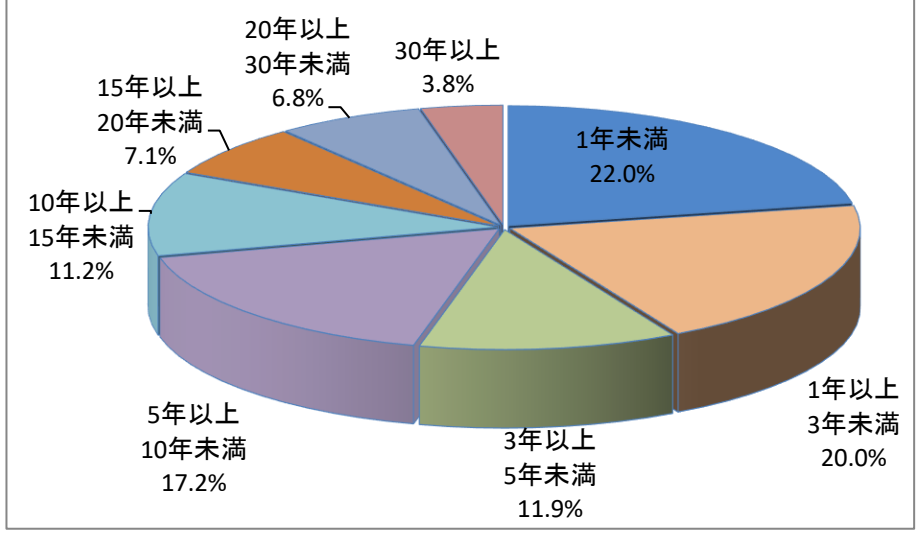
（2）被災程度別の状況



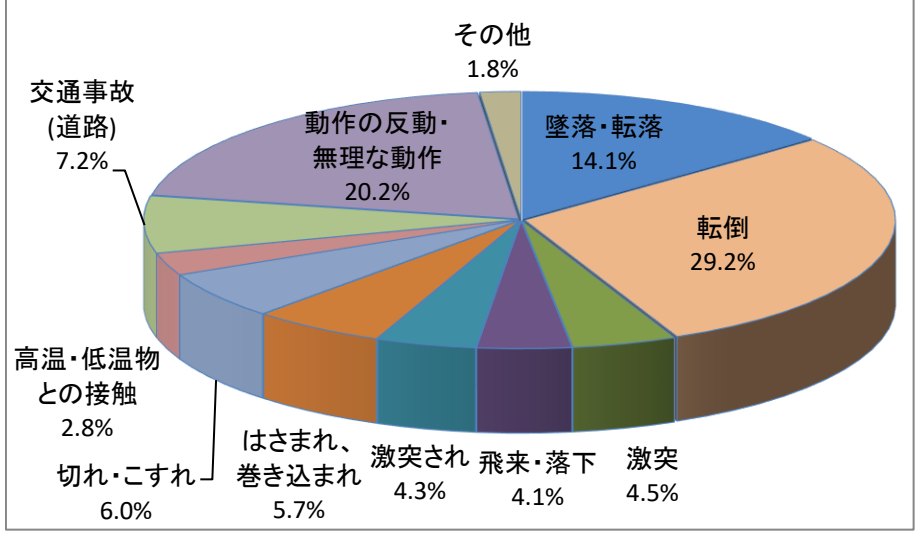
（3）年齢別の状況



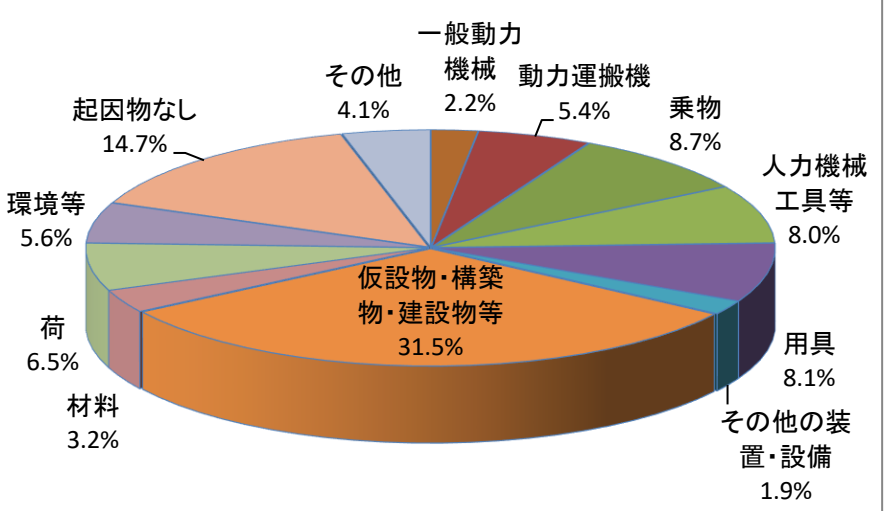
（4）経験年数別の状況



（5）事故の型別の状況



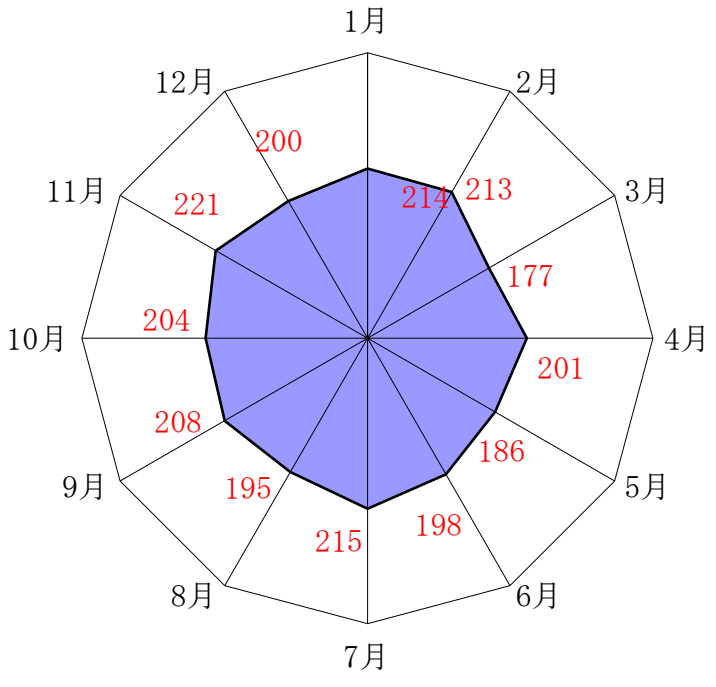
（6）起因物別の状況



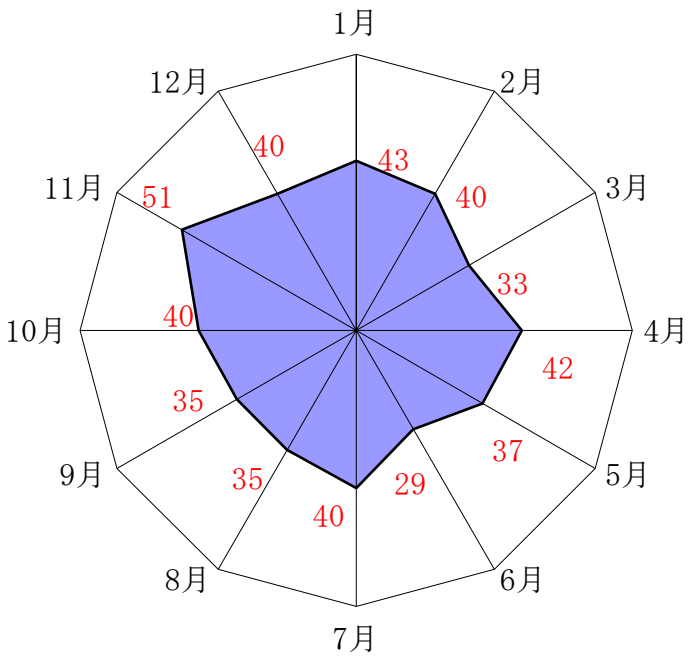
1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が28.1％と最も多く、次いで50人以上100人未満」が17.7％、「30人以上50人未満」17.5％の順となっている。50人未満の事業場が57.6％を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が35.7 ％と最も多く、次いで「4日以上2週間未満」29.0％、「2週間以上1月未満」24.9％の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」の23.5％が最も多く、次いで「60歳代」が21.8％、「40歳代」が18.3％の順となっている。60歳代以上は27.4％となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が22.0％と最も多く、次いで「1年以上3年未満」が20.0％、「5年以上10年未満」17.2％の順となっている。
5. 事故の型別では、「転倒」が29.2％と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が20.2％（このうち25.3％が腰痛を発症している。）、「墜落・転落」が14.1％の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」（通路等の床面、階段等）が31.5％と最も多く、次いで「起因物なし」14.7％、「乗物」（乗用車、バイク等）が8.7％の順となっている。

18.主要業種別・月別死傷災害発生状況(令和元年)

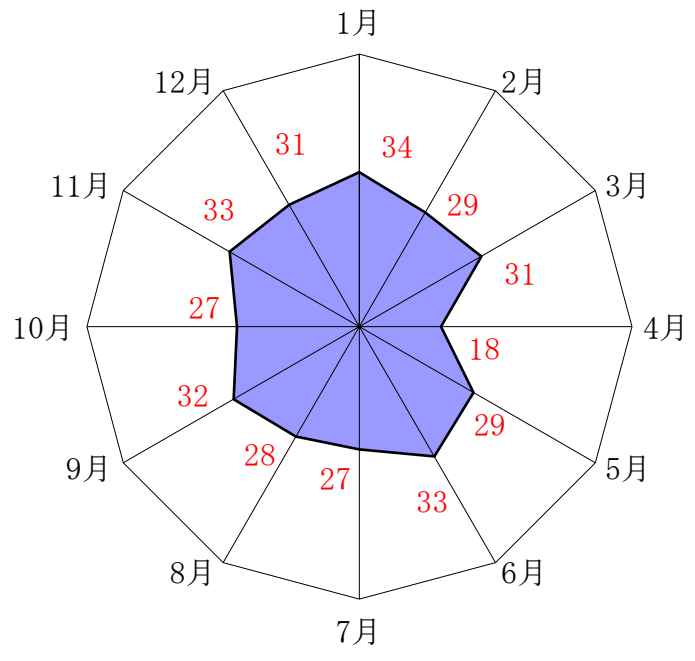
(1)　全産業（2,432人）



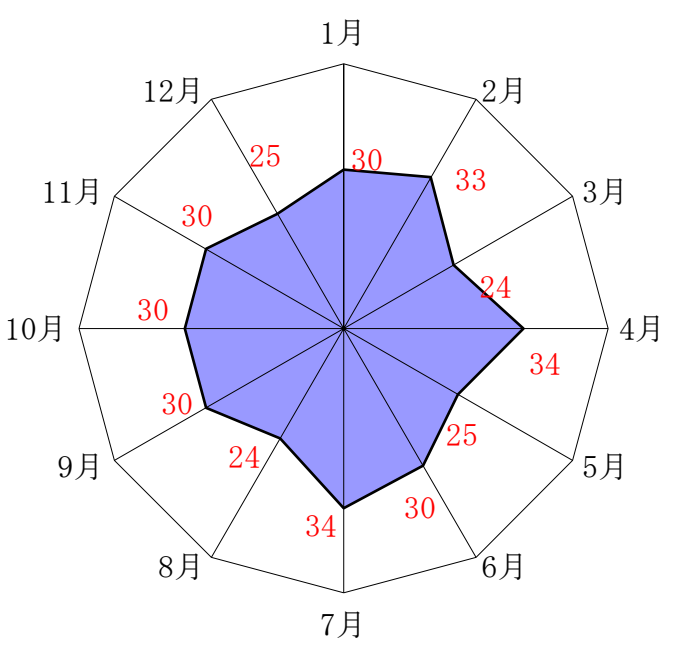
(2)　製造業（465人）



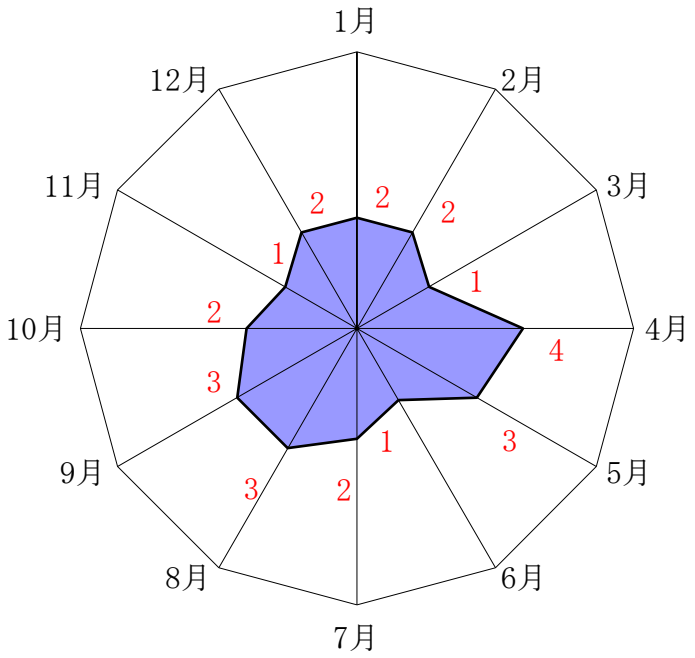
(3)　建設業（352人）



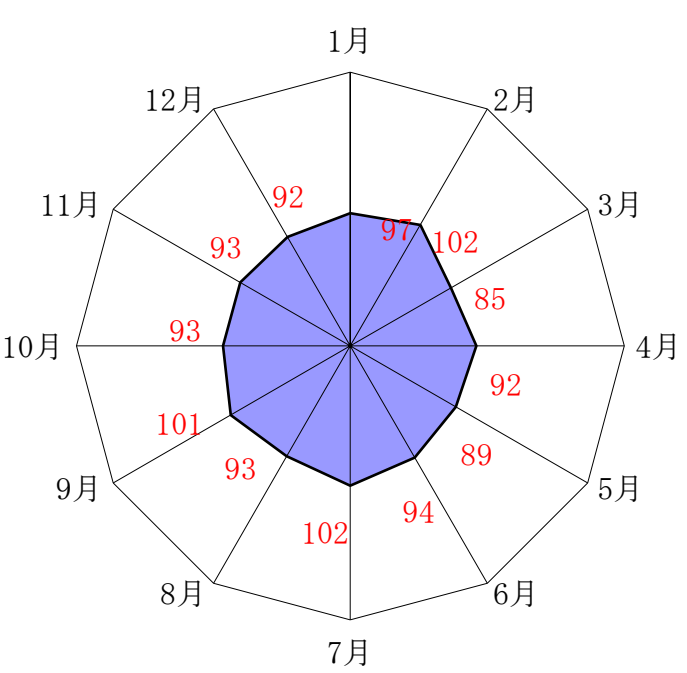
(4)　陸上貨物運送事業（349人）



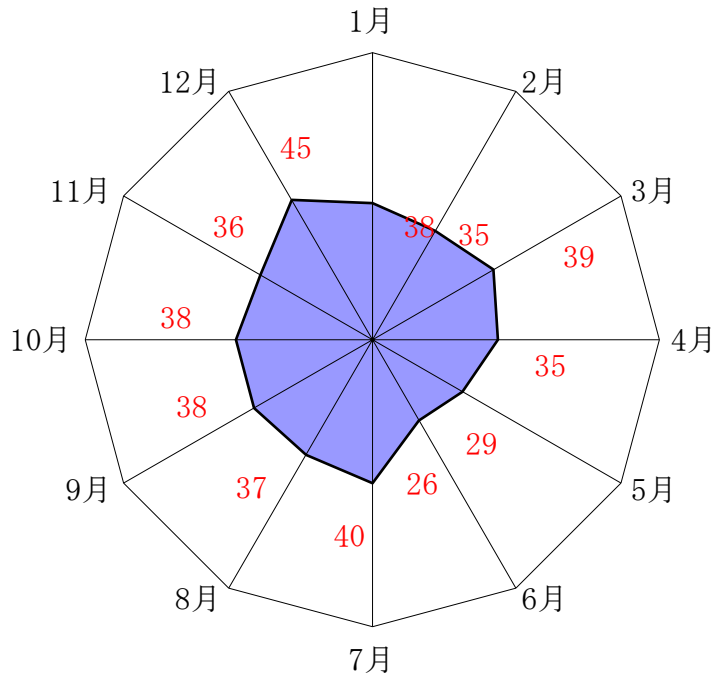
(5)　林業（26人）



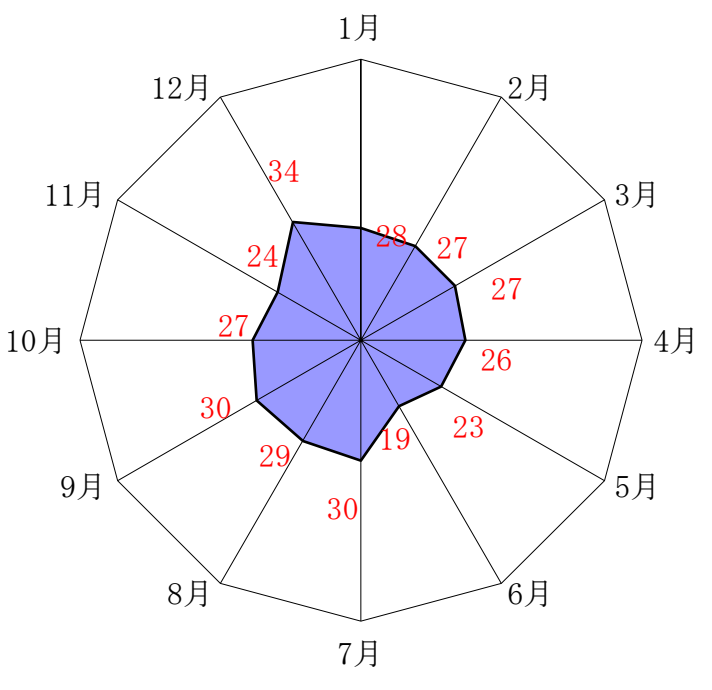
(6)　第三次産業(1,133人)



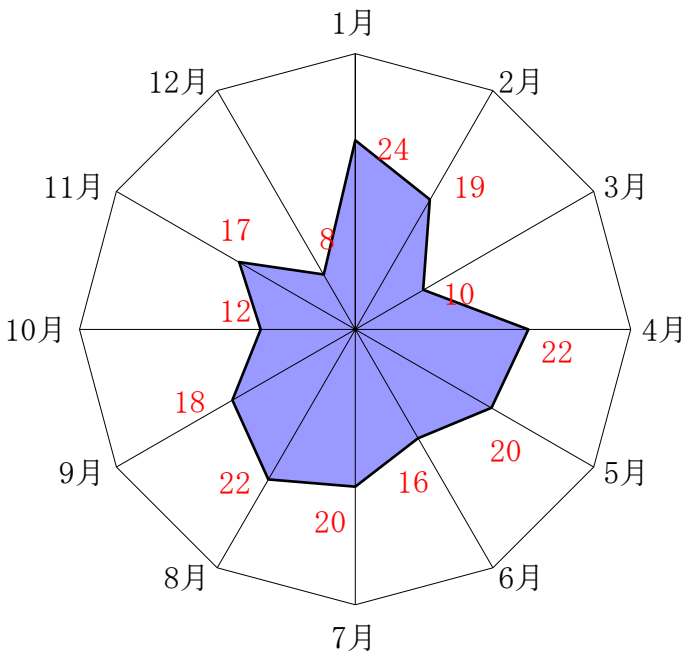
(7)　商業（436人）



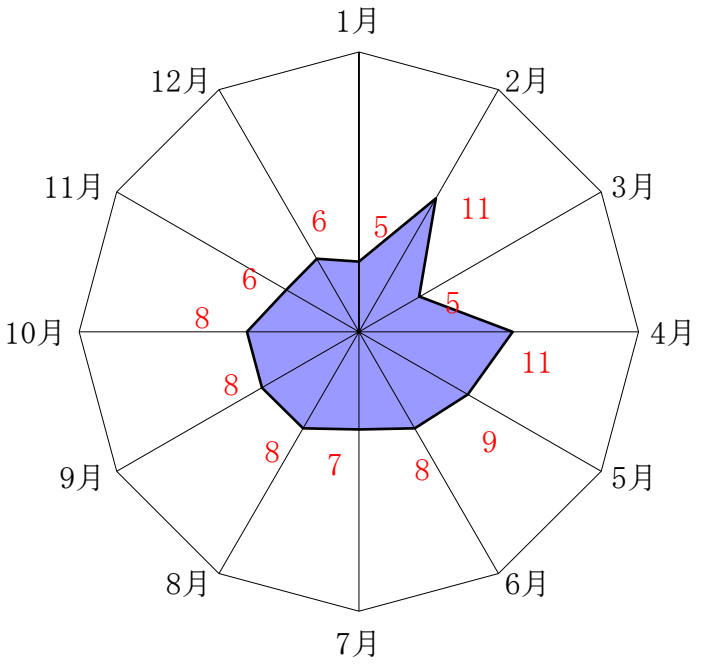
(8)　小売業（324人）



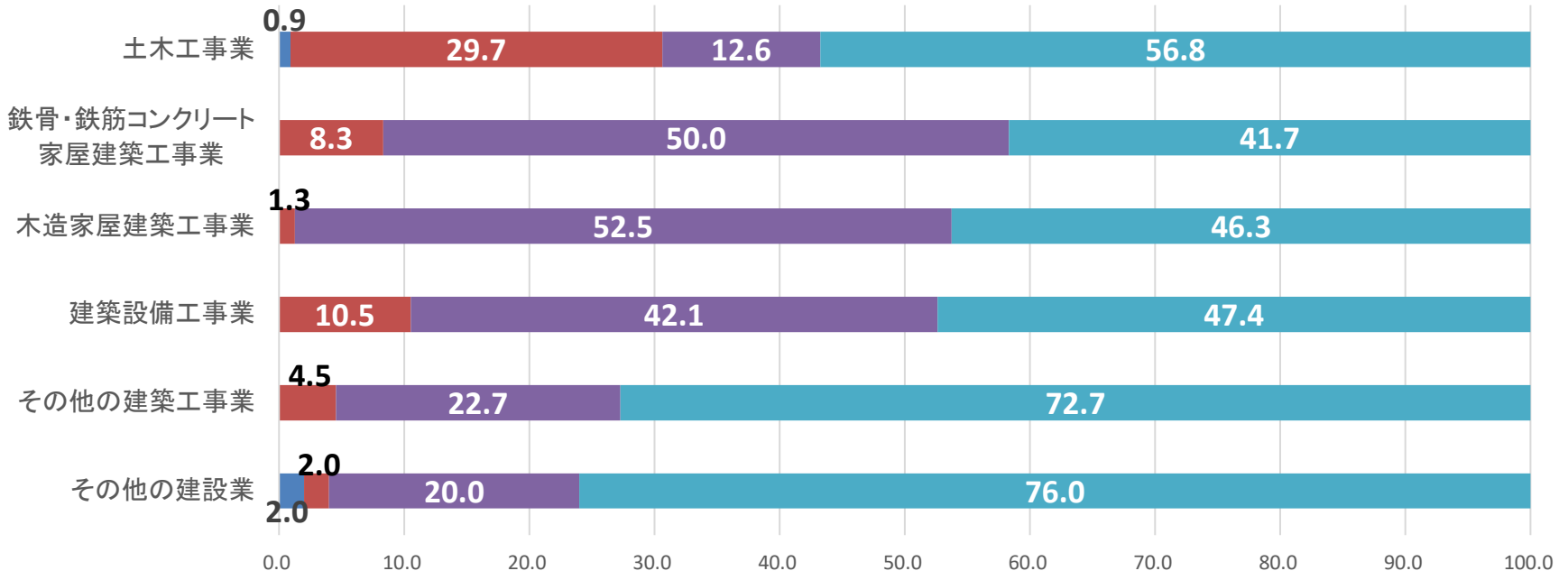
(9)　社会福祉施設（208人）



(10)　飲食店（92人）



19.建設業における発注者別死傷災害発生状況(令和元年)
(休業4日以上死傷災害　352人)



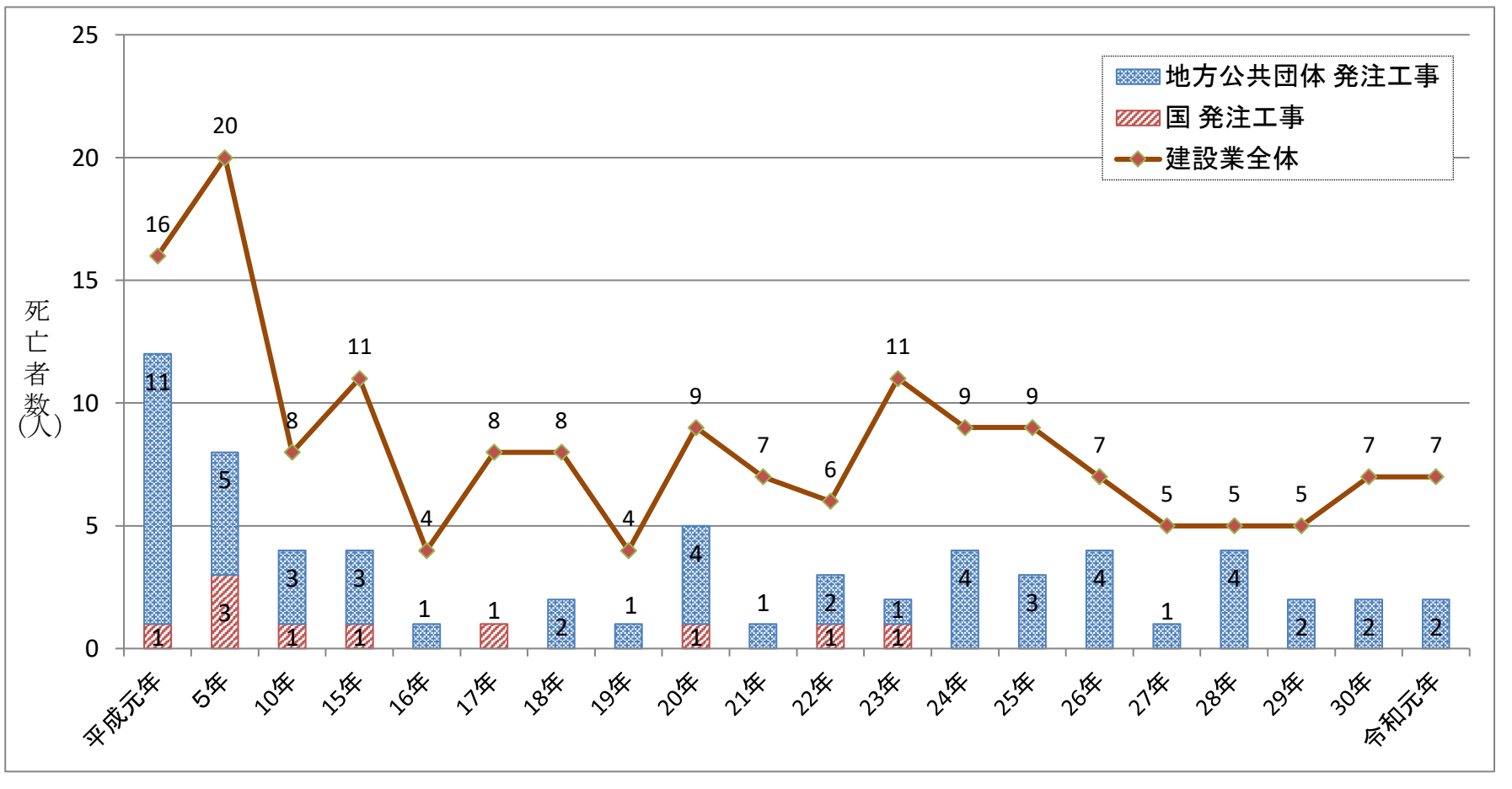
	その他の建設業	その他の建築工事業	建築設備工事業	木造家屋建築工事業	鉄骨・鉄筋コンクリート家屋建築工事業	土木工事業
■国	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
■県	2.0	4.5	10.5	1.3	8.3	29.7
■公社公団	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
■民間企業	20.0	22.7	42.1	52.5	50.0	12.6
■自社等	76.0	72.7	47.4	46.3	41.7	56.8

(%)

業種名	国	地方公	公社公団	民間	自社等	不明	合計
建設業全体	**2**	**43**	**0**	**108**	**199**	**0**	**352**
土木工事業	1	33	0	14	63	0	111
鉄骨・鉄筋コンクリート家屋建築工事業	0	4	0	24	20	0	48
木造家屋建築工事業	0	1	0	42	37	0	80
建築設備工事業	0	2	0	8	9	0	19
その他の建築工事業	0	2	0	10	32	0	44
その他の建設業	1	1	0	10	38	0	50

(人)

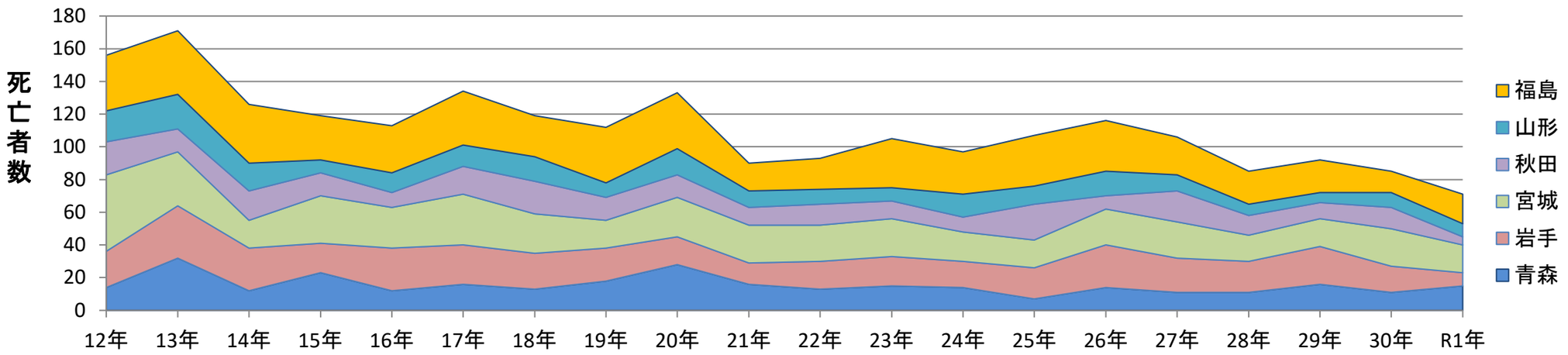
20.公共工事における死亡災害の推移



21.東北6県における死亡災害の推移

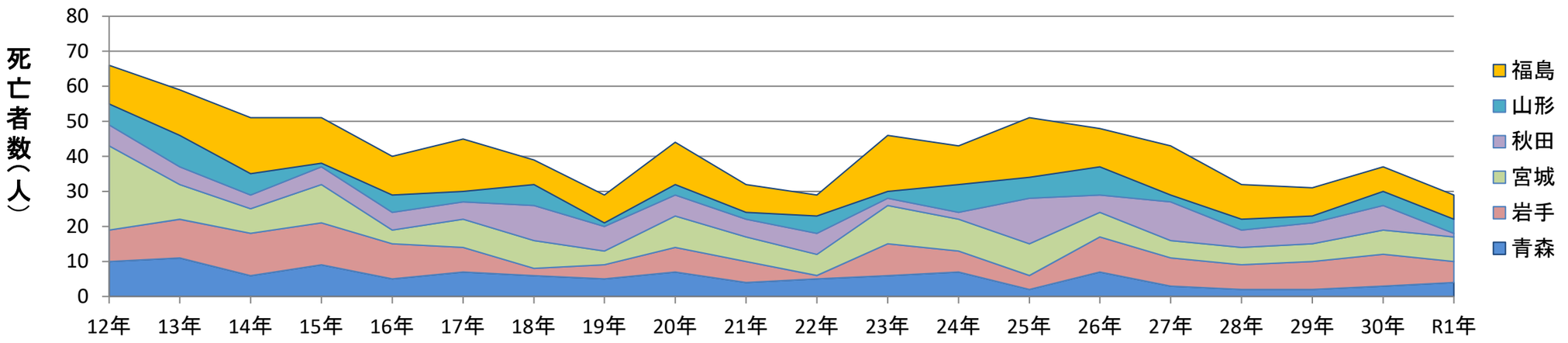
（平成23年分は東日本大震災による地震・津波を直接の原因とするものを除く）

(1)全産業



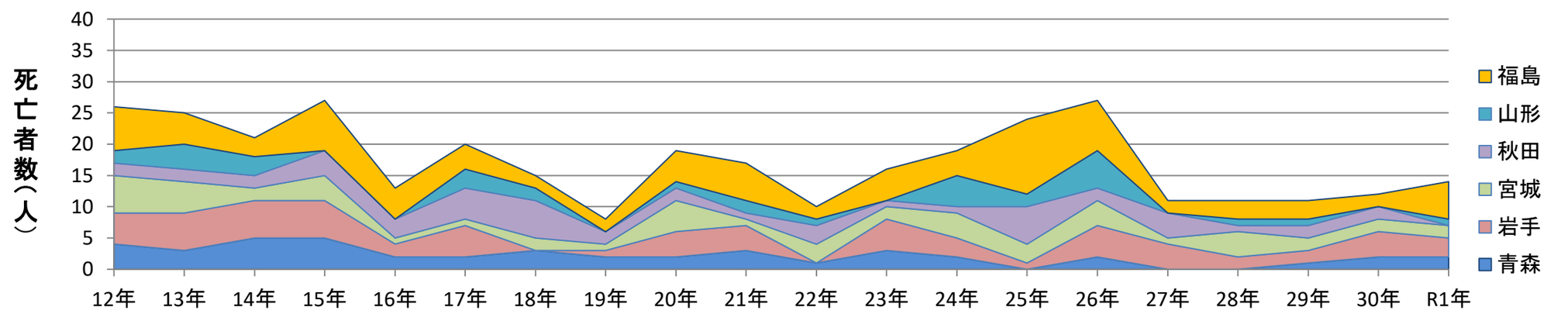
	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年
青森	14	32	12	23	12	16	13	18	28	16	13	15	14	7	14	11	11	16	11	15
岩手	22	32	26	18	26	24	22	20	17	13	17	18	16	19	26	21	19	23	16	8
宮城	47	33	17	29	25	31	24	17	24	23	22	23	18	17	22	22	16	17	23	17
秋田	20	14	18	14	9	17	20	14	14	11	13	11	9	22	8	19	12	10	13	5
山形	19	21	17	8	12	13	15	9	16	10	9	8	14	11	15	10	7	6	9	8
福島	34	39	36	27	29	33	25	34	34	17	19	30	26	31	31	23	20	20	13	18
合計	156	171	126	119	113	134	119	112	133	90	93	105	97	107	116	106	85	92	85	71

(2)建設業（全体）



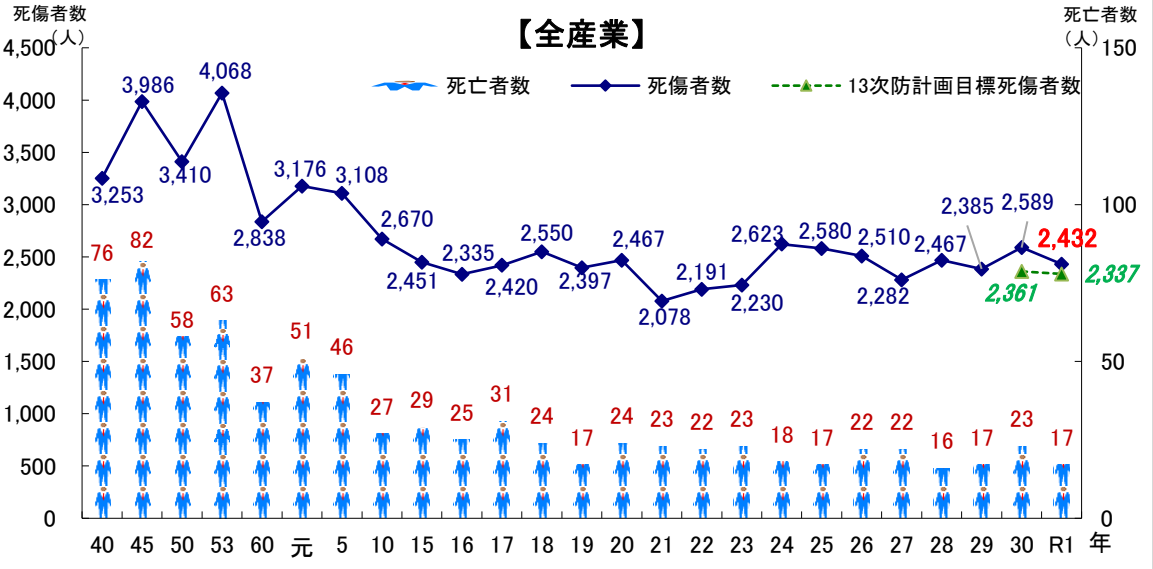
	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年
青森	10	11	6	9	5	7	6	5	7	4	5	6	7	2	7	3	2	2	3	4
岩手	9	11	12	12	10	7	2	4	7	6	1	9	6	4	10	8	7	8	9	6
宮城	24	10	7	11	4	8	8	4	9	7	6	11	9	9	7	5	5	5	7	7
秋田	6	5	4	5	5	5	10	7	6	5	6	2	2	13	5	11	5	6	7	1
山形	6	9	6	1	5	3	6	1	3	2	5	2	8	6	8	2	3	2	4	4
福島	11	13	16	13	11	15	7	8	12	8	6	16	11	17	11	14	10	8	7	7
合計	66	59	51	51	40	45	39	29	44	32	29	46	43	51	48	43	32	31	37	29

(3)建設業（内公共工事）



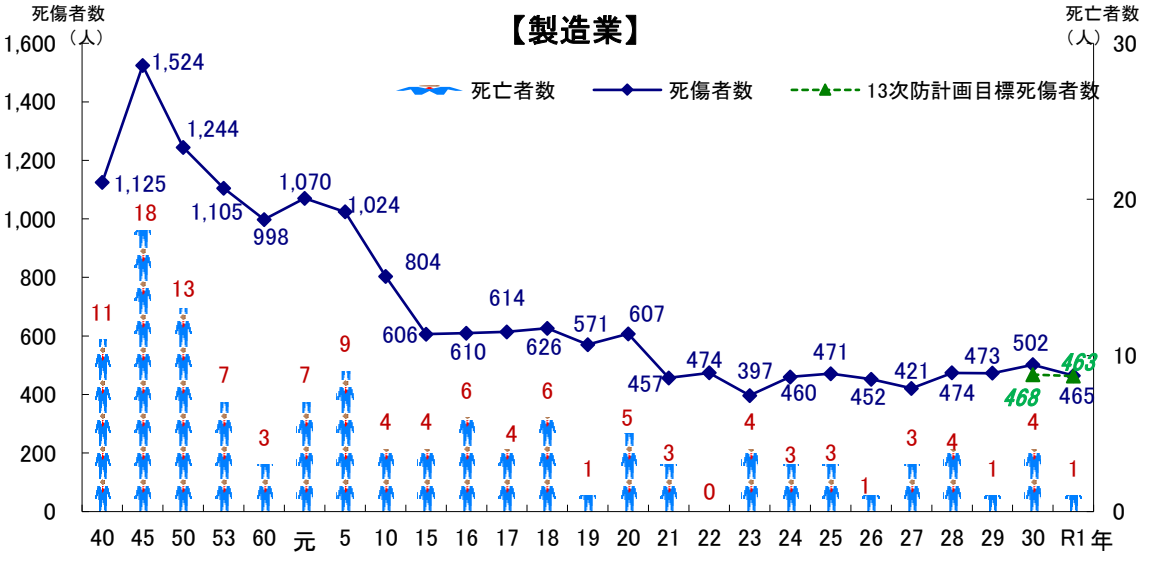
	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年
青森	4	3	5	5	2	2	3	2	2	3	1	3	2	0	2	0	0	1	2	2
岩手	5	6	6	6	2	5	0	1	4	4	0	5	3	1	5	4	2	2	4	3
宮城	6	5	2	4	1	1	2	1	5	1	3	2	4	3	4	1	4	2	2	2
秋田	2	2	2	4	3	5	6	2	2	1	3	1	1	6	2	4	1	2	2	0
山形	2	4	3	0	0	3	2	0	1	2	1	0	5	2	6	0	1	1	0	1
福島	7	5	3	8	5	4	2	2	5	6	2	5	4	12	8	2	3	3	2	6
合計	26	25	21	27	13	20	15	8	19	17	10	16	19	24	27	11	11	11	12	14

22.労働災害の推移と第13次労働災害防止計画（平成30年～平成34年）死傷者数



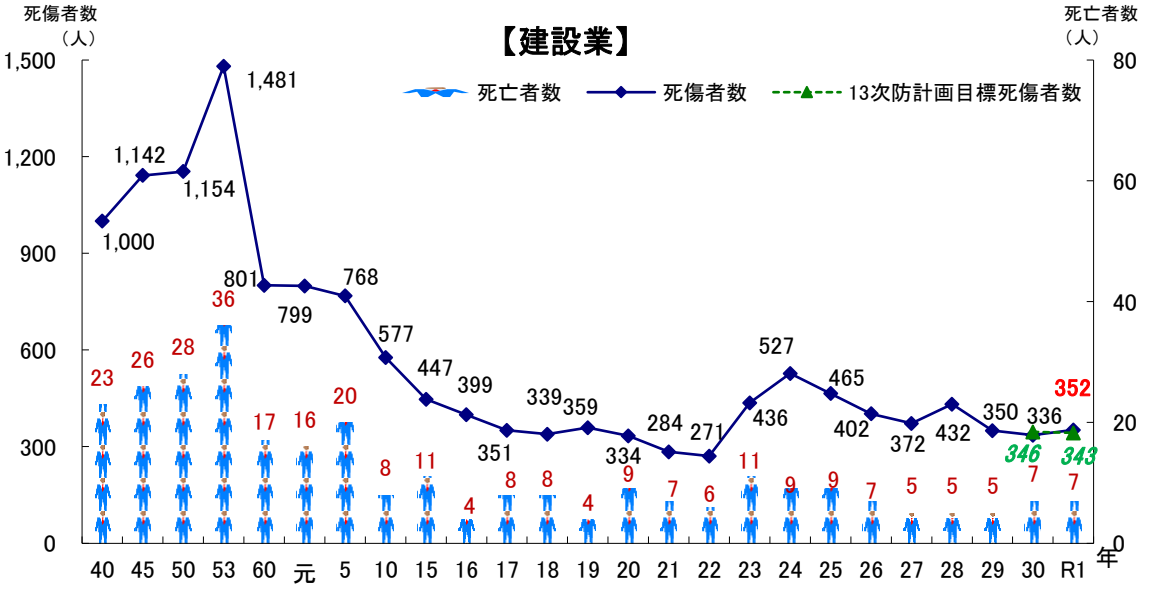
長期的には減少し、平成21年に2,078人と過去最小になったが、東日本大震災以降増加に転じ、平成25年以後は増減を繰り返し、令和元年は2,432人となった。

13次防計画目標は、平成29年比で2%以上減となっているが、目標を達成することはできなかった。



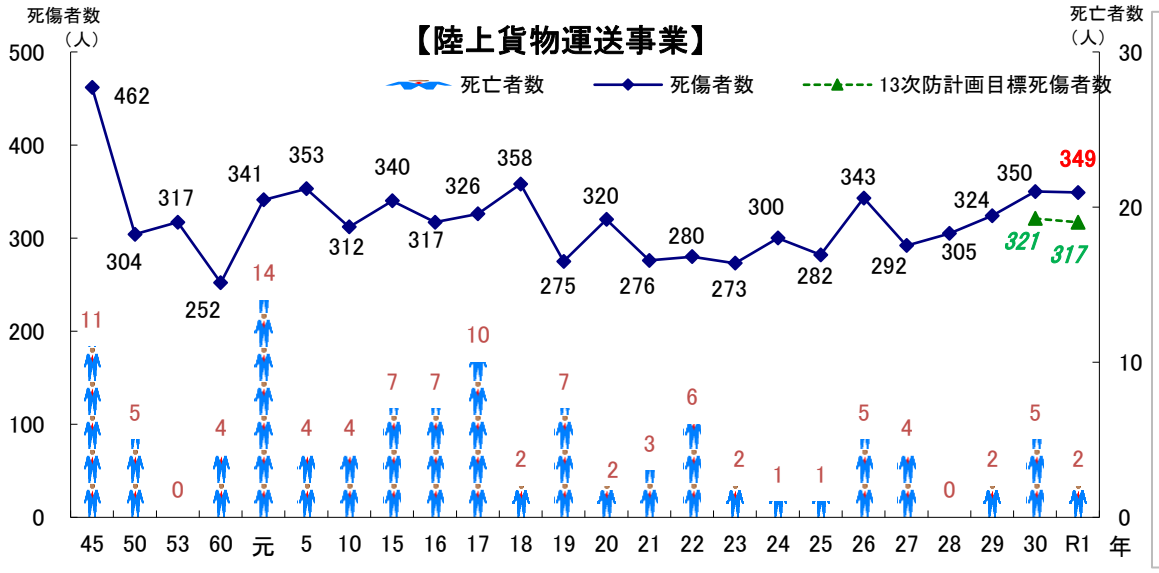
長期的に減少し、平成23年には397人と過去最小となったが、その後は横ばいの状況である。

13次防計画目標は、平成29年比で2%以上減となっているが、目標を達成することはできなかった。



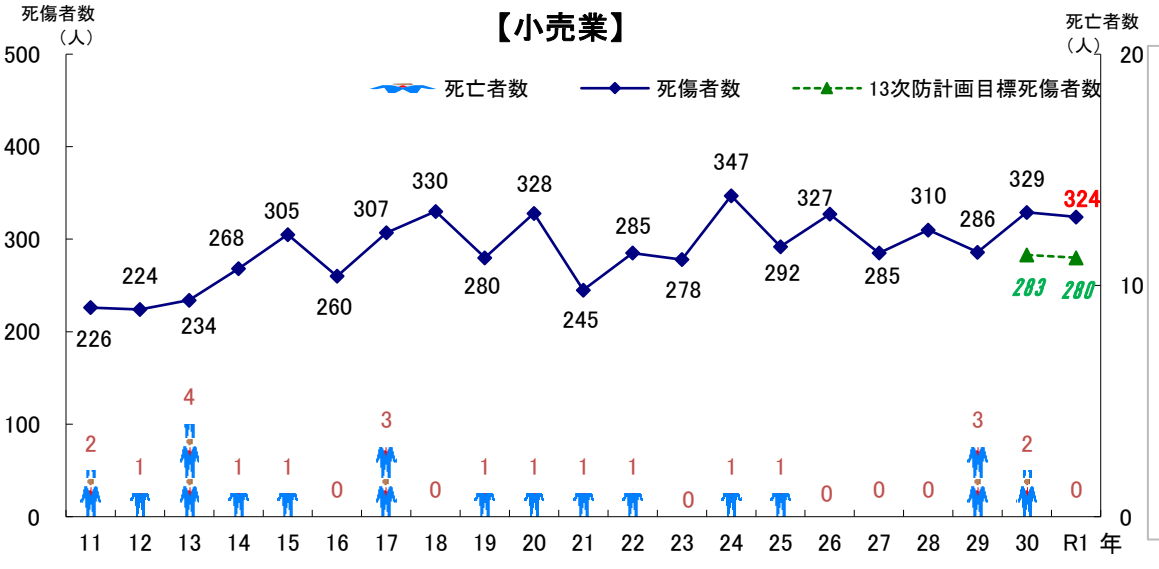
長期的に減少し、平成22年には271人と過去最少になったが、東日本大震災後、平成24年までに527人まで急増し、その後減少傾向で推移し、前年（平成30年）は13次防計画目標を達成した。

しかし、令和元年は352人と増加しており、平成29年比2%以上減の目標を達成することができなかった。



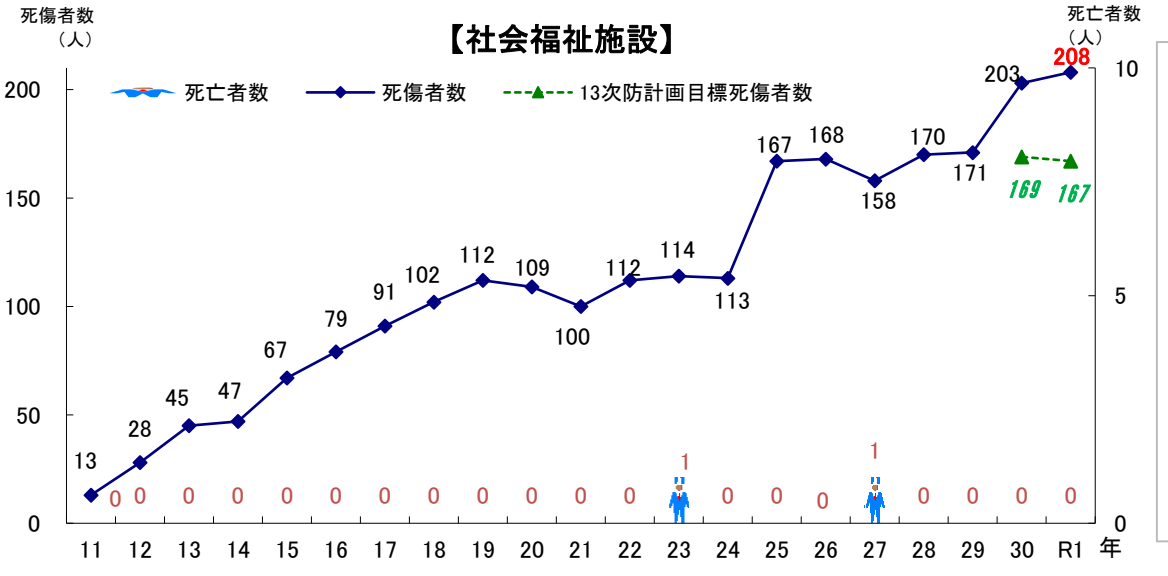
300人前後で増減を繰り返し、平成28年から3年連続で増加していたが、令和元年は1人減の349人となり、依然として高い水準となっている。

13次防計画目標は平成29年比2%減少としていたが、目標を達成することはできなかった。



長期的に300人前後で増減を繰り返している。

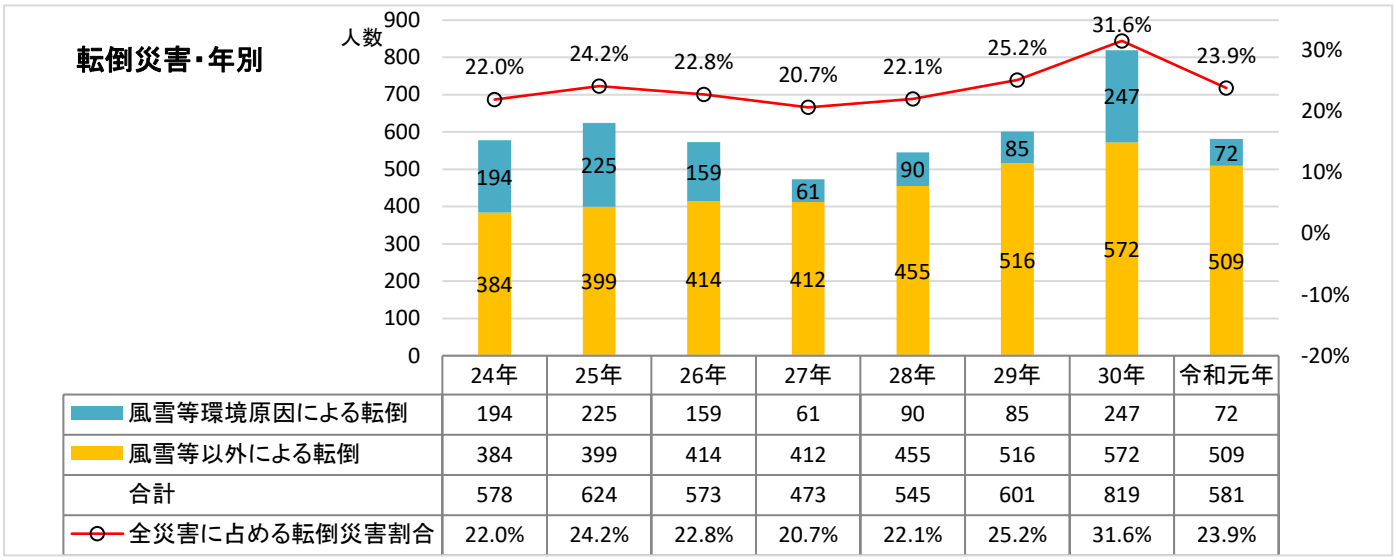
令和元年は災害件数が微減したものの、13次防計画目標（平成29年比2%減少）を達成することはできなかった。



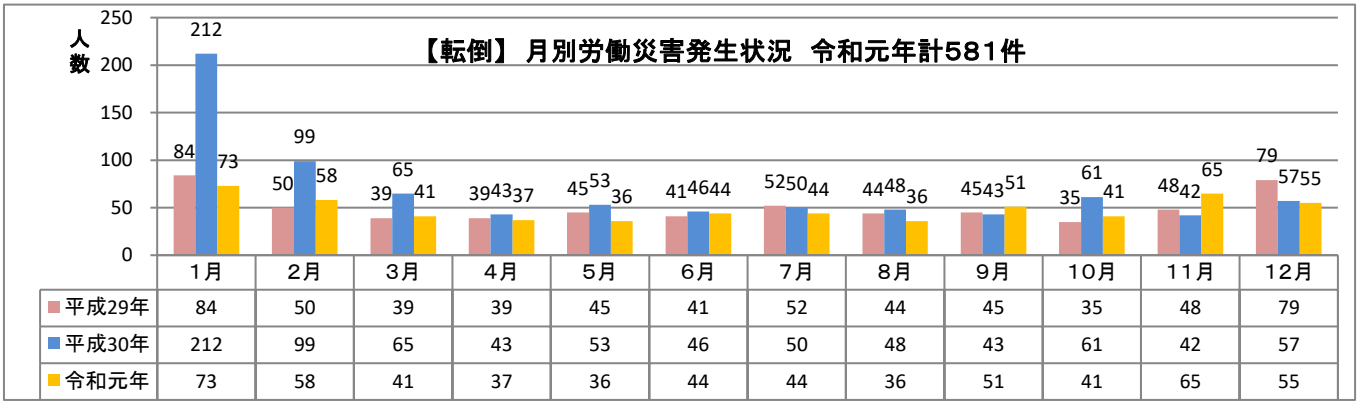
長期的に増加傾向にあり、前年（平成30年）に203人と急増してたが、令和元年も208人と増加している。

13次防計画目標は平成29年比2%減少としていたが、目標を達成することはできなかった。

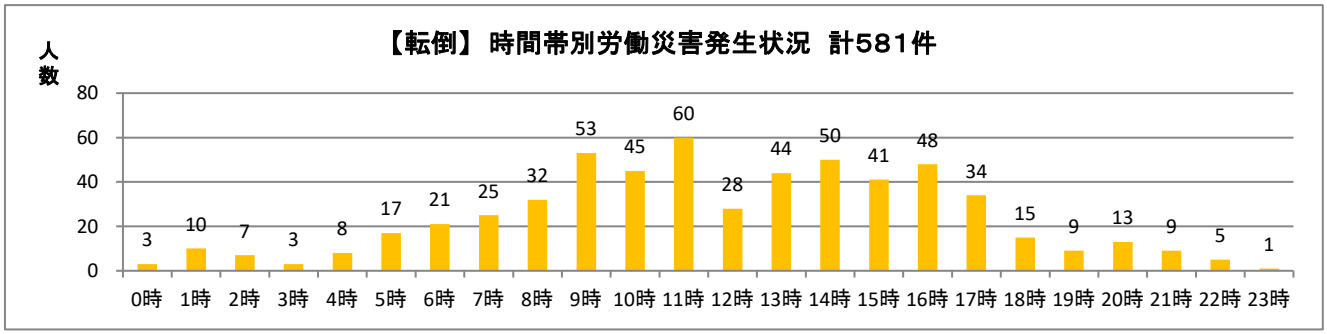
23.転倒災害の状況



	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
風雪等環境原因による転倒	194	225	159	61	90	85	247	72
風雪等以外による転倒	384	399	414	412	455	516	572	509
合計	578	624	573	473	545	601	819	581
全災害に占める転倒災害割合	22.0%	24.2%	22.8%	20.7%	22.1%	25.2%	31.6%	23.9%

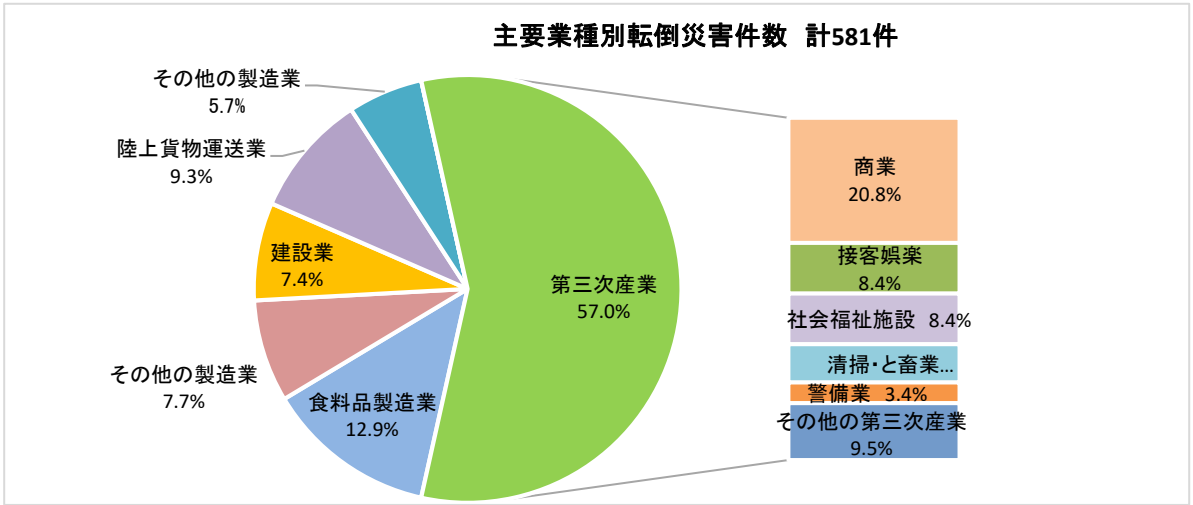


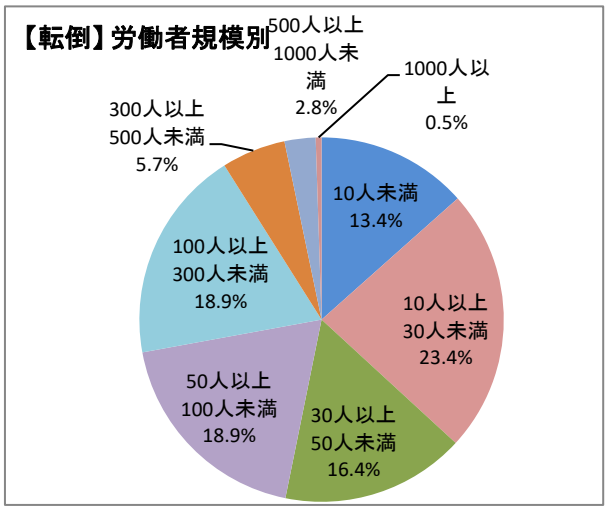
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成29年	84	50	39	39	45	41	52	44	45	35	48	79
平成30年	212	99	65	43	53	46	50	48	43	61	42	57
令和元年	73	58	41	37	36	44	44	36	51	41	65	55

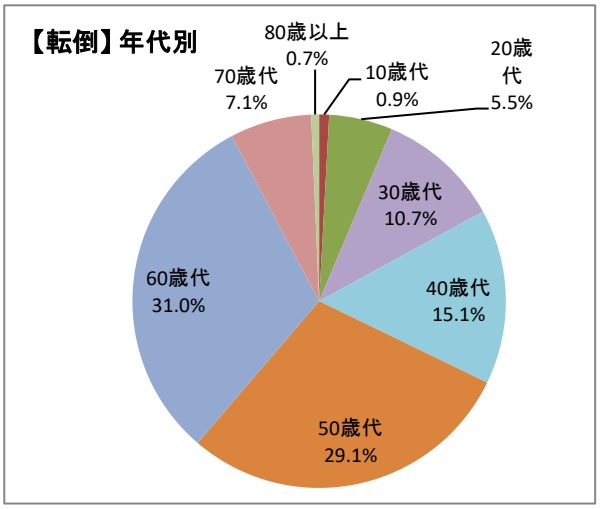


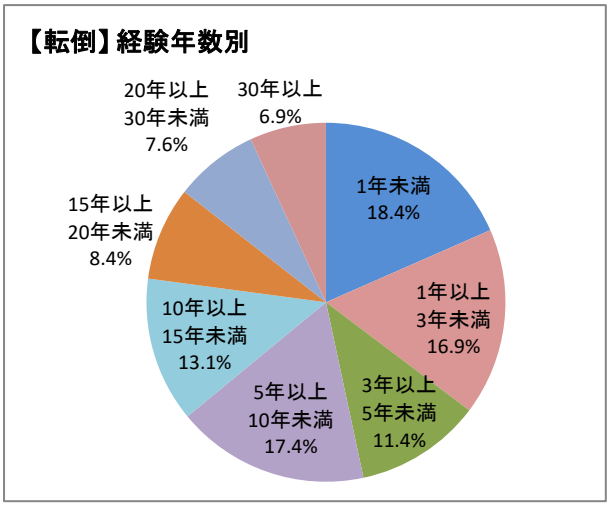
主な災害の年代別・男女別の発生状況（2019年宮城局管内）

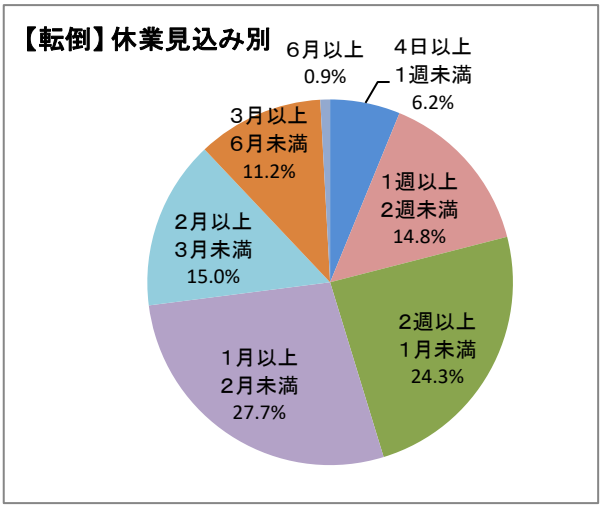
	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80歳以上		計		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	総計
転倒	**1**	**4**	**13**	**19**	**20**	**42**	**39**	**49**	**110**	**59**	**116**	**64**	**20**	**21**	**2**	**2**	**321**	**260**	**581**
墜落、転落	1	2	6	33	9	58	15	78	24	101	16	84	8	20		3	79	379	458
動作反動、無理な動作		2	23	20	30	56	41	36	40	41	24	28	6	6	1		165	189	354

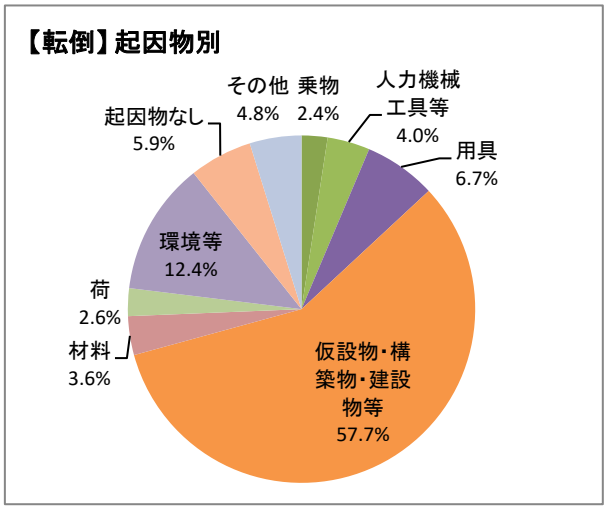


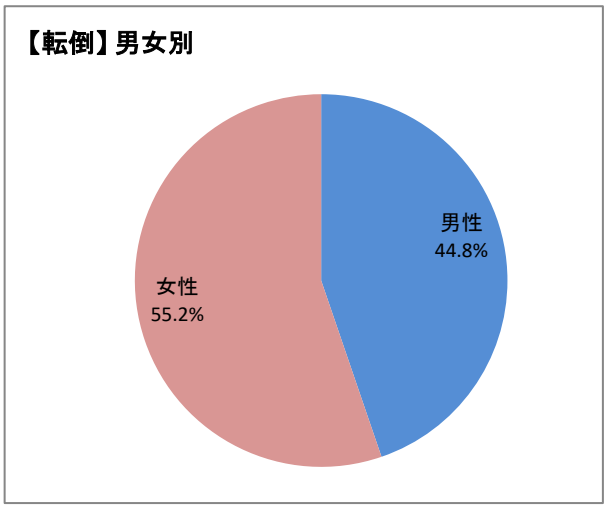








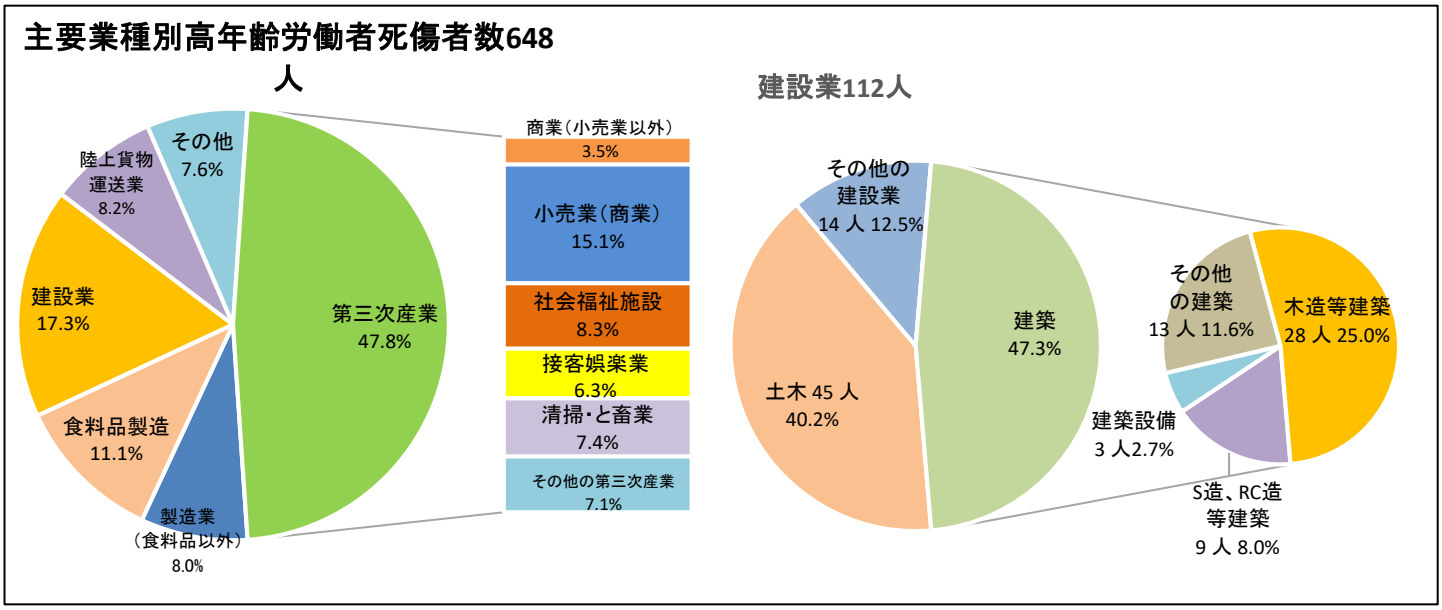


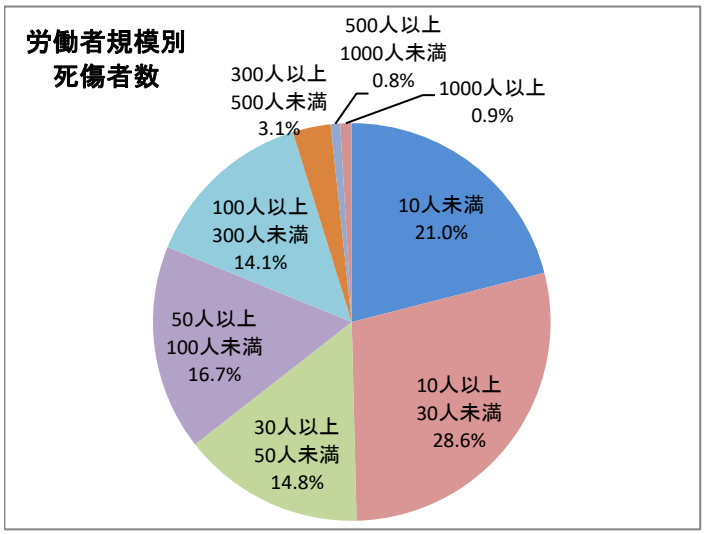


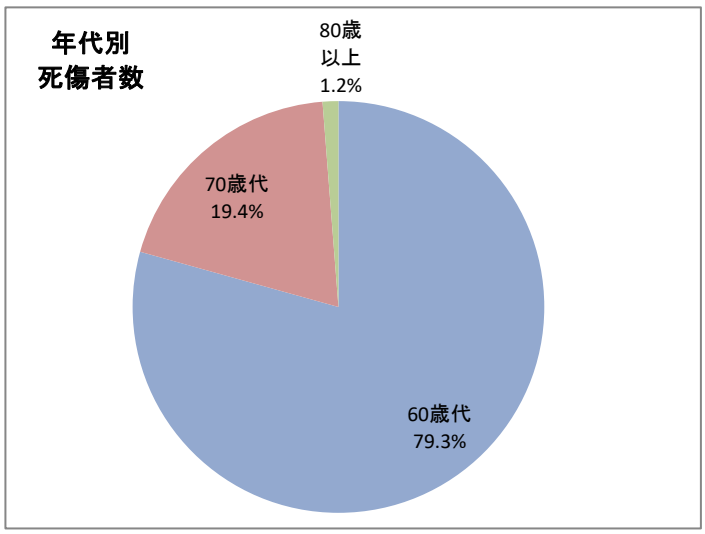
1. 転倒災害発生件数は、前年比で238人(29.0%)減少しており、特に「風雪等環境原因による転倒」について175件減少している。全労働災害に占める転倒災害の割合も23.9%と前年よりも7.7%減少している。
2. 業種別にみると、「第三次産業」が57.0%を占めており、特に商業の占める割合が20.8%となっている。
3. 年齢別では、「60歳代」が31.0%と最も多く、次いで「50歳代」が29.1%、「40歳代」15.1%の順となっている。60歳以上は38.1%となっている。特に「50歳代」、「60歳代」の「女性」の割合が高くなっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が18.4%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が17.4%、「1年以上3年未満」16.9%の順となっている。3年未満が35.3%となっている。

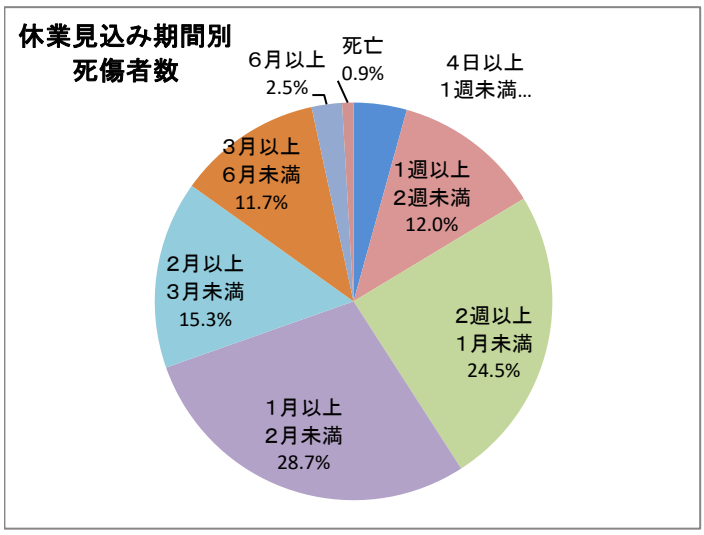
24.高年齢労働者※災害の発生状況

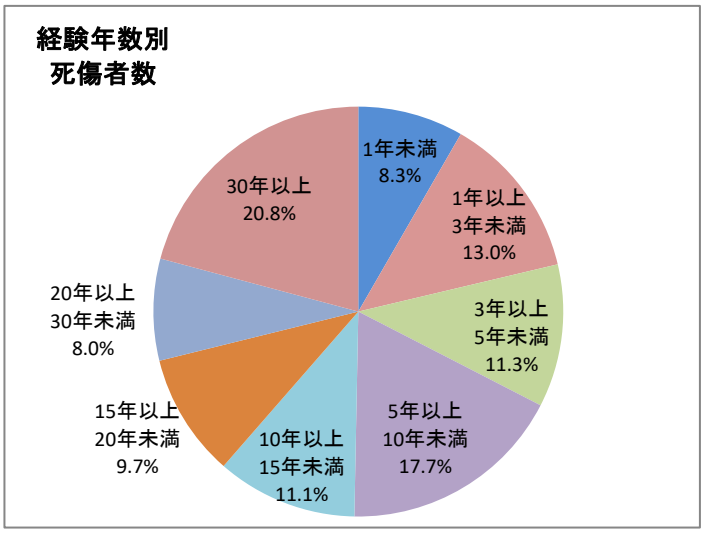
（※本分析においては、60歳以上を高年齢労働者として分析した。高年齢労働者災害：648人）



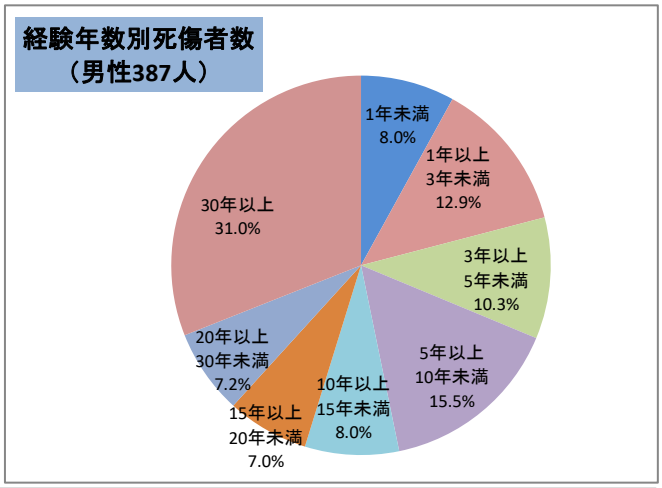


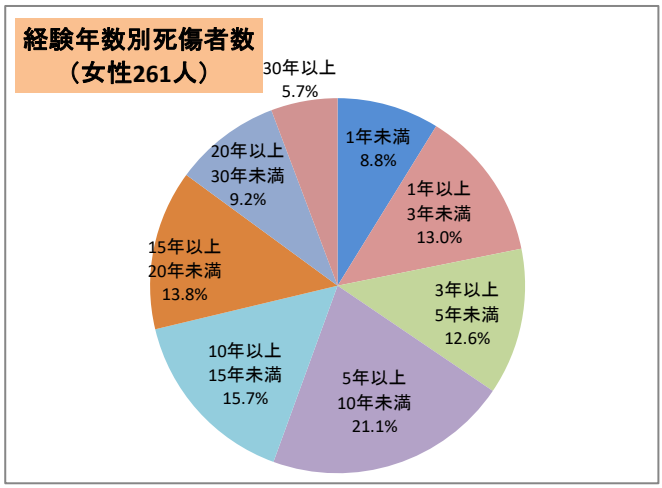


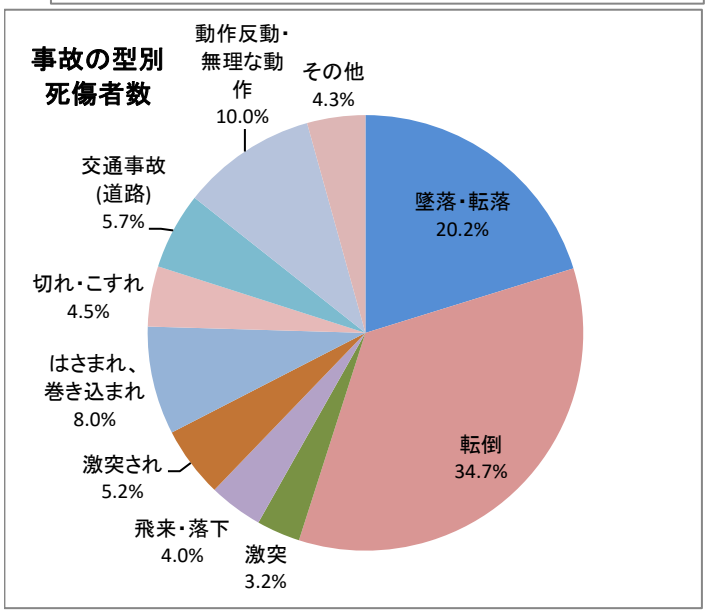


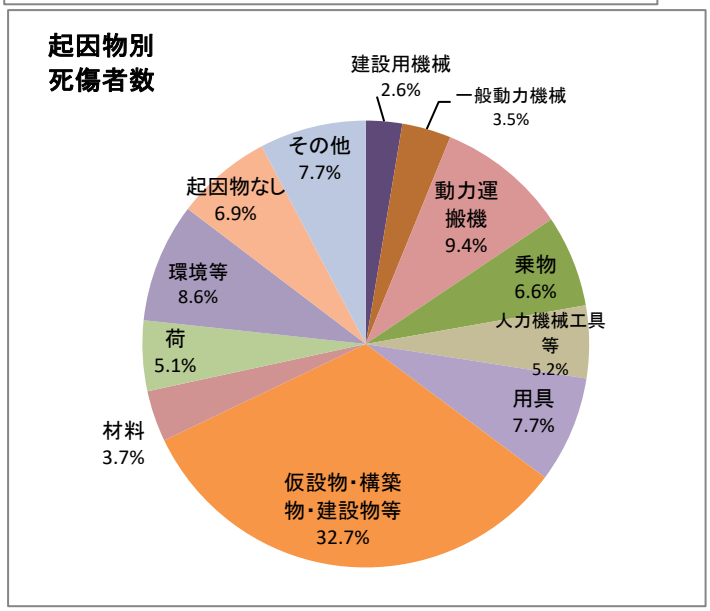


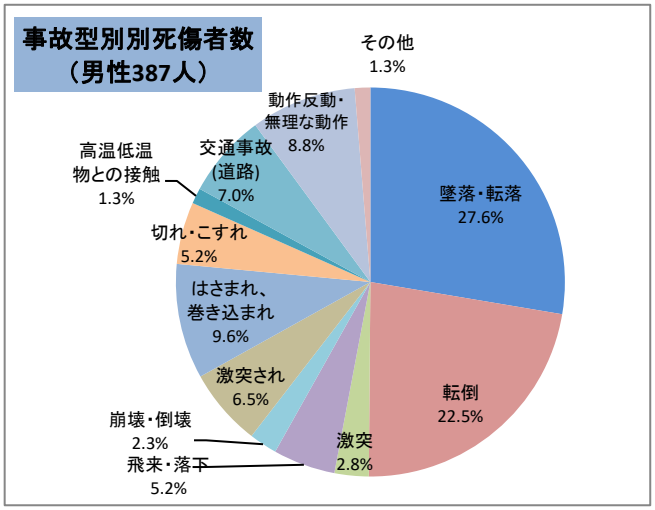
（高年齢労働者災害：648人）

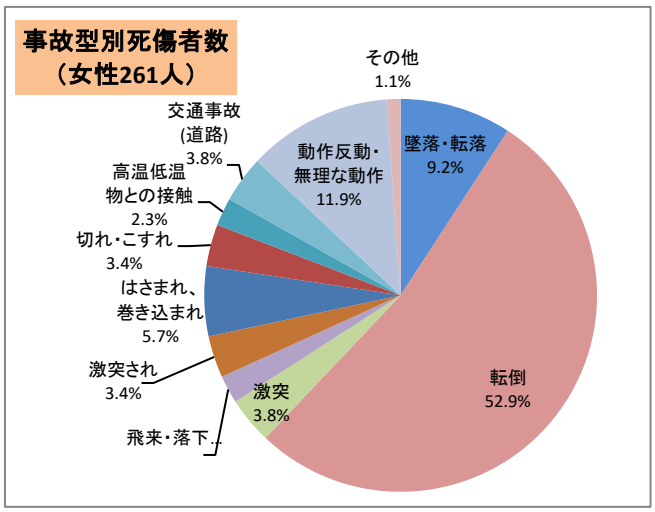








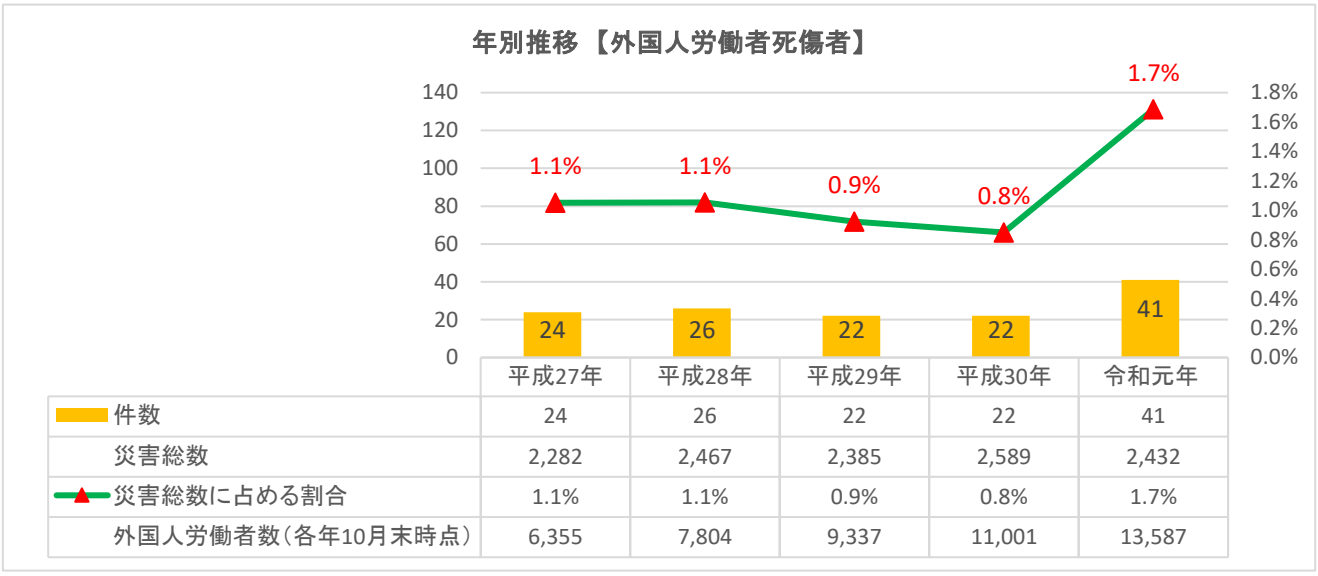




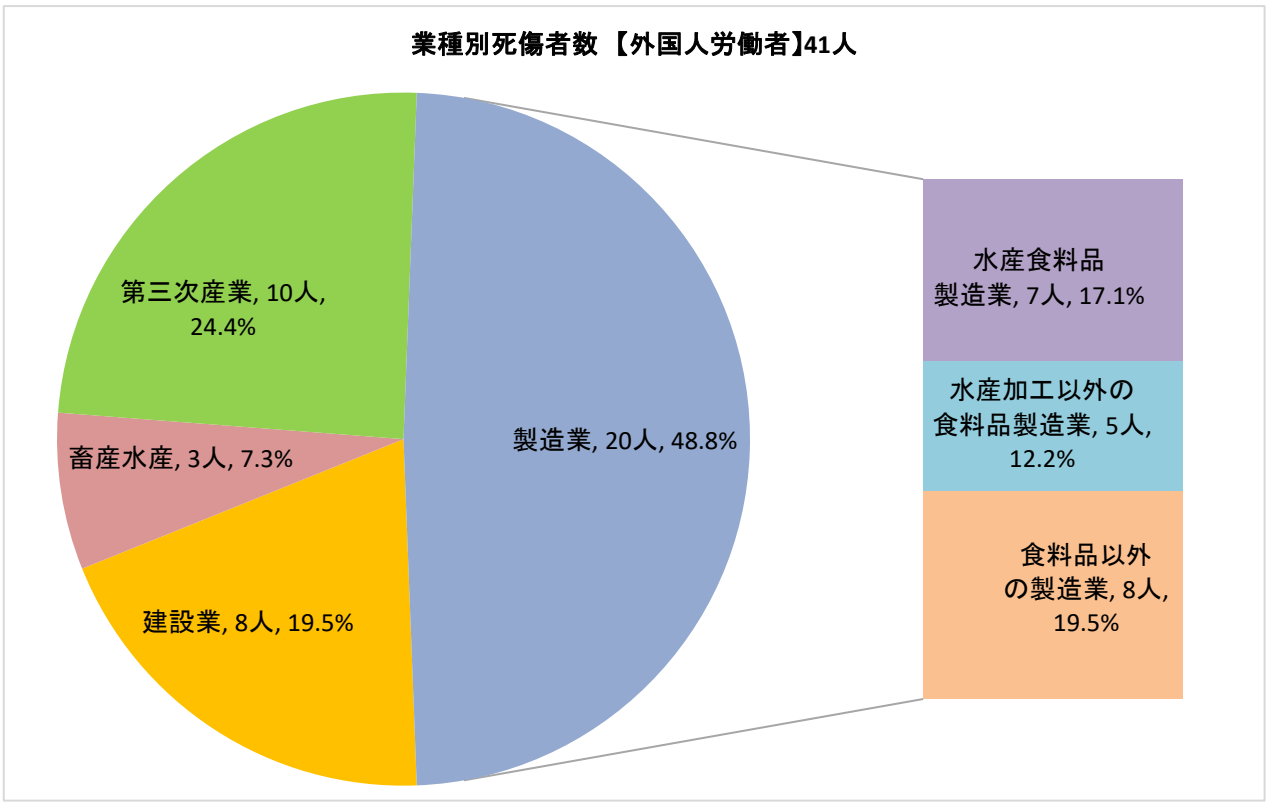
1. 業種別では、「製造業」が19.1%（食料品製造業11.1%、食料品以外の製造業8.0%）と最も多く、次いで「建設業」が17.3%となっている。「第三次産業」は47.8%を占めており、特に「小売業」の占める割合が15.1%となっている。
2. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」が28.6%と最も多く、次いで「10人未満」が21.0%、「50人以上100人未満」16.7%の順となっている。50人未満の事業場で64.4%を占めている。
3. 経験年数別では、「30年以上」が20.8%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が17.7%、「1年以上3年未満」13.0%の順となっている。3年未満が21.3%となっている。男女別にみると、男性では「30年以上」が最も多く、女性では「5年以上10年未満」が最も多くなっている。

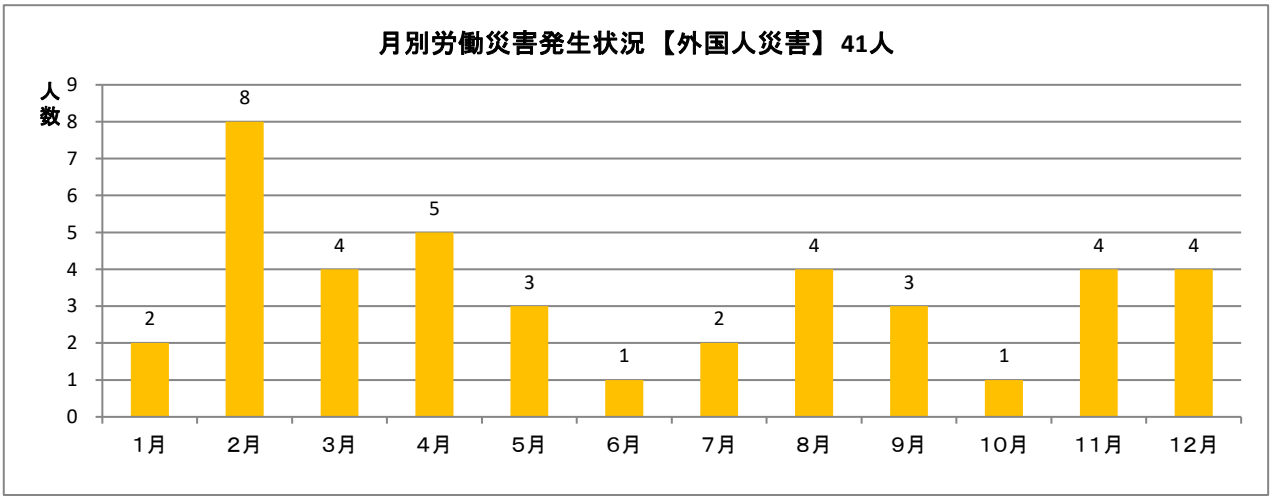
25.外国人労働者災害の発生状況

（外国人労働者災害:41人）



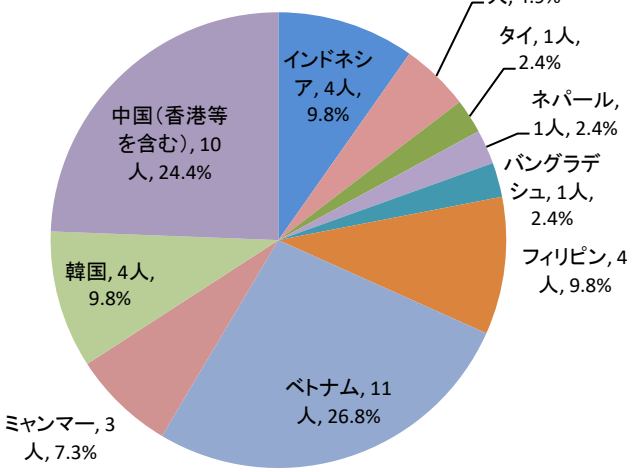
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
件数	24	26	22	22	41
災害総数	2,282	2,467	2,385	2,589	2,432
災害総数に占める割合	1.1%	1.1%	0.9%	0.8%	1.7%
外国人労働者数（各年10月末時点）	6,355	7,804	9,337	11,001	13,587



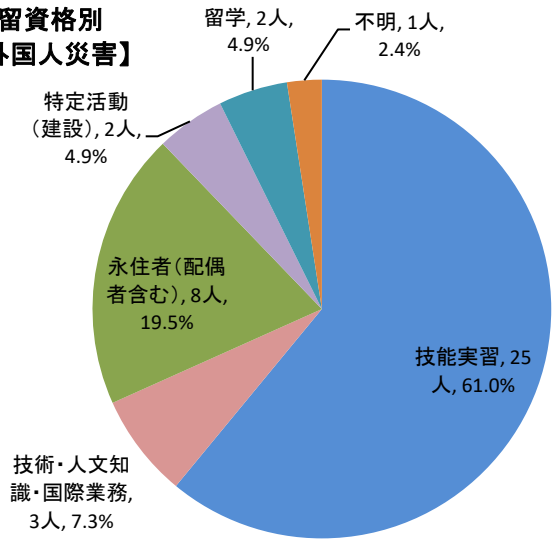


（外国人労働者災害：41人）

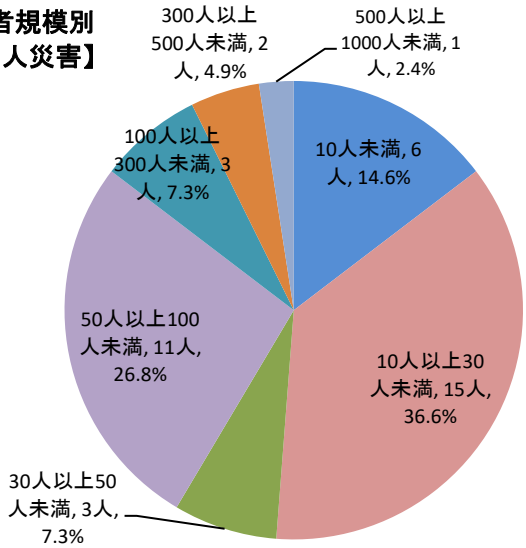
国籍別【外国人災害】



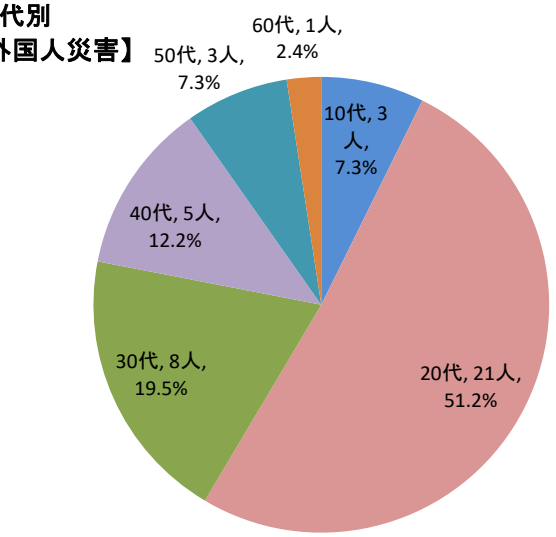
在留資格別【外国人災害】



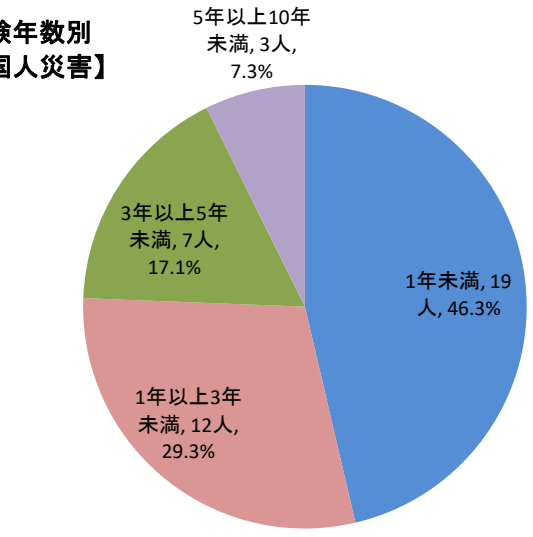
労働者規模別【外国人災害】



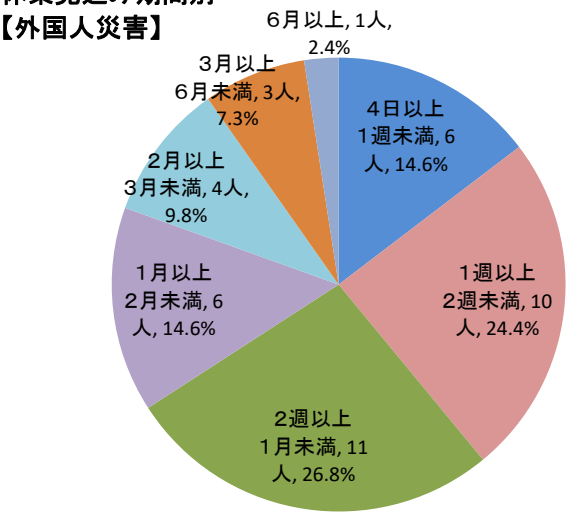
年代別【外国人災害】



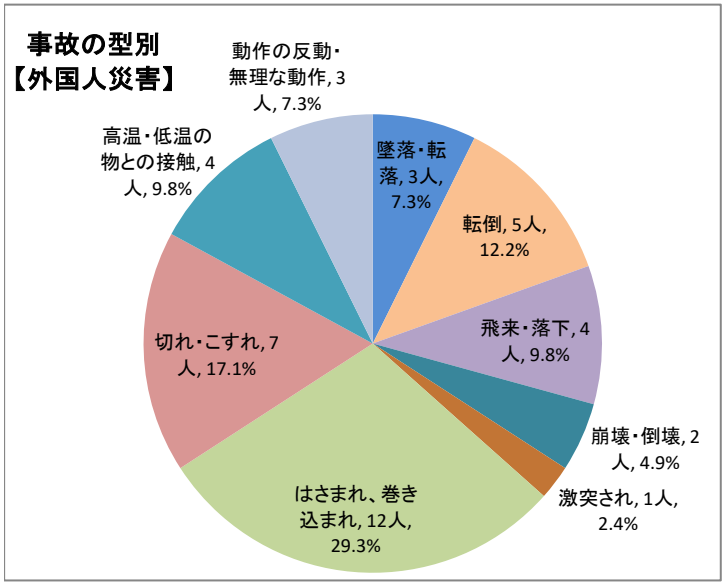
経験年数別【外国人災害】

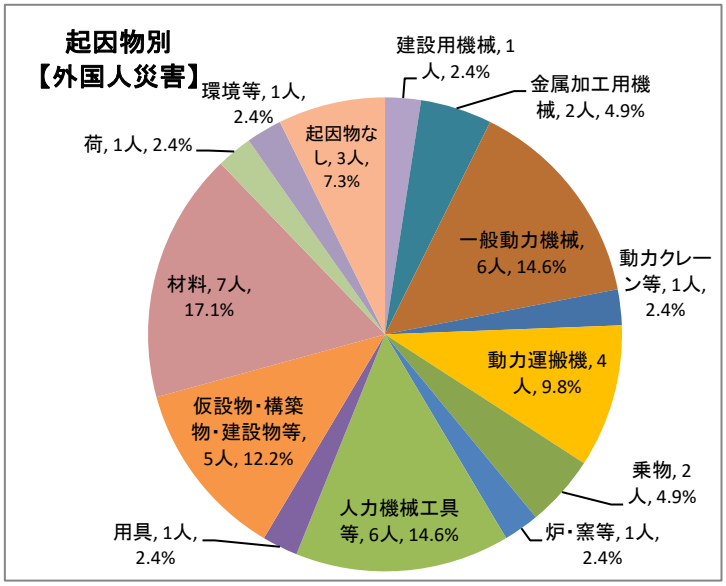


休業見込み期間別【外国人災害】



（外国人労働者災害：41人）





事故型 / 経験期間	墜落、転落	転倒	飛来、落下	崩壊、倒壊	激突され	はさまれ、巻き込まれ	切れ、こすれ	高温・低温物との接触	動作の反動、無理な動作	計
1年未満	1		2	2		5	6	2	1	19
1年以上3年未満	2	2	1		1	2	1	2	1	12
3年以上5年未満		1	1			4			1	7
5年以上10年未満		2				1				3
計	3	5	4	2	1	12	7	4	3	41

1. 発生件数は、前年比で19人（86.3%）増加している。、全労働災害に占める割合も1.7%と前年よりも0.9%増加している。
2. 業種別にみると、「製造業」が48.8%を占めており、また、29.3%は「食料品製造業」である。
3. 在留資格別でみると、「技能実習」が61.0%となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が46.3%を占めている。
5. 事故の型別では、「はさまれ、巻き込まれ」が29.3%と最も多く、次いで「切れ・こすれ」が17.1%、「転倒」12.2%の順となっている。
6. 経験年数「1年未満」の「はさまれ、巻き込まれ」、「切れ・こすれ」による災害が計11人と多くなっている。